

2025（令和7）年度
事業報告

社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園

目次

01 法人	1
02 垂穂寮	16
03 やまばと希望寮	19
04 わかば(もくれん含む)	23
05 みぎわ	29
06 ケアセンター花もも	31
07 ケアセンター野ばら	34
08 ケアセンターかたくりの花	37
09 ケアセンターコスモス	40
10 ワークセンターカサブランカ	43
11 ワークセンターなのはな	47
12 ワークセンターあさがお	50
13 ワークセンター希望の家(ふれあい含む)	53
14 ワークセンターやまばと	59
15 ワークセンターさくら	62
16 ケアセンターマーガレット	65
17 レタスクラブ	68
18 生活支援センターやまばと	71
19 聖ルカホーム(ショートステイ含む)	75
20 グレイス	81
21 相寿園	85
22 デイサービスセンター真菜	88
23 デイサービスセンターすずらん	91
24 ライフサポートさふらん	95
25 居宅介護支援事業所シャローム	98
26 牧之原市地域包括支援センターオリーブ	101
27 付属明細書	104

2025（令和7）年度 法人全体 事業報告

社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園

A 総括

牧ノ原やまばと学園は「誰もが人として尊重され、幸せを実感する人間関係」に価値を置き、そういう職場づくりや社会形成に努めているが、1年を振り返ると、職員育成や支援の充実、健全な経営等々の面で、なお多くの課題に直面していると気づかされる。

職員確保に関しては、年々厳しくなる人材不足に対応するため、外国人ワーカーの採用に努め、当年度もEPA生2名と特定技能2名を受け入れた。2026年3月末時点で、外国籍の方は合計14名（EPA5、特定技能6、日本人と結婚した方など3）となり、皆、良い働き人たちであり感謝しているが、福祉職員として一段と成長するよう、計画的に働きかけていく必要がある。（本文、項目【C】を参照）

残念だったのは、法人の重点目標の一つ、「ご利用者の人格の尊重」に反する行為が、二つの障害者支援施設で起きたこと。詳細は、別紙資料Dに記したが、原因として挙げられた「障害特性の理解不足」や、「孤立した職員の焦り」など問題点の解消に努め、「ご利用者が真に重んじられる施設」づくりに全力を挙げたい。

2025年度は、「中長期計画（やまばと未来計画）」の各グループからの提案・実践も加わり、例えば「創設者の志の学び」やパンフレット作成など多様な活動になったと言える。

一方、国内では長年続いた低金利政策が見直されようになった折から、当法人としては、長期借入金（変動利率の借入金のみ）を早期（4月）に返済することを決定。そのためにも、各事業所の金融資産を法人本部で一括管理する必要があると判断し、次年度からの実施に向け、必要な手続きを年度末から開始した。また、次年度からは、本部と各事業所との意思疎通を密にするため、面談による管理者会（隔月開催）に加えて、毎週1回オンラインによる短い管理者会を開催することも決定した。

不十分な私どもの働きにも関わらず、神の恵みと多くの人々の支えにより守られた1年だったことを感謝し、次の言葉をもって次年度へ引き継ぎたい。「素晴らしいアイデアは、一人の人間から生まれるのではない。多くの人々の対話から生まれるのだ」(S・ジョブズ)

B 2025度牧ノ原やまばと学園の事業概要

1 評議員、理事、監事の氏名と任期 (アイウエオ順・敬称略) 資料A-1

【評議員】(9名。任期は4年。2025年6月～2029年6月の定時評議員会)

池上千穂、太田雅子、柴田敏、杉本正、外岡潤、田島逸雄、早川ひろみ、山城厚生。 渡辺紀久子は2025年6月に退任し、新しく出水巖生が選任された。

【理事】(7名。下線は理事長。任期は2年。2025年6月～2027年6月定時評議員会)

姉崎弘、大石幸、佐々木炎、長澤道子、平井章、松田正幸、三浦賀世
(メンバーの変更なし)

【監事】(2名。任期は2年。2025年6月～2027年6月定時評議員会)

飯塚誉之、松浦隆雄 (メンバーの変更なし)

2 評議員会や理事会等の開催数

資料A-2

評議員会：計1回（定時評議員会）

理事会：計6回（対面の理事会5回と、書面による理事会1回）

評議員選任解任委員会：計1回

監事監査：業務監査も会計監査も、各2回実施

開催日時や内容等は、添付資料「資料A-2」を参照のこと。

3 2025年度の組織体制、実施事業、種別、責任者、職員数等：

計画に挙げた通りの事業を実施した。「資料B1、B2、B3」を参照。

4 2025年度に実施した主な研修：資料Cを参照。

5 2025年度牧ノ原やまばと学園 全職員の人数や勤務年数など：総数は419名 (2026年3月31日時点)

	正規職員 (179名)	準職 (22名)	嘱託 (13名)	パート (194名)	パ・利用者 (11名)	非正規 (計240)	職員総数 419名
男性(人数)	67	7	5	27	9	48	115
女性(人数)	112	15	8	167	2	192	304
平均年齢(才)	49.4	52.7	46.9	60.5	42.0	58.2	54.4
平均勤続年数 (年)	13.15 男 14.25 女 12.49	10.61 男 9.94 女 10.93	7.88	8.53 男 9.42 女 8.38	5.80	8.56	10.52

(注) パ・利用者とは、就労継続A型事業所の利用者で、法人の職員としても雇用された者

6 労務環境改善のための取組

(1) 一般事業主行動計画

① 当年度も、有給休暇の消化／育児休暇取得の奨励／ノー残業日を掲げた。

有給休暇取得率は、100%の施設から60%の施設までであるが、年々改善されている。

育児休暇取得：訪問介護事業所「ライフサポートさふらん」で、1名取得。

(2) 改正女性活躍推進法に定められた「女性の活躍」に関する情報公開

① 女性労働者に対する職業生活に関する機会の提供

・役員に占める女性の割合： 33.3%

・管理職に占める女性労働者の割合： 50%、（男性も女性も12名）

・男女の賃金の差異（女性平均賃金÷男性平均賃金）（2025年4/1～2026年3/31）

全労働者 70.6% 正規職員 87.8% パート・有期契約 89.0%

※データの背景：当法人では男女の報酬に違いはないが、入所施設（特に障害者施設）の支援員は、通所の職員や事務員より賃金が高く、支援員には男性が多い。

② 職業生活と家庭生活との両立に関する実績

・男女の平均継続勤務年数の差異：上の表（5. 職員数）に記載した通り。

(3) 労働施策総合推進法に基づく正規雇用労働者の中途採用比率(公表)

2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
88%	62%	86%	80%

(4) 育児・介護休業法に基づく男性労働者の育児休業等の取得状況 (公表)

	2023年度	2024年度	2025年度
育児休業等をした男性労働者数	3名	0名	0名
配偶者が出産した男性労働者の数	3名	0名	0名

C 2025年度の大きな出来事 (時系列に記載)

- 1 「ワークセンターコスモス」は、年度末をもって 作業所としての 45 年間の役割を終了。
2025 年 4 月から「生活介護」（ケアセンターコスモス）に種別変更。
- 2 当法人の就業規則を改正、2025 年度から公休日は 115 日に。最低賃金もさらにアップ。
静岡県 lowest賃金は、前年の 1,034 円から、さらに 1,097 円へ上昇した。(11 月)
- 3 6/7、新年度研修、講演：神戸聖隷・理事長水野雄二様「きっと大丈夫。私のキリスト教社会福祉」
講演は具体的で感動的な内容。当日は施設の活動報告やグループディスカッションも。
- 4 逝去した二人の女性から、法人に対して、合計 38,000,000 円の遺贈金、
老朽化した車両購入（9 事業所）のため。約 2 千万円を活用させて頂いた。感謝。
- 5 外国人ワーカーの増加
法人初の E P A 生セプティさんは介護福祉士資格取得後、7 月に帰国(4 年余滞在)。
12 月、インドネシアの E P A (女性 2 名)が障害者支援施設へ、やや遅れて同国の
特定技能(女性 2 名)が高齢者施設へ着任。年度末時点で外国籍の働き人は 14 名。
- 6 9 月 5 日、牧之原市や吉田町に、風速「75m/秒」の国内最大級の竜巻発生
法人と施設に被害はなかったが、停電を体験し「暑さ対策」に苦勞した。
全国から見舞金 720,727 円が寄せられ、被災した職員(24 名)のため、活用。
- 7 DX 学校 I T 導入士講座へ事務長等 4 名(山本、大石朋、門田、山内)派遣
法人内に「有効な I T 連携システム」を築くため、10 月 1 日～12 月末まで受講。
終了後、I T 導入士試験に、全員合格。受講生たちは業務省力化のため働き始めた。
- 8 1 月、障害者支援施設に 2 件の虐待案件が発生 詳細は、別紙、資料 D を参照
- 9 聖ルカホーム：3 ヶ月の訓練を経て「ユニットリーダー実地研修施設」の認定を受ける。
- 10 「やまばと未来計画(第一次中長期計画)による活動の広がり：「本文 E - 6」に記載

D 2025 年度事業計画に対する評価 (事業計画に記載された順に報告)

- 1 法人の 4 つの重点目標に関して
どれも引き続き取り組んでいかねばならない状況だが、特に「①ご利用者の人格の
尊重と、その願いに応える」は、2 つの障害者支援施設において虐待行為があった

ため（資料D）、評価は最低となり、改めて全員の宿題になったと言える。

2 法人と施設との連携・連絡体制について

隔週開催の経営会議や、月1回の施設管理者会、月1回の部会、数ヶ月に1回の事務部門会など、連携体制は定着し、かなり密な報告・連絡・相談ができた。が、その連携は、部門までに限定され、全体で共有する機会は少なく、また「経営状況（収支）」に関する共有の機会も少なかった。次年度からは全事業所の資産を本部で一括管理する予定なので、適切な管理・運用のため、本部は状況を公開し、各事業所は注意深くチェックする責任がある。又、施設管理者は、支援面だけでなく収支の面でも責任を担っているので「経営者」として成長する必要がある、そのようなニーズに応える連携体制を、次年度から具体化することが適切と考える。

3 利用者支援力アップのための取組み

聖ルカホームは介護技術コンテストへ参加予定だったが、コロナの発生で中止した。

4 理事長による管理者面談：諸々の事情で日程調整が難しくなり、実現しなかった。

E 「2025年度に実施すべき」とされたことについて

1 新給与規程や、公休数増加等に関する状況の調査と評価。

(1) 2025年度決算書は、「人件費 3,300 万円増」を示したので、今後見守る必要がある。

(2) アンケートによる調査はしなかったが、以下、職員たちの感想も含めた評価。

- ・基本給のアップは、職員にとっても、求人用の条件としても良かったと言える。
- ・公休数が 115 日となったが、必須の年休取得日「5 日」もあるので、計 120 日の有休となり、働きやすい環境になったと言える。一方、現場では職員数が減少しているため、適切な支援が行なわれているかを把握し、工夫する必要がある。

2 施設管理者会に関すること

- ・価値観について学び、話し合う：十分ではなかったが、ある程度の学びはできた。
- ・利用者支援や、施設運営に関する施設の取組発表：報告のような形で、時々実施。
- ・地域で活躍している方（行政、実業、牧師たち）から話を聴き、対話

6月に牧之原元市長・西原茂樹様、10月に静岡福祉大学学長増田樹郎様をお招きし、お話を伺った。管理者たちからは、「非常に有益だった」との感想。

3 聖書に耳を傾ける時の設定

全体メールによる聖句メッセージの送信は実施したが、「傾聴の時」は次年度へ持越。

4 事務統一検討会（理事長、事務局長、事務長、主任たちの会合）

当法人の施設は2市1町に散在のため、適切な統括についての結論が出ず、まずは、次年度から本部に、事務長2人を常駐（高齢者部と障害者部）させることを決定。

5 人材の確保・育成・定着

- ・法人主催の研修は、別紙 B-4 の通り。（そのうち、次の研修について説明。）

新人職員研修：年3回実施した。但し新人3名は、2名が離職し1名になった。

新人施設長研修：役割や経理等の学び。新人管理者（伊藤美和と畠夏実）出席。

交通安全講習会：講師は保険会社派遣。事故防止の意識が強まる内容。

- ・ 専門的研修や心が励まされる研修：法人内外の研修を活用し、ある程度実現。
 - ・ 求人活動のため、未来計画の「人材」や「支援」グループ関係者も、協力。
 - ・ 実習生には、宿泊・食事代は無料にし、必要に応じて送迎も実施した。
 - ・ ジョブリスティングによる広告は、相当のパソコンスキルが必要で、中断した。
 - ・ SNS等による発信（施設紹介）はしたが、特に「求人活動」は意図しなかった。
 - ・ 外国人ワーカーの確保・育成・定着に関しては、C-5を参照のこと。
- 6 「やまばと未来計画」各グループの取り組み：当年度は次のようなことを具体化した。
- <経営> 内部監査2回目の実施、書式の統一、作業のマニュアル化等
 - <人材> 学校訪問や人材セミナーへの参加。求人用パンフレットの作成
 - <支援> 各事業所の相談員が集う場を設定し、情報交換や交流
 - <研修> 創設期の機関紙・巻頭文をまとめて、メール送信
 - <建物・環境> 実際の被害を想定した防災計画と訓練／事業所BCPの見直し
 - <地域> 近隣市町の福祉計画を学ぶ（島田市の福祉計画について）

F リスク対応

1 有事に機能する防災計画と防災訓練

- ・ 各事業所では毎月、地震・津波・暴風雨等を想定した訓練、BCP策定にも努めた。
- ・ 全体防災訓練：水道。電気の中断を想定した訓練を実施。11月5日
※「原発災害避難計画」は、当年度も情報が少なく未実施。（相寿園のみ訓練）
- ・ ハザードマップの確認と防災対策：各事業所では危険箇所を把握し対応した。
- ・ 安否コールシステム：毎月1回以上、「安否確認訓練」を行った。
- ・ 本部のBCPの改定：防災と感染対策に関して、現実的でより良い内容にした。

2 感染状況

(1) コロナやインフルエンザ：マスク着用や手洗い等、予防に努めたが、感染者が出た。

感染者ゼロの施設：本部、わかば、もくれん、コスモス、さくら、レタス、
カサブランカ、なのはな、Wocやまばと、オリーブ、シャローム。

クラスター発生の施設と、その状況

希望寮	9月	30度以上の発熱（病名不明）、計21名（利用者18、職員3）
	2月	インフルエンザB型 計23名（利用者22、職員1）
垂穂寮	8～9月	コロナ 計37名（利用者31、職員6）
野ばら	9～10月	コロナ 計9名（利用者6、職員3）
みぎわ	9～10月	コロナ 計6名（利用者4、職員2）
かたくりの花	12月18～26日	インフルエンザ 計6名（利用者4、職員2）
聖ルカホーム	5～6月	コロナ 計18名（利用者9、職員9）

(2) 食中毒：発生しなかった。

3 サイバー攻撃やシステムダウン等に対する対策

- (1) データ消失対策：財務ソフトをクラウド化しバックアップの不安解消。高齢者部門支援記録ソフトのクラウド化。障害部門支援記録ソフトは、クラウド化ほぼ完了。

- (2) 安易に添付ファイルを開かないよう周知徹底した。
- (3) コンピューターウイルス「Emotet (エモテット)」感染の警戒を職員に通知した。

G 施設整備や環境整備に関する計画

各事業所の事業計画・該当箇所を参照のこと。

H 寄付金、収支状況、並びに、借入金返済計画

1 本年度の寄付金: 本部: 46,729,864 円、事業所計: 2,030,073 円

寄付金総額 48,759,937 円 でした。感謝してご報告します。

2 収支状況: 「期末支払資金残高」は、1,159,242 千円 (前年比 110,064 千円 増)

(単位: 千円)

(単位: 千円)

<事業活動>	決算	前年比
サービス活動収益	2,198,072	76,939
サービス活動費用	2,179,338	76,185
〃 増減差額	18,734	753

<貸借対象表>	決算	前年比
現金預金	975,356	105,143
積立金	943,422	△51,992
設備資金借入金	283,622	△128,635

3 長期借入金償還計画

聖ルカホームとワークセンターなのはなの、2025 年度末の借入金残高等は、下表の通り。

拠点区分	借入先	借入金残高	1 年以内償還額	利率	返済期間(借入開始)
なのはな	静岡銀行	50,180,000 円	50,180,000 円	—	2026 年度一括返済予定
聖ルカ	静岡銀行	63,838,000 円	63,838,000 円	—	2026 年度一括返済予定
聖ルカ	島掛信用金庫	298,240,086 円	14,617,271 円	1.100(固定)	30 年 (2014 年)

I 地域への取組み

1 地域に対する公益的取組: 下記のような活動を引き続き実施した (主なもののみ)。

- (1) 低所得者への利用者負担軽減制度事業の継続: 聖ルカ、グレイス、真菜
- (2) サロン参加者 (高齢者) への送迎協力: 本部、真菜、花もも、聖ルカ、WoC やまばと
- (3) 食糧支援活動: 真菜を中心に、全事業所が協力
- (4) 住民の買物支援のため、施設の車両の貸し出し: 垂穂寮、みぎわ、野ばら
- (5) 地域の清掃活動: なのはな、コスモス、かたくりの花、あさがお
- (6) 地域交流・支え合い事業: 「島田市まちなか保健室 (喫茶店で医師が相談)」や、「支えあいプロジェクト (地域の子どもの施設ご利用者が訪問)」を実施

2 委託事業の継続 (人手の面や財政面で困難もあるが、地域福祉推進のため継続)

- (1) 「包括支援センターオーリーブ」と「生活支援センターやまばと」の受託。
- (2) レタスラブ (心を病む人の居場所) の運営
- (3) 牧之原市の養護老人ホーム「相寿園」の指定管理の受託

3 地域行事への参加、施設行事へ招待、防災上の連携等 (垂穂寮を初め幾つかの施設で)

- 4 地域への発信（ホームページや、SNS等を活用したが、なお改善が必要）

J 主務官庁による監査

- 1 消防署立入検査：ワークセンターふれあい、9月22日、指摘事項ナシ
- 2 島田年金事務所：本部、11月21日、指摘（加入者要件に満たない者は脱退処理）
- 3 求職者雇用支援機構：本部、10月9日、指摘（手帳未確認の返金処理）
- 4 牧之原市運営指導：オリーブ、11月25日、指摘事項なし、助言（変更時のBCP更新）
- 5 県中部保健所立入検査：垂穂寮、12月12日、指摘なし、指導（異物混入リスク物は除く）

K その他

- 1 機関紙「やまばと」を、4月から翌年3月まで、隔月に6回発行した。
- 2 ホームページ：若者や求職者がアクセスしやすい形に変えたが、特に進展はなかった。
- 3 恵泉女学園中高生17名と教師2名の皆様が来訪。聖ルカ、相寿園、真菜、希望寮、垂穂寮、野ばら、WoCやまばと、なのはなの各施設で交流と実習（7月26～28日）
※ ボランティアの受け入れは、主として、各事業所に対応した。
- 4 やまばと希望寮等、リスクの多い土地に建つ施設の今後のことを考え、坂部小学校跡地を活用できないか（住民にも喜ばれる企画はないか）検討を始めた。（8月）
- 5 当年度実施した定期的な会合は、下記の通りである。

開催日・回数	名称	参加者	内容
毎月 2回	経営会議	理事長、6名の部長	施設運営に関する審議・決定
毎月 1回	管理者会議	理事長、事務局長、施設長、事務長	施設間の情報共有、意見交換
毎月 1回	3つの部会	各部長と各施設長が、右の3部会へ	高齢者部会／作業就労部会／生活ケア部会
毎月1回以上 (各グループが決定)	第一次中長期計画 (やまばと未来計画)	6グループ(各グループには、部長、施設長、副施設長、主任(選定))	経営、人材、支援、研修、建物・環境、地域の、各テーマについて検討・計画
毎月 1回	研修委員会	理事長、管理者、研修委員	新年度研修の企画と実施
毎月 1回	編集委員会	理事長、管理者、編集委員	機関紙内容について企画
年2回	全体防災委員会	理事長、管理者、防災委員	防災対策、訓練計画、情報共有
年2回	苦情解決委員会	理事長、管理者、苦情解決委員	第三者委員も出席／苦情の学び
年2回	事故防止委員会	理事長、管理者、事故防止委員	事故の検証と予防対策
年2回	全体虐待防止委員会	理事長、管理者	2月、7月、施設管理者会にて。
年2回	事務合同検討会	理事長、事務局長、事務長、事務主任	2部門合同、年間予定や、業務の確認
年1～2回	全体事務連絡会	事務局長、2部門の事務長、事務員	事務に関する情報共有、連絡
隔月	栄養士会	部長、栄養士	各施設の給食状況、目標設定
年に1階	看護師会	理事長、部長、看護師	感染防止、健康管理など情報共有

(以 上)

役員と評議員、選任・解任委員の名簿

◎評議員名簿

任期：2025(令和7)年6月14日～2029(令和11)年6月
2026年3月31日現在

区分	氏名	役職その他
評議員	池上 千穂	東部特別支援学校副校長
評議員	出水 巖生	浜松市北障がい者相談支援センター相談員
評議員	太田 雅子	聖隷クリストファー小学校校長
評議員	柴田 敏	静岡英和学院大学短期大学部教授、前静岡英和学院院長
評議員	杉本 正	牧之原市社会福祉協議会会長
評議員	外岡 潤	弁護士法人おかげさま代表弁護士
評議員	田島 逸雄	吉田町社会福祉協議会会長
評議員	早川 ひろみ	元牧ノ原やまばと学園職員
評議員	山城 厚生	島田市社会福祉協議会会長

◎理事・監事名簿

任期：2025(令和7)年6月14日～2027(令和9)年6月
2026年3月31日現在

区分	氏名	役職その他
理事長	長澤 道子	社会福祉法人牧ノ原やまばと学園理事長
理事	姉崎 弘	九州女子大学教授
理事	大石 幸	聖ルカホーム・ライフサポートさふらん施設長
理事	佐々木 炎	NPO法人ホッとスペース中原理事長、牧師
理事	平井 章	前十字の園理事長
理事	松田 正幸	牧之原市地域包括支援センターオリーブ施設長
理事	三浦 賀世	元静岡県立高等学校教諭
監事	飯塚 誉之	元島田掛川信用金庫常務理事、元支店長
監事	松浦 隆雄	元牧ノ原やまばと学園職員、元静岡県庁職員

理事長以外、区分毎にアイウエオ順

◎評議員選任・解任委員名簿

任期：2025(令和7)年6月14日～2029(令和11)年6月
2026年3月31日現在

区分	氏名	役職その他
外部委員	内藤 美奈子	元評議員・元教育委員
外部委員	山田 静夫	日本キリスト教団榛原教会牧師
監事	飯塚 誉之	元島田掛川信用金庫常務理事、元支店長
監事	松浦 隆雄	元牧ノ原やまばと学園職員、元静岡県庁職員

1 理事会開催状況 (2025年7月7日の理事会は、書面理事会)

資料A-2

開催日	出席者(内、ZOOM参加者)数		議 案
	理事 ※定数は7名	監事 ※定数は2名	
2025年 5/24	7名(3)	2名(0)	監事監査報告/2024(令和6)年度事業報告(案)並びに決算(案)/次期評議員候補者の推薦について/評議員選任・解任委員会の招集について/理事及び監事候補の推薦について/役員等報酬規程の変更について/定時評議員会の招集について/評議員選任・解任委員会の次期委員の選任について/高額な寄付金の受領について/給与規程の変更について/パートタイマー等の就業規則の変更について/育児・介護休業等に関する規程の変更について/就業規則の変更について/定款に記された「キリスト教精神に立って事業を行う」内実化のための提案
2025年 6/14	7名(3)	2名(0)	理事長の選定について/招集権者の選定について/相寿園の給食業務委託契約について
2025年 7/7	(書面) 7名	(書面) 2名	(書面理事会) 管理者人事「ケアセンターコスモス施設長の交代」
2025年 9/13	6名(3)	2名(0)	監事監査報告に対する回答について/2025年度第1次補正予算案について/育児・介護休業等に関する規程の変更について/パートタイマー等の時給アップと就業規則の変更/聖ルカホーム・聖ルカショートステイ・グレイスの2026年度からの給食業務委託契約について/牧之原市坂部小学校の利用計画について
2025年 12/13	6名(2)	2名(1)	定期監事監査報告について/2025年度第2次補正予算案について/就業規則の変更について/奨学金返還支援制度規程の制定、並びに、給与規程の変更/パートタイマー等の就業規則の変更について/ワークセンターふれあい定員の変更について/垂穂寮生活介護の定員の変更について/聖ルカホーム・聖ルカショートステイ・グレイスの2026年度からの給食業務委託契約について/「ほのぼのシステム」のクラウド化について/2026年度における管理者人事について
2026年 3/14	6名(2)	2名(0)	2026年度に関する役員賠償責任保険の契約について/定期監事監査報告に対する回答について/各拠点区分積立金の目的外使用、及び、法人本部による資金の一括管理について/相寿園拠点区分前期未支払資金残高の取崩しについて/旧デイサービスセンター真菜建物取壊しの延期について/2025年度第3次(最終)補正予算案について/2026年度における管理者人事について/長期借入金・返済計画変更の件/2026年度事業計画(案)、予算(案)について/経理規程の変更について/パートタイマー等の就業規則の変更/出張旅費規程の変更について/給与規程の変更について

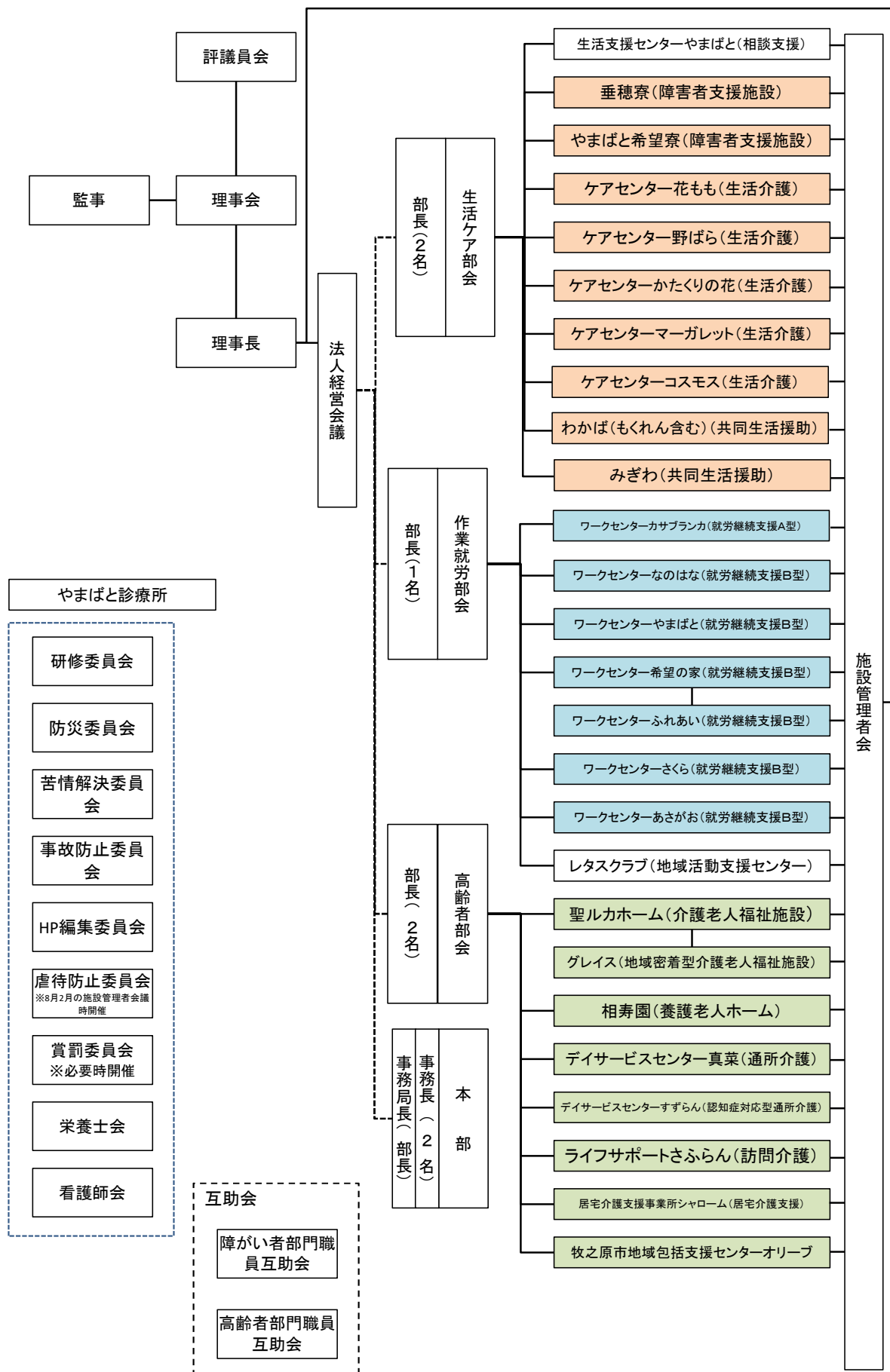
II 評議員会の開催

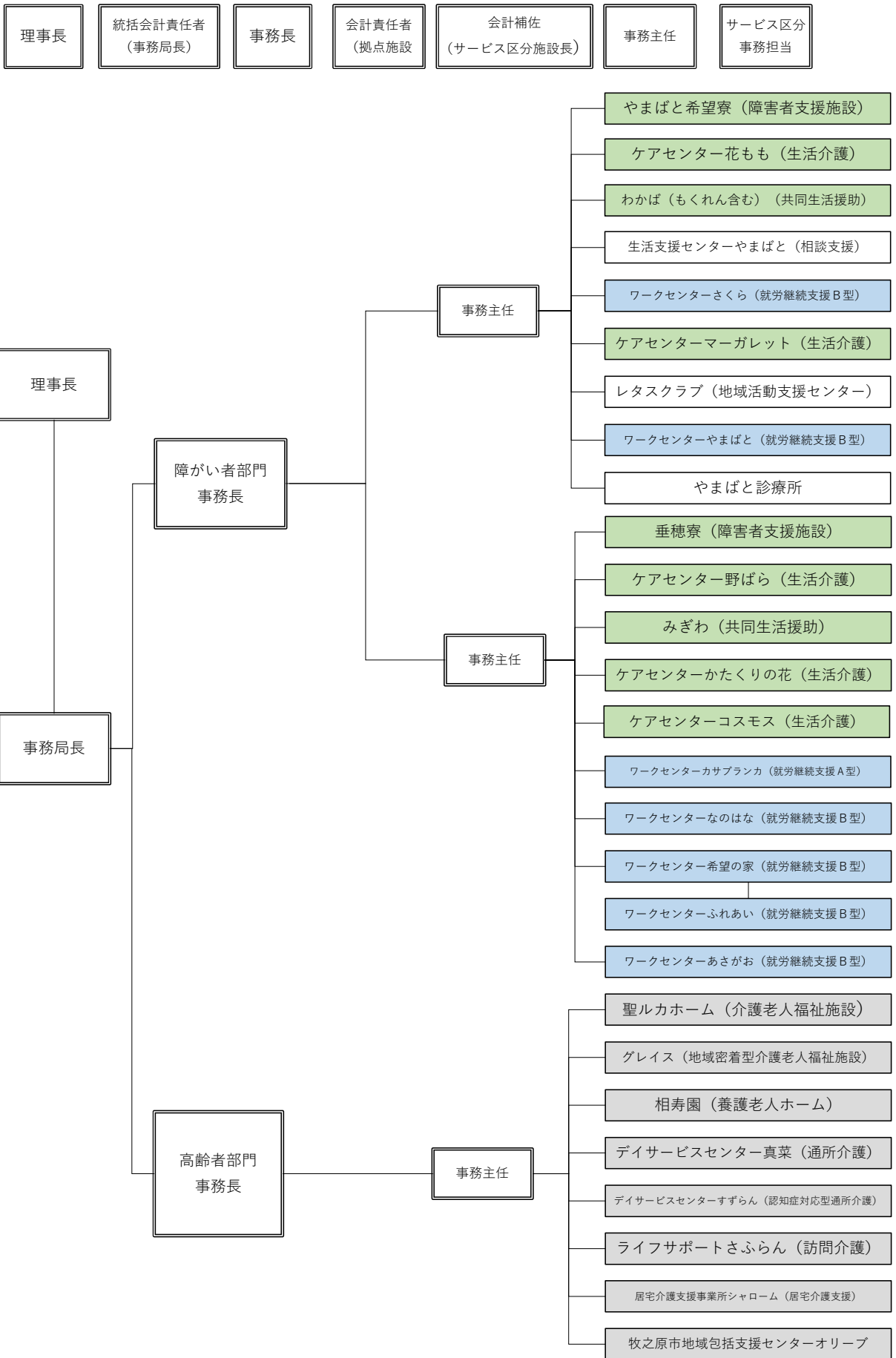
開催日	出席者(内、ZOOM参加者)数		議 案
	評議員 ※定数は9名	説明役員	
2025年 6/14	8名(3)	理事 1 監事 2	7名の理事候補者の承認について/2名の監事候補者の承認について/2024(令和6)年度計算書類(貸借対照表及び収支計算書)及び財産目録(案)の承認について/役員等報酬規程の変更について

III 評議員選任解任委員会の開催

開催日	出席者(内、ZOOM参加者)数		議 案
	委員 ※定数は4名	説明役員	
2025年 6/3	4名(0)	理事 1	評議員の選任について

(以上)





2025年度 事業所と事業所責任者名簿 (2026年3月末時点)

事業所名	責任者名	内容や種別	定員	在籍	職員
本部事務局	板倉 仁	事務・財務の統括			4
やまばと希望寮	大畑 彰弘	障害者支援施設	30	31	30
垂穂寮	石川 忠昭	〃	50	44	46
ケアセンター野ばら	伊藤 美和	生活介護	20	20	13
ケアセンター花もも	桑原 裕子	〃	20	19	12
ケアセンターかたくりの花	渡邊 千恵子	〃	20	20	15
ケアセンターマーガレット	田澤 岳大	〃	20	19	10
レタスクラブ	河本 敦子	地域活動支援事業		不特定	4
ワークセンターカサブランカ	澤渡 繁	就労継続支援 A 型	15	11	※17
ワークセンターやまばと	島 夏実	就労継続支援 B 型	20	18	7
ケアセンターコスモス	石川 忠昭	生活介護	20	15	8
ワークセンターなのはな	西村 美恵子	就労継続支援 B 型	30	30	11
ワークセンターあさがお	石神 知之	〃	20	18	9
ワークセンターさくら	河本 敦子	〃	20	16	8
ワークセンター希望の家	原 絵梨	〃 (主たる事業所)	20	21	8
ワークセンターふれあい	原 絵梨	〃 (従たる事業所)	15	13	4
みぎわ	杉山 勝拓	共同生活援助	10	10	9
わかば	高杉 和成	〃	10	10	9
もくれん	高杉 和成	〃	10	10	12
生活支援センターやまばと	大畑 彰弘	相談支援事業			9
聖ルカホーム	大石 幸	特別養護老人ホーム	70	70	75
〃 短期入所	大石 幸	特養短期入所部門	10		
グレイス	片山 喜之	地域密着型特養ホーム	29	29	30
相寿園	柴田 慎也	養護老人ホーム	50	25	20
デイサービスセンター真菜	吉田 陽子	通所介護	39	日替り	18
すずらん	米山 千穂	認知症対応通所介護	12	日替り	8
地域包括支援センターオーリーブ	松田 正幸	調査、相談、権利擁護等			9
ライフサポート さふらん	大石 幸	訪問介護事業			10
居宅介護支援事業所シャローム	栗林 真弓	ケアプラン作成所			2
やまばと診療所	赤堀 由砂	保険医療機関			2
合 計 ⇨				449	419

★ カサブランカご利用者 (11名)は、本部と雇用契約を結んでおり、職員としても計上。

★ 「コスモス」の種別を2025年度から生活介護に変更。

職員育成のため実施した研修

- 対象は法人職員 ● 各事業所で実施した研修や、外部研修は除く、

日時	研修名	講師	内容	参加者数
4月 1日	第1回新入職員オリエンテーション	理事長 長澤道子 他 6名	創立の精神や歴史、 就業規則等の学び	13
4月 7日	決算業務研修	社会保険労務士はぎわら 事務所 萩原信宏氏	決算実務にあたり注意することなど	23
4月 23日	新任管理者研修	理事長 長澤道子／部長 河本敦子／事務長山本瑞	初任管理者として必要な 基礎知識の習得	2
5月 16日	新卒職員研修 (1回目)	理事長 長澤道子 部長：松田正幸／石川忠昭	理念の学び、施設見学、 本人の近況報告や上司の助言等	3
6月 7日	新年度研修	川崎一路牧師 水野雄二理事長	キリスト教社会福祉とは	109
6月 13日	カスハラ対策と 会計の学び	外岡潤弁護士 武田竜太郎弁護士	カスハラ対策と、会計の学び	33
8月 21日	交通安全研修	あいおい損保から 派遣された講師	交通安全研修 (事故を起こした職員は受講必須)	30
9月 11日	労務研修	みとら経営 山本潤平社労士	育児介護休業法改正のポイントほか	42
10月～ 1月	I T導入・ D X研修	コハマ井口恵理子さん コハマ清田さん	I T導入・D X研修	5
10月 7日	第2回新入職員 オリエンテーション	理事長 長澤道子 他 6名	創立の精神や歴史、 障害や高齢の 特性、 就業規則等の学び	8
10月 10日	新卒職員研修 (2回目)	理事長 長澤道子／ 部長：松田正幸／石川忠昭	理念の学び、施設見学、近況報告と先 輩職員の助言等	2
11月 28日	中堅職員研修	朝日テレビアナ 石田和外氏	円滑なコミュニケーション	22
2月 20日	労務研修	みとら経営 山本潤平社労士	職員を守り、選ばれる法人	32
3月 6日	新卒職員研修 (最終回・3回目)	理事長 長澤道子／ 部長：松田正幸／石川忠昭	理念の学び、施設見学、近況報告と先 輩職員の助言等	1
3月 4日	防災研修	静岡県立大学 鈴木俊文教授	牧之原市の竜巻被害から学ぶ 防災対策	35

(1) やまばと希望寮 (1/8 発生)、該当職員 A：高齢者施設退職後、希望寮へ。1 年目。

<内容>

9：39 頃、ホールの手洗い場で、ご利用者 B 様が蛇口ハンドルを取り外し、他の水道蛇口に取り付けて水を出す行為（B 様にとっては水遊び）をしていた。職員 A はそれを制止するため、B 様の左腰付近を自分の右足で蹴って押した。

<虐待検討委員会における職員たちの意見>

- 着任当初から「ご利用者に挨拶しない」「声かけせず行動」など不適切な支援が見られたためリーダー職員らが繰り返し改善を求めてきたが効果なかった。
 - 仲間とのコミュニケーションが希薄で、孤立傾向が強まり、イライラを誰にも相談できず、そのまま利用者様に向けたと思われる。
 - 不適切な支援を見かけたら、放置せずに必ず一声かける。あきらめずに声をかけ続ける。自分ができない場合は、必ず周りの職員や上長に相談する。
 - 施設長とリーダー職員は不適切な支援の職員に必ず声をかけ、注意し続ける。
 - インカムを多用し、助けを求めやすくする。
 - 普段からコミュニケーションを持ち、仕事を円滑に進める。
 - 「利用者様に挨拶できない職員」は最初から受け入れないほうがよいのでは。「彼には良い面もある」と弁護するよりも、早めに適切な道を紹介すべきでは。
- ※ちなみに、職員 A は、事件のあと、自ら退職した。

(2) 垂穂寮 (1/12 発生)、該当職員 C：垂穂寮 3 年目。日頃にご利用者に親しく対応。

<内容>

この日、ご利用者 D 様は、たえず大声で叫ぶなど不穏な状態だったが、歯磨き後も居室入口で大声を出し続けていた。夜勤の C 職員は D 様には居室に入って頂いたほうがよいと考え誘導したが、なかなか入ってくれないので、前方からやや強めに押したところ、D 様はバランスを崩し転倒。扉に額を打ち付けコブができた。

当該職員から事故報告書が提出され、発生要因として職員の気持ちに苛立ちがあったとの記述があったため、1/13 (火) 施設長が確認。単なる事故ではないと受け止め、1/14 (水) 16：30、臨時虐待防止委員会開催。副施設長、各部門代表者が出席し検討。虐待の疑いがあると判断し、法人、行政に報告した。

<虐待検討委員会における職員たちの意見>

- 大声を出し続ける D 様の訴えの内容がわからずイライラが募ったのだろう。
- まだ施設内に残っていた職員もいたので、助けを求めることもできたのに、
- 最近、新規利用者が増え、その対応もあって心に余裕がなかったかもしれない。
- D 様は、職員 C なら自分の訴えを聞いてくれそうだと思い、訴え続けたのかも。

- D様については、実はお気に入りの衣類があまりにも汚れたり破れたりしていたので、複数の職員でこっそり処分したのだった。「私の衣類はどこに行った？」という訴えだったかもしれない。その引継ぎがなされなかったのは問題だ。

法人としての反省など

- ◆希望寮における出来事を読むと、この職員は、通常のコミュニケーションマナーさえ身につけていなかった人のように思われる。そうなった背景には、もしかして同情すべき辛い過去があったのかもしれないが、当法人の職員として働くためには、少なくとも、ご利用者への温かい気持ちを抱いていることや、一定以上のコミュニケーション能力が求められる。彼は結局退職することになったが、退職後、とにかく働かなくてはという思いで異動願いを出した本人を、こちらも安易に受け入れたきらいがある。異動に当っては、本人と改めて面接し、退職した経緯等も聞き、復職（障害者施設）する思いなどを、確認する必要があったとも思われる。
今回のケースに限ったことではないが、今後は、適性検査の活用もしたほうがよいことがあるだろう。

- ◆垂穂寮における出来事は、それ以前に、職員たちが重大なミスをしたことと関連しているので、このミスについても、しっかり認識し、二度と発生しないよう努めなければならない。ミスというのは、「個人の持物は、誰の物であっても勝手に処分することは許されない」に違反したことで、「D様の衣類を職員たちが勝手に処分した」ことは、責任を問われるべきことである。
もし、職員たちが勝手にD様の衣類を処分することがなければ、D様はわめくこともなく、虐待行為も起きなかったかも知れない。
そういう意味では、職員Cは、とんだとぼっちを受けたとも言えるが、イライラさせられる状況の中でも、職員は、ご利用者に丁寧に対応することが求められている。
感情が限界に達しそうな場合には、周りの職員に助けを求め、少しの間でも勤務を交代できるような仕組みはできないものか、今後、施設の取組みを見ていきたい。

2025（令和7）年度事業報告

障害者支援施設
垂穂寮

A 2025年度の目標と実践に関する振り返り

1 事業所の2025年度事業計画に関する報告（総括）

自閉症支援と介護技術の両面から、より専門的な知識や技術を習得するために外部研修や他施設の見学、高齢者施設への実習を積極的に実施した。特に自閉症支援に関しては、自閉症 e サービスに基づいた研修での学びをご利用者支援への実践に活かしたことで、また、介護の知識に関しては高齢者事業所経験のある職員が講師となり研修を実施したことで、職員全体に認知症についての理解を深めることができた。

虐待防止に関してはその取り組みとして計4回、全職員向けに動画視聴、サービス提供指針、アンガーマネジメント、リフレーミング等について、集合と書面アンケートによる研修を実施した。研修の頻度としては2024年度よりも数多く実施できたものの、1月にご利用者を前方から押し転倒させてしまうという虐待事案が発生してしまった。虐待事案を振り返る中で、職員の心の余裕のなさや相談しやすい雰囲気づくり、負担が大きい業務についてはフォローに入ることができる体制づくりの必要性が確認された。また、呼称を徹底することやご利用者の意思確認の浸透など、虐待の芽となりうる職員の姿勢も見直さなければならないことを反省した。

2 理念に基づいたサービス提供

ご利用者のやりたいことの実現をするべく、個々のご利用者のニーズに合った外出を実施した。また、大津ふれあい祭りや島田市のインクルーシブスポーツパーク、オレンジマラソン大会等の地域行事にも積極的に参加することができた。これらは地域とのつながりをこれまで以上に持つことができた貴重な体験でもあった。

3 法人の当年度重点計画との関連

大津買い物支援による車両提供、車いすステーションは昨年度より引き続き実施した。地域生活支援拠点の協定に基づき、緊急時のご利用者の受け入れも積極的に実施した。緊急で受け入れた方は台風や火災で自宅を失った方、ご家族の急病、家庭内虐待がその主な理由であったが、同時に地域ニーズの高い短期入所についてもその利用率が前年度を大きく上回る結果（前年度14.5%）となった。

B 利用者と職員の状況

1 利用実績（2025年3月31日現在）

	定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	1日平均	利用率
施設入所支援	50	44	-6	365	15168	41.5	83.1%
生活介護	40	42	+2	269	8879	33	82.5%
ショートステイ	4	16	+12	365	1037	2.8	70.8%
日中一時支援		3	-1		36	0.1	3.3%

2 施設入所支援利用者障害程度区分（2025年3月31日現在）

区分3	区分4	区分5	区分6	平均区分
0	1	8	35	5.8

3 職員状況（2025年3月31日現在）

	施設長	副施設長	サビ管	生活支援員	看護師	栄養士
実人数	1	1	1	33	2	2
常勤換算人数	0.9	0.5	1	26.3	1.5	2
増減	0	(0)	0	-0.7	+0.6	0
	調理員	事務員	業務員			合計
実人数	6	1	1			47
常勤換算人数	4.2	1	0.4			37.8
増減	+0.1	0	+0.4			+0.02

4 残業、有給休暇取得状況

職員の総残業時間は1924時間55分であり、前年度に比べ約1027時間の減となった。会議を日中実施したり、人員が補充されたりしたことによる影響が大きい。有給休暇取得率は55.5%であり、前年度61.7%であったことと比べると取得率は低

下した。ただ、前年度は体調不良による長期休暇や途中退職による有給消化があったこともあり、その取得に偏りがみられていた影響もあると思われる。

5 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

各ケース会、チーフ会、ケース検討会、運営委員会、寮全体会を毎月又は毎月に近い形で開催した。

内部委員会としては、虐待防止委員会、給食委員会、研修委員会、感染症対策委員会、身体拘束委員会を開催した。

外部委員会としては、法人関係の防災、事故、苦情に関する委員会に出席した。

法人外としては、行政（県、市）の自立支援協議会や強度行動障害関連、地域のケース会議、社会福祉協議会評議委員会、県福祉協会、志太榛原施設連絡会等に出席した。

C 利用者の喜びのために工夫したこと

コロナの影響で控えていた個別外出を再開し、昼食をカフェで食べたり、蓮華寺池公園での散策、そらっと牧之原や門出大井川等に出かけ、通常とは違った時間を楽しみ、地域生活の体験を積むことができた。行事に関しては例年通り、秋祭り、クリスマス会を実施したほか、春先には中庭の桜を満喫しながらのたりほ祭りを開催した。

5月には、やまばと学園の初代園長、宮崎道子氏を含む旧職員10数名を招き、交流会を実施した。

D 職員の喜びや成長のための実践したこと

1 同じ目標を認識するためのプログラムについて

4つあるケースチームを、自閉症支援中心のチームと介護技術中心のチームをそれぞれ2チームずつに分けた体制で運営を行ってきた。自閉症支援の職員は、自閉症に関する研修に積極的に参加し、実践に結び付けた。介護後術の職員は高齢者施設での実習や介護に特化した施設の見学、介護技術の個別指導等を実施してきた。

「つながり」をより強く意識し、人が集まる施設となることを目指すには何が必要かを職員面談等で確認しつつ、運営委員会にて3か月に1回程度事業計画の進捗状況を確認した。

2 楽しい職場づくり、チームワークの形成について

職員の親睦会の開催、2か月に1回の寮全体会を実施した。

大きな行事は各ケースが担当となり、準備、運営を行った。

3 研修報告

(施設内研修) 救急法、介護技術、認知症支援、アンガーマネジメント、ABA研修、セルフケア、身体拘束研修、事例検討、感染症初動対応、事故防止、BCP研修

(法人内研修) 新人研修、新年度研修、リーダー研修、労務研修

(法人外研修) ABA研修、県知協研究集会、自閉症eサービス、障害特性理解、権利擁護、虐待防止講演会、JICWELS (EPA生)

(施設実習) グレイス、聖ルカホーム

(施設見学) 天竜厚生会浜名、ワーク金谷

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

昨年に引き続き、大津地区社協買い物支援のため、毎月1回車両の提供を行っている。

また、12月には島田市の自立支援協議会が主催するにこにこクリーン作戦に職員2名、利用者2名が参加し、島田市役所周辺の清掃活動を行い、一般市民や他事業所の方との交流もできた。その他大津地区で開催された夏祭りやふれあい祭りにも参加し、自前の給食を生かしたカレー販売をはじめ、利用者自身も祭りへの参加ができた。

地域連携推進会議を8月に開催し、島田市障害福祉課、島田市社協、アクシア藤枝、大津地区自治会、保護者会等、各々の代表者を招き、施設見学に加え、施設の取り組みについて報告し、意見交換を行った。

F 家族との連携、交流、連絡など家族との連携、交流、連絡など

家族だより「みのり」を毎月発行して、情報提供に努めた。内容は担当から利用者の最近の様子、ケースチームごとに写真、各部門からの連絡事項等をお知らせしている。また、重大事故や虐待報告等も併せて行った。3月末には事業所の理念、環境、職員の接遇等について問うご利用者本人・家族アンケートを実施した。

大きな行事には家族も招き、行事食を一緒に楽しむこともできた。

G 苦情とその対応に関する報告

精神薬の調整に関して、家族の同意がなく増量となったことについての苦情が1件あった。後日嘱託医からご家族に対しての説明の機会を設け、ご家族の理解を得られることになったが、その背景には、支援と看護の部門間の捉え方の違いや家族への密な報告が不足していたことも要因としてあった。改善に向け取り組んでいくことを確認した。

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告

- ・事故 117 件（骨折、転倒、他害、薬関係、自傷、物損、異食）
- ・ヒヤリハット 40 件（転倒、他害未遂、物損、薬関係、窒息未遂）
- ・虐待 1 件（身体的虐待）
- ・身体拘束 2805 件（居室施錠、繋ぎ服、4点柵、車いす2点ベルト）

骨折事故と虐待については行政報告を行った。骨折事故に関しては2件あり、それぞれ足の指を骨折された方と上腕を骨折された方であった。いずれもはっきりとした原因は不明であるが、車いすご利用者との接触や職員が目が届かないところでの転倒が考えられた。虐待に関しては、夜勤職員が大きな声を上げている利用者の訴えが理解できず、次第にイライラし、前から押した結果利用者がバランスを崩し転倒してしまうといった経緯であった。職員本人からの報告によるものだったが、臨時の虐待防止委員会を開催し、虐待の疑いがあることを確認し行政に報告した。

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況との関係などの報告

毎月1回開催（火災想定、地震想定）。防災倉庫の備品確認は年1回行っている。今年度も通常の防災訓練に加えて、BCP発動時の動きについて訓練を行った。9月に竜巻被害にあった法人内の施設に発電機や扇風機等を貸し出した。春には駐車場や中庭にテントを組み立て、災害用ガスユニットを使った炊き出しを行った。

J 環境整備（100万円以上の修繕や改装など）

非常用防災設備が不具合を生じ誤作動を起こしたため交換工事を行った。また、貯水ポンプも故障し水が出なくなってしまうこともあり、交換工事を行った。いずれも建築後26年が経過しこれまで一度も交換してこなかったことによる経年劣化によるもの。

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支状況（事業活動）

科目	2025年度	2024年度	増減
サービス活動収益計	289,422,230	285,060,355	4,361,875
サービス活動費用計	280,905,923	259,298,405	21,607,518
経常増減差額	9,110,875	25,966,260	△16,855,385
特別増減差額	△180,454,895	△14,478,031	△165,976,864
当期活動増減差額	△171,344,020	11,488,229	△182,832,249

※サービス活動収益の内、寄付金収益（597,780円）

特別増減差額については、年度末に積立金を取り崩し法人本部に繰り入れたことによる。

2 借入金償還状況 なし

L 主務官庁に関連した報告

職員による虐待行為に関し、経緯とその後の対応について島田市に行政報告した。8月に新型コロナのクラスターについて第4報に渡り報告した。

M 実習生やボランティアに関する報告

ボランティア 調理：内藤せき様 洗濯：大石節子様 恵泉女学園先生と生徒
実習生：【ソーシャルワーク実習】静岡福祉大1名、日本福祉大1名
【介護実習】清流館高校4名 【保育実習】常葉大2名、浜松学院短大1名
見学：静岡大施設見学（木下教授、ゼミ生（5名））

N その他

8月に新型コロナウイルスのクラスターが発生した。利用者と職員合わせて47名が罹患した。発生から終息まで19日間を要した。

4月当初は入所利用者41名でのスタートとなったが、7月に新規利用者として1名迎え入れ、その後緊急受け入れ利用者がロングショートから入所利用者として移行し、3月末には44名の入所利用契約数となっている。

A 2025 年度の目標と実践に関する振り返り

1 2025 年度事業計画に関する報告

(1) 全体について

利用者のしあわせ、職員のしあわせ、地域のしあわせをキーワードに1年を通して事業を進めた。特に研修では、それぞれのしあわせをテーマにグループワークを行い、参加者がイメージしたものをまとめ、成果物（しあわせマップ）として残すことができた。

「整理・整頓」は前年度に比べて更に進み、特にコスモス等関連の倉庫が進んでいる。また、「繋がる、伝わる」については、インカムの導入により、職員間のコミュニケーションや情報伝達が活発になったものの、短期入所の忘れ物を含む事故件数の減少といった成果には結びついていない。

(2) 支援部門について

「アセスメント」については、前年度に引き続き聖隷クリストファー大学篠崎先生による PEIP 研修を行い、出来ること・健康・環境等を多角的に見ることを意識して支援計画につなげることができた。また、「統一した支援」については、業務マニュアルと支援手順書の見直しに取り組むことができたが、支援の統一は課題として残っている。

(3) 看護部門について

「健康維持、異常の早期発見」は日中活動の励行に取り組んだが、気温変動の影響で散歩や日光浴の時間が短縮されたため、衣類等の調整に努めたものの、8月に風邪、2月にインフルエンザBが流行した。その都度適切な対応はできたものの、活動量の低下が抵抗力に影響したようだ。「整理整頓」では、歩行器等の定位置管理が定着した。また、「感染予防」では手洗いチェックを年2回実施し嘔吐物処理の個別指導を行った。

(4) 調理部門について

「報連相をしっかりと」については、委託業者と職員の間に入り、しっかりと報連相ができた。「整理整頓」については、まだまだ不十分なところがあった。防災食を3日分から5日分に増やすため、しっかりと管理していきたい。

(5) 相談部門について

「ケア会議の充実」については、会議の開催頻度が向上したことから利用者理解が深まったが、課題は残ったままと感じている。「つなぐ・支える」については、利用者、家族、職員間の情報交換や伝達を意識して行った。結果、地域交流が活性化し、ショートステイ、日中一時利用の増加し、地域の方が参加する秋祭りも盛況だった。

(6) 事務部門について

「事業運営が更に円滑になる」については、事務担当者が現場職員等に対し積極的に声掛けを行い、円滑なコミュニケーションの促進に努めた。また、ご家族との連絡については、代表メールの管理者として橋渡し役を担い、メール連絡を希望されるご家族とのやり取りを円滑に行うことができた。

2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告

「利用者主体のサービス（支援）の提供」については、前年度に続いて、アセスメントの充実を図るための研修、AIによる個別支援計画案の作成を行い、利用者の意向の把握を通して、ニーズに基づいた支援の提供に努めた。ただし、一人ひとりの特性に応じた「利用者主体」の支援の提供については課題が残る。

3 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告

「自分の成長を実感でき、働きやすく楽しい、秩序ある職場づくり」については、職員一人ひとりの成長支援と職場環境の更なる向上を目指して、昨年度同様にすべての職員の研修機会の提供と施設長面談を実施、計画的な人材育成と組織運営に取り組むことができた。また、アンケートで上がってきた月間業務目標を掲げ、PDCA サイクルを回して最低限のルールを守ることを進めることができた。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

	定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	1日平均	利用率
施設入所支援	30	31	-1	365	10,772	29.5	99.1%
生活介護	30	31	±0	269	7,443	27.7	92.2%
ショートステイ	5	12	+4	365	567	1.9	38.8%
日中一時支援		15	+8		142		

入所者：2/17 男性1名 在宅から入所

退所者：2/11 男性1名 入院先医療機関で死亡、2/20 女性1名 療養型施設へ移行

前年度比：施設入所支援-0.2%、生活介護-1.0%、ショートステイ・日中一時支援+26.0%

2 職員状況（年度末現在、増減は昨年度末比）＊休職中職員含む

	施設長	副施設長	サビ管	生活支援員	看護師	栄養士
実人数	1	(1)	1	25	1	1
常勤換算人数	0.9	(0.1)	1.0	21.4	1.0	1.0
増減	±0	(0)	±0	+1.3	±0	±0
	事務員	業務員				合計
実人数	1	1				31
常勤換算人数	0.8	0.5				26.7
増減	±0	0				+1.3

休職中職員：1/6～ 正規職員1名 体調不良

新規採用：正規職員3名 12/1、12/16に2名（ｲﾝﾄﾞﾈｼｱEPA介護福祉士候補者）

退職：正規職員1名 2/28、パート1名 3/3

配置転換（転入）：なし

配置転換（転出）：正規職員3名 8/1、3/31に2名

3 残業、有給休暇取得状況 ＊残業時間には休日出勤時間を含む

総残業時間	1,898.3時間	最高残業時間	521.5時間	有給休暇取得率	82.1%
-------	-----------	--------	---------	---------	-------

職員一人当たり平均 61.2時間/年、平均5.1時間/月

前年度比で、有給消化率が2.1%増となり、目標の80%を達成できた。

総残業時間は7.3時間増（前年度比100.3%）であり計画の前年度比減は達成できなかった。ただし、職員一人当たりの平均で4時間/年、約0.3時間/月減少した。しかし、リーダー職員の残業が増加しており、不均衡の解消には至っていない。

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況（省略あり）

(1) 外部会議

担当者を選任し以下の会議に出席した。日本知的障害者福祉協会調査・研究委員会、牧之原市自立支援協議会（重心部会、防災部会）、県知協オレンジマラソン実行委員会、志太榛原施設連絡会 他

(2) 法人内会議

担当者を選任し以下の会議に出席した。経営会議、施設管理者会、苦情解決委員会、生活ケア会議、防災委員会、事故防止委員会、研修委員会 他

(3) 事業所内会議

定期開催、適宜開催等を決めた上で、以下の会議を開催した。また、会議を通しての情報共有に努めた。地域連携推進会議、明るい未来検討会、主任者会、感染症委員会、チーフ会、給食委員会、給食検討会、虐待防止委員会、秋祭り会議、クリスマス会 他

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

1 日課について

散歩、外気浴、個別プログラムやドライブなど日々の日課の中で取り組みを行った。

2 行事について

松浦先生音楽教室（毎月1回）、勝利さん音楽教室（毎月1回）、誕生会（2か月に1回）、運動会、開寮記念行事、外出行事（ポップサーカス、ドリームプラザ、浜名湖遊覧船、家族参加の浜松動物園、花鳥園他）、秋祭り、クリスマス会、新年会、お楽しみ会、等を行った。

3 その他

赤堀医師・田代医師の来診（毎月1回）、健康診断（年2回）、インフルエンザワクチン接種、ブラッシング指導、訪問医療マッサージ（週5日）、望月理学療法士リハビリ（毎月1回） 他

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

1 共通目標を認識するための取組みについて

(1) 月間業務目標の設定

毎月、職員が取り組む業務目標をアンケート等で決定し、周知、評価を行い、80%の職員が達成した場合は次の目標を設定する取組を継続した。

(2) 施設長面談の実施

4半期に1回（年4回）、施設長が職員面談を実施し、個別目標の設定と達成率の確認、サポカレ視聴感想の確認、その他困りごと等の確認を行った。

(3) 情報の共有化のため取組み

掲示板を設置、事業所内PCでメール共有、すべてのPCとタブレットでスケジュール共有は前年度に引き続き実施した。また、新たに補助金を活用の上でインカムを導入し情報共有を図る体制作りを行った。

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して

職員懇親会を2回実施した。また、前年度に続きユニフォームを作成した。

3 職員研修

(1) 外部研修

施設見学、静岡県、静岡県社会福祉人材センター、静岡県知的障害者福祉協会等主催の研修等に延べ59名が参加した。

(2) 法人内研修（事業所外）

法人全体研修、新人オリエンテーション、主任等研修、かたくり実習などの研修に延べ18名が参加した。

(3) 事業所内研修

サポカレ（身体拘束、会議の目的、虐待、強度行動障害、ノロウイルス感染症、施設の風水害）研修、AED救急法、ケース検討、手洗い、また、聖隷クリストファー大学篠崎先生を講師に迎え観察力を高めるためのアセスメント研修を実施した。

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

1 地域に対する公益的取組

関連事業所と連携の上で、毎月1回（計12回）坂部ふれあいサロンの送迎支援を行った。また、地域（坂部小学校、榛原中学校）の資源回収、法人を通じた行政食糧支援に協力できた。

2 地域との交流

地域の町内会（坂2班長会）定例会や新旧役員交代会に出席、新年挨拶周りをを行い地域住民の方との関わりに努めた。また、秋祭りには地域役員、民生児童委員やご近所計16名が参加し交流を深めた。加えて、子ども神輿の受け入れや地域防災訓練の際は事前説明に伺い当日は15名の自主防災担当者が見学に見えるなどの交流を行った。

また、相良地区民生児童委員の施設見学12名を受け入れた。

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

きずなネット連絡網にすべての家族が登録し、緊急時の情報伝達が可能となった。

保護者総会や事業説明会等を年3回（6、9、3月）実施し、参加者はそれぞれ約20家族だった。面会については、秋祭りやクリスマス会を含めて延べ137名が来所された。

家族・利用者アンケートを実施しサービスに対する評価を求めるとともに、「家族だより・どり～む」を毎月発行し、各部門から家族宛の情報提供を行った。

G 苦情とその対応に関する報告

1件。6月：ショートステイ利用時、自分の寝間着ではなく、事業所の衣類を着て肌が荒れてしまった。その説明に嫌な思いになった。

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告（交通事故も別に記載）

- 1 事故
合計で98件（前年度比37件増）、月平均約8.2件。転倒転落、他害行為が最も多い。
- 2 ヒヤリハット
合計で38件（前年度比8件増）、月平均約2.5件。転倒が最も多い。
- 3 虐待 1件
1/19 男性利用者の水飲み（水遊び）行為を止める際、左腰付近を足で蹴るように押した。不適切な支援に対する指導を確実に、あきらめないことを徹底していく。
- 4 身体拘束
合計で1,631件であった。「施錠ゼロを目指そう！」の取組みを継続して行い、前年度比50.1%（1,574件減）となった。内訳は823件（50%）が夜間等の居室施錠、365件（22%）が居室へのモニタ設置となっている。また、対象者は3月末で昨年度同様6名。

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

- 1 防災訓練 安否コール返信訓練を毎月実施した。避難訓練については4回（6月、10月、11月（法人全体）、1月）に実施した。その他として備蓄の確認を行った。
- 2 被害状況 なし ただし、9/5の台風15号の際は約3日間の停電となった。

J 環境整備に関する報告（100万円以上の修繕等）

電話設備交換工事 2,315,000円、 全自動洗濯機入替工事 1,760,000円

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

- 1 収支状況（事業活動）

科目	2025年度	2024年度	増減
サービス活動収益計	242,944,148	229,864,972	13,079,176
サービス活動費用計	203,587,641	193,076,786	10,510,855
サービス活動増減差額	39,356,507	36,788,186	2,568,321
経常増減差額	40,478,310	37,172,143	3,306,167
当期活動増減差額	△233,173,642	17,229,186	△250,402,828

※サービス活動収益の内、寄付金収益（227,717円） 2 借入金償還報告 なし

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査等の報告、許可申請その他の報告）

- 4/14 島田土木事務所宛 特殊建築物（建築設備）に関する是正完了報告
7/25 静岡県福祉指導課宛他 事故報告書（骨折事故）に関する報告
9/1～9/9 静岡県福祉指導課宛他 感染症等発生報告（原因不明）等
1/19 他 焼津市障害福祉課 虐待報告並びに再発防止策に関する報告
2/16～3/4 静岡県福祉指導課宛他 感染症等発生報告（インフルエンザ）等

M 実習生やボランティアに関する報告

- 1 実習生
わかば職員の支援実習（昼食介助）を年間通して受け入れた。また、学生については、浜松学院短期大学、聖徳大学など実人数で5名を保育または介護実習生として受け入れた。
- 2 ボランティア
日赤奉仕団、小さな親切運動（草取り・清掃）、鈴木勝利様・吉永治子様（音楽教室）、保護者（草とり）、秋祭りボランティア（露店、支援補助）、クリスマス会ボランティア（支援補助） 他

N その他

6/28 志太榛原地区5施設共同で静岡福祉大学を会場に「知的障がい児・者のしごとを知るセミナー～入所施設っておもしろい！～を開催した。
杉山壘（生活支援員）が静岡県から障害福祉ナビゲーターの委嘱（任期2年の2年目）をうけ、就職ガイダンスや県内大学等で障がい福祉の仕事のやりがいなどを伝えた。
計画に基づき、静岡県福祉サービス第三者評価を受審（評価機関：一般社団法人静岡県社会福祉士会）し、事業所の課題が明確となった。

2025（令和7）年度事業報告

共同生活援助
わかば

A 2025年度の目標と実践に関する振り返り

1 目標について

今年度も利用者の思いに寄り沿い、ゆったりと落ち着く事の出来る生活を目標として業務にあたってきました。休日はリビングで仲間と共に過ごす時間を多くもつことが出来、落ち着ける環境づくりを進める事が出来たと感じ取ることが出来ました。

一方で、ご利用者の身体的な衰えが進んでいる事を気付かされました。今まで起きて来なかったケースでの転倒等の事故が発生。安全・安心な生活を保ち続ける為の支援・環境設定について検討・改善を始めた1年だったと思います。

2 事業報告

(1) 支援の質の向上

意思決定や合理的配慮に心がけた対応やご利用者の権利擁護、虐待防止の取り組みを推進するために、全体会議やサポートカレッジでの研修を通して学び、振り返りを行う事で支援の質の向上を目指しました。

(2) 関係機関との連携

家族、日中活動先等、連携を必要とする機関との意思は確認し合い、統一的な支援を目指してきました。今まで連携を取れていた機関との結びつきは向上したと感じましたが、連絡が疎遠になりがちな機関との関係を充実させることが出来ませんでした。

(3) 余暇活動の充実

行事に関しては施設内での行事開催の実行には至らず、近隣施設開催のイベントに参加させて頂く事に留まりました。個人での余暇に関しては、休日に移動支援を活用し買い物に出かける等の取り組みを始め、生活の充実を図りました。

3 「理念に基づくサービス提供」についての活動報告

毎月行われる全体会議で「私たちの願い」「サービス提供指針」の読み合わせを行いました。

4 「法人の当年度重点計画」についての活動報告

(1) ご利用者の人格を尊重し、その願いに応える支援をする

ご利用者には「自己決定を行う潜在能力がある」と信じ、ご利用者との会話や施設内での自発的な行動を見守ることに重点を置いた支援を心掛けました。

(2) 有事に機能する防災体制を築く

大規模災害を想定した検討は施設会議のなかでおこなってきましたが、計画していた隣接施設との連携は法人全体訓練の時のみで、単独訓練時での応援要請は実施しませんでした。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
10	10	0	365	3650	10.0	100
区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
0	0	1	1	1	5	2

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	世話人	事務員	その他	合計
	1	1	4	4	1	0	11
常勤換算	0.25(兼務)	0.25(兼務)	3.8	1.4	0.2	0	5.9
計画との差	0	0	1 (0.9)	-1 (-0.5)	0	0	0 (0.4)

3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	278.0	最高残業時間	119.0	有休義務取得率	100	有給休暇取得率	72.0
-------	-------	--------	-------	---------	-----	---------	------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	職員会議	11	2回/年	法人苦情解決委員会	1
	給食委員会	1		法人事故防止委員会	1
	生活ケア部会	1		法人虐待防止委員会	1
	施設管理者会	1		施設内虐待防止委員会	10
	施設検討会	4		施設内感染症委員会	10
隔月	給食検討会	1		施設内防災委員会	10

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- ・土曜日・日曜日にも生活のリズムを崩さないよう、また身体能力の維持を目的とした散歩等の運動を継続してきた。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	人数	内容
毎朝	理念の継承	全員	サービス提供指針の読み合わせをした。

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。
- ・毎月開催される職員会議で、支援員・世話人の意見を求め業務・支援について検討を重ねた。
- 3 研修報告
- ・サポートカレッジを利用した研修を実施。感染症予防、虐待防止、身体拘束、支援の基礎について学んだ。

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

- ・毎月第1日曜日、吉田港海岸清掃に参加（雨天中止）

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

- ・家族の定期的な訪問により、ご利用者の様子や施設からの連絡を伝えた。
- ・定期通院等での診断結果・服薬変更等について、受診後に電話連絡を行った。
- ・家族が行う福祉サービス申請等手続きの相談を行った。

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

苦情の報告はなかった

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の報告

事故	28	ヒヤリ	18	虐待	0	身体拘束	0
----	----	-----	----	----	---	------	---

事故：転倒

ヒヤリ：転倒未遂、異物混入

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

- ・防災訓練（地震、水害想定）実施。
- ・11/5 法人全体防災訓練実施。

J 環境整備に関する報告（施設定期点検や100万円以上の修繕や改装など）

なし

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2025 年度決算	2024 年度決算	増減
サービス活動収益計	33,185,743	30,356,077	2,829,666
サービス活動費用計	33,183,607	32,758,347	425,260
経常増減差額	130,701	△2,385,934	2,516,635
特別増減差額	△31,852,000	0	△31,852,000
当期活動増減差額	△31,721,299	△2,385,934	△29,335,365

2 借入金償還報告

なし

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

特になし

M 実習生やボランティアに関する報告

なし

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

- ・2/21 地域連携推進会議を開催した。

2025（令和7）年度事業報告

共同生活援助
もくれん

A 2025年度の目標と実践に関する振り返り

1 目標について

今年度も利用者の想いに寄り添う事を目標に掲げ支援してきました。ご利用者の情緒の不安定、高齢化への対応に重点を置いた結果、個々の居室での過ごし方に工夫を取り入れましたが、仲間と共にくつろぐ環境設定や家族も交えた行事を充実させることが出来ませんでした。

障害の特性に対して専門的な支援が行き届かず、利用者間の良好な関係性を築く事も円滑に進むことはなく家庭的な環境作りは思うように進める事が出来ませんでした。

2 事業報告

(1) 支援の質の向上

意思決定や合理的配慮に心がけた対応やご利用者の権利擁護、虐待防止の取り組みを推進するために、全体会議やサポートカレッジでの研修を通して学び、振り返りを行う事で支援の質の向上を目指しました。

(2) 関係機関との連携

家族、日中活動先等、連携を必要とする機関との意思は確認し合い、統一的な支援を目指してきました。今まで連携を取れていた機関との結びつきは向上したと感じましたが、連絡が疎遠になりがちな機関との関係を充実させることが出来ませんでした。

(3) 余暇活動の充実

行事に関しては施設全体での行事よりも個別の活動を計画・実行してきました。近隣施設開催のイベントにも参加させていただき余暇の過ごし方を広げる事が出来たと思います。また、ご利用者の希望であった個人の外出に関する検討・実施できたことは余暇に充実に繋がった支援になったと感じています。

3 「理念に基づくサービス提供」についての活動報告

毎月行われる全体会議で「サービス提供指針」の読み合わせを行いました。

4 「法人の当年度重点計画」についての活動報告

(1) ご利用者の人格を尊重し、その願いに応える支援をする

ご利用者自ら意思決定できるよう支援する事に重点を置き、判断が難しい場合でも本人の意志や好みを日常生活の中から推測し、本人の想いを考慮した支援を行って来ました。

(2) 有事に機能する防災体制を築く

大規模災害を想定した検討は施設会議のなかでおこなってりましたが、計画していた近隣施設との連携は法人全体訓練の時のみで、単独訓練時での応援要請は実施しませんでした。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
10	10	0	365	3515	9.63	96.3
区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
0	0	0	1	5	4	1

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	世話人	事務員	その他	合計
実人数	1	1	2	10	1	0	15
常勤換算	0.25	0.25	2.0	3.5	0.2	0	6.2
計画との差	0	0	0	-1 (-1.5)	0	0	1 (-1.5)

3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	309.0	最高残業時間	158.5	有休義務取得率	100	有給休暇取得率	56.0
-------	-------	--------	-------	---------	-----	---------	------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	職員会議	10	2回/年	法人苦情解決委員会	1
	給食委員会	1		法人事故防止委員会	1
	生活ケア部会	1		法人虐待防止委員会	1
	施設管理者会	1		施設内虐待防止委員会	10
	施設検討会	3		施設内感染症委員会	10
隔月	給食検討会	1		施設内防災委員会	10

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- ・季節ごとの小外出、ご利用者様の希望をとった昼食作り等の行事を行った
- ・利用者の居室での過ごし方について、希望を聞き取り個々が必要とするものを家族・成年後見人等と相談・検討し用意した。
- ・土曜日・日曜日にも生活のリズムを崩さないよう、また身体能力の維持を目的とした散歩等の運動を継続してきた。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	人数	内容
毎朝	理念の継承	全員	サービス提供指針の読み合わせをした。

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。
- ・毎月開催される「職員会議」で、支援員・世話人の意見を求め業務・支援について検討を重ねた。職員によっては率先して業務を担当する申し出も出る等、積極性を引き出す事にもなりました。

3 研修報告

サポートカレッジを利用した研修を実施。感染症予防、虐待防止、身体拘束、支援の基礎の講義を受講した。

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

- ・毎月第1日曜日、吉田港海岸清掃に参加（雨天中止）

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

- ・家族の定期的な訪問により、ご利用者の様子や施設からの連絡を伝えた。
- ・定期通院等での診断結果・服薬変更等について、受診後に電話連絡を行った。
- ・家族が行う福祉サービス申請等手続きの相談を行った。

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

苦情の報告はなかった

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の報告

事故	39	ヒヤリ	34	虐待	0	身体拘束	0
----	----	-----	----	----	---	------	---

事故：転倒、転落、服薬ミス、自由外出等。

ヒヤリ：ふらつき、転倒未遂等。

2025（令和7）年度事業報告

共同生活援助事業所
みぎわ

A 2025年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 事業所の2025年度事業計画に関する報告（総括）
職員の専門性の向上については、法人内の研修や外部研修に正職中心に参加。全職員には短時間でも可能なリモート研修を提供したが、十分に活用出来なかった。
記録システムを職員への情報提供や、ケース会議、支援の見直しに活用した。
隣接する施設を兼務については、公休増加もあり数日のためであった。
外部機関との連携については、タイムリーな情報共有で感染症対応が行えた。
- 2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告
理念の浸透と実践については、ともに生きる、私たちの願い・サービス提供指針を職員会議の参加者で唱和し、確認の場とした。
個別で短時間の買い物等を、感染予防に注意して行った。
利用者と余暇時間の対話で個人の意見や要望を傾聴する時間を設けた。
- 3 「法人の当年度重点計画」関連した活動報告
3 施設合同の防災会議等を行なった。その中で災害時応援体制についても、具体的に話し合いを行った。断水、停電した場合の防災訓練を実施して、実際に必要になることについて再確認を行なった。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	1日平均	利用率	
10	10	0	365	3578	9.8	98%	
区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
0	0	1	2→1	2→3	5→4	0→1	10

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	世話人	事務員	合計
実人数	1	1	4	8	1	15
常勤換算人数	0.1	0.1	3.0	3.1	0.1	6.4

3 残業、有給休暇取得状況

年間総残業時間は67時間。月平均6.5時間であった。1人当たりの月平均は0.7時間程度。最も多く残業を行った職員は、年間21.5時間、1か月平均1.8時間であった。
有給休暇取得状況については、全体では72.1%の取得率、最高は150%、最低は40%であった。25年度は正規職員の年度当初での退職があった。

4 職員会議、委員会、外部委員会

職員会議は毎月行い研修・委員会も合わせて実施した。
外部委員会は法人関連の虐待防止、防災、苦情、事故防止に関する委員会に出席した。
また、隣接事業所との連携を目的として、防災、給食委員会を実施した。
その他として、隣接事業所との連携を深めるために、防災関係の話し合いを行い、必要事項の情報交換を行った。また、自立支援協議会の研修、部会会議やケース検討会に参加した。

C 利用者の喜びのために工夫したこと

隣接する施設の余暇設備（通信カラオケ）を利用して、余暇時間の充実を図った。
季節の行事（花火鑑賞、節分）、テイクアウトメニューの利用等を活用した。
移動支援利用再開を進め、外部の方との接点を増やした。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムについて
職員会議の冒頭、理念の継承を目的として「わたしたちの願い」の読み合わせ、サービス提供指針の確認を行った。法人の委員会（苦情、事故防止、虐待防止）実施後の職員会議で、情報共有などの話し合いを行なった。

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して
兼務職員の兼務先と話し合いを行ない、職場の働きやすさや兼務について話しあった。
- 3 研修報告
外部研修として、サビ管基礎研修、中堅キャリアパス研修、普通救命講習、経理応用講座、コンプライアンス研修、島田市虐待防止研修に参加した。法人内研修として、新年度研修、防災研修、ハラスメント研修。事業所内研修として、職員会議の際に法人理念、事前に動画視聴した感染症と虐待に関する学び等を行った。

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

毎月第三水曜に拠点で、公用車を地域の方への貸し出しを行なった。
11月地域のお祭りへ、ご利用者と職員で参加して交流をした。
12月自立支援協議会の部会が主催する、地域の清掃活動に職員が参加した。

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

家族便りを毎月発行し、情報提供に努めた。また、情報共有、意見交換会を1度実施した。

G 苦情とその対応に関する報告

苦情の報告はなかった。

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告

年間を通じて、事故4件、ヒヤリハット25件、身体拘束9件、虐待0件であった。事故については転倒が最も多かった。原因はご利用者の気分の高ぶりであった。

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況との関係などの報告

総合防災、要配慮者利用施設、通報、消火訓練など毎月防災訓練を実施した。また、3施設で災害時応援体制の見直し、BCPの見直しを行なった。

J 環境整備に関する報告

5月にガス衣類乾燥機を導入。11月建物の自主点検実施。

K 収支状況、並びに、借入金返済状況

1 収支状況（事業活動）

科目	2025年度	2024年度	増減
サービス活動収益計	37,142,970	34,502,806	2,640,164
サービス活動費用計	33,597,460	34,171,663	-574,203
経常増減差額	3,568,544	1,395,241	2,173,303
特別増減差額	-5,472,275	991,969	-6,464,244
当期活動増減差額	-1,903,731	2,387,210	-4,290,941

※サービス活動収益の内、寄付金収益（208,000円）

特別増減差額は青葉棟（24年3月で廃止）を本部に返還した為

2 借入金償還状況 なし

L 主務官庁との関連した報告

特になし。

M 実習生やボランティアに関する報告

実習生の受入れ実績はなし。就職前の現場体験1名。民生委員の施設説明、案内実施。

N その他

2025（令和7）年度事業報告

生活介護
ケアセンター花もも

A 2025年度の目標と実践に関する振り返り

1 目標について

重大な事故や感染症の蔓延もなく、ご利用者・職員ともに無事に過ごすことができた。また、介護用品（フレキシベルト）や iPad を導入し、介護および業務負担の軽減に努めた。さらに、障害特性への理解を深める研修の実施や資格取得者の増加を図り、ご本人の思いを汲み取れるよう、介護力の向上を目指した。

2 事業計画

(2) 事務処理の効率化を目指し ICT の導入を検討

iPad を導入したことで記録入力が容易になり事務作業の効率化が図れた

3 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画

(3) インスタグラム、FB などの SNS を用いて事業所の啓発に努める

年間 92 回投稿 SNS を通して事業所の活動を発信。明るい感じが伝わり興味を持ってもらえるように心がけた

4 「法人の当年度重点計画」に関連した計画

(1) 防災の充実

- ・“災害時の応援体制シート”を作成しシートに基づいた訓練を実施した。
- ・『送迎時の防災の取り組み第 2 弾』として他事業所と合同研修を実施し情報の共有と困難事例への取り組みについて話し合った

B 利用者と職員の状況

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
20	19	-1	253	4065	16.0	80.3
区分なし	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6
0	0	0	0	2	8	9

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	看護師	調理員	事務員	合計
実人数	1	1	8	1	0	1	12（兼務 2 名）
常勤換算	0.3	1	6.52	0.45	0	0.3	8.6
計画との差	+0.1	±0	-0.28	+0.05	±0	±0	-0.2

3 残業と、有給休暇取得状況

総残業時間	323.25	最高残業時間	22.5h	有給義務所得率	100	有給休暇取得率	94
-------	--------	--------	-------	---------	-----	---------	----

5 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	参加人数	開催月	種類	参加人数
毎月	職員会議・ケース会	全員	隔月	給食検討委員会	1
	生活ケア部会	1	2回/年	法人防災委員会	1
	給食委員会	1	4回/年	自立支援ネットワーク	1
	管理者会	1	適宜	未来検討委員会	1

C 利用者の喜びのために工夫したいこと（日課・行事・その他）

- 1 年 4 回クラブ活動、小グループ外出を実施。視覚、味覚等の判断ツールに用いてご利用者の意思決定を補い希望に沿うよう心がけた
- 2 地域行事での作品展示の機会はなかったが SNS を通して利用者の活動の普及に努めた

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、以下のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内 容
毎朝	理念の継承	全員	朝礼で『わたしたちの願い』を読み合わせた
職員会議			会議にてサービス提供指針を読み合わせた

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

(1) 職員同士が互いに声を掛け合える関係性を維持・継続するため、日頃から挨拶や『報・連・相』を意識して行った。

- 3 研修報告

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
施設内研修	4/4	個別支援計画の理解	10	5/2	本人理解を深める	10
	7/4	虐待防止チェックシート振り返り&	10	8/1	介護ロボット・介護技術を学ぶ	10
	9/5	感染症(手洗い)について座学&実技	10	9/12	救命救急講座	10
	10/3	送迎時の防災	9	11/7	感染症(ノロ)対策	11
	12/5	本人理解を深める	10	1/9	セラピューテックを学ぶ	10
	2/13	送迎時の防災	11			
法人研修	6/7	新年度研修	10	11/19	事例検討会	2
	12/16	相談員交流会	1			2
施設外研修	9・3月	強度行動障害支援者研修(基礎)	1	11.3月	強度行動障害支援者研修(実践)	1
	5/21	事例から考えるBCP研修	1	10/23	BCP机上訓練感染症	1
	7/25	BCP机上訓練地震				

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

日付	内 容	参加者
毎月	坂部サロン参加者送迎	職員1名
適宜	エコ活動(使用済み切手、空き缶収集)	職員全員 利用者2名
9/8	吉田町災害ボランティア参加	3名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

日付	内 容	参加者
2回/年	保護者会	保護者、職員
6月	運動会	保護者、利用者、職員
8月	納涼祭	保護者、利用者、職員
10月	ハロウィン	利用者、職員
12月	クリスマス会招待	保護者、利用者、職員
2月	お楽しみ会	利用者、職員
毎月	花もも便り&号外号	

G 苦情について対策(前年度を振り返って考えること)

前年度苦情件数0件あり。今後も関係者・機関とは良好な関係づくりに努める

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

事故	12	ヒヤリ	137	虐待	0	身体拘束	1318
----	----	-----	-----	----	---	------	------

事故：散歩中の転倒・とびらに指を挟む

ヒヤリ：連絡帳渡し忘れ・自由外出・荷物の入れ間違え

身体拘束：車いす腰 胸ベルト装着(同意書あり)

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

「安否確認コール」の年間平均返信率は90%
第2回送迎時防災研修として他事業所と合同で実施した
災害時に必要とされる防災用品（ランタン、ポータブル電源等）を備えた
隔月訓練から毎月訓練に変更。地震、火災、竜巻等想定した訓練を実施した。

J 環境整備に関する計画（施設定期点検や100万円以上の修繕や改装など）

5月～10月 建物外周害虫駆除 7月 ホールワックスがけ

K 収支、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2025年度決算	2024年度決算	増減
サービス活動収益計	62,853,980	55,138,820	7,715,160
サービス活動費用計	59,961,273	57,266,995	2,694,278
経常増減差額	3,032,175	△1,943,927	4,976,102
特別増減差額	△16,100,001	△4,500,000	△11,600,001
当期活動増減差額	△13,067,806	△6,443,927	△6,623,899

2 借入金償還計画
なし

L 主務官庁との関連（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

- 1 実習生：1月 吉田特別支援学校生2名 延べ4日間受け入れた
- 2 ボランティア：毎月 おはなしぼっぼ（読み聞かせ）
8月清流館高校生3名 10月2名
- 3 外部講師：毎月 音楽教室
隔月 笑いヨガ

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

- ・創立28年（移転名称変更後4年目）
- ・2月キャラバン納車（遺贈金による）

2025（令和7）年度事業報告

生活介護事業所
ケアセンター野ばら

A 2025年度の目標と実践に関する振り返り

1 事業所の2025年度事業計画に関する報告（総括）

地域のニーズの把握は至っていないが、地域の催し物にはできる限り参加をした。また、日々の活動内容に関して、職員間でアイデアを出し合いながら取り組んだ。

特に3～4名のご利用者様の身体的な変化が顕著であり、職員の動き（業務）を見直した。

2 事業計画

・垂穂寮・みぎわとは、ケアカルテを活用し、スムーズな情報共有ができた。また、特にみぎわとは、職員の応援体制がとれていた。ただ、関わりが深い分、コロナなど感染症が発症した時の影響は大きいものになった。

3 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告

支援の統一を図るため、会議にて対応や支援の根拠を含め確認した。基本理念の読み合わせを行った。

4 法人の当年度重点計画との関連

人材育成に関して、常勤職員は外部研修を最低一つは受けるとして計画を実施した。予定していた意思決定支援は実施できず、資料を配布したのみになってしまった。

情報の発信は、こまめにインスタグラムを更新した。ご家族からも好評を頂いている。

B 利用者と職員の状況

1 利用実績（2026年3月31日現在）

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	1日平均	利用率
20名	20名	±0	254	4,692	18.4	92.4%
区分3	区分4	区分5	区分6	合計		
0	3	6	11	20		

2 職員状況（2026年3月31日現在）

	施設長	サビ管	生活支援員	看護師	調理員	事務員	合計
実人数	1	1	10	1	1	1	15
常勤換算人数	0.1	1.0	6.5	0.1	1.0	1.0	9.2
増減	0	0	-1.0	0	0	0	-1.3

3 残業、有給休暇取得状況

年間総残業時間は292時間で昨年度よりも43時間増えた。要因としては、調理員の休日出勤や、職員の怪我や体調不良に伴う休日出勤や残業が増えた。個々の残業時間数にばらつきがあり、最も多い職員は月平均6.3時間となっている。有給取得は、前年度より公休数が増えたこともあるのか69%だった。残業時間や有休の取得率の偏りを改善することができなかった。

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

通所（職員）会議、各ケース会議を毎月実施した。感染症委員会（3回）、身体拘束適正委員会（2回）は、通所会議やケース会の中で行った。防災委員会（1回）行った。外部委員会は法人関連の虐待防止、防災、苦情、事故に関する委員会に出席した。また、島田市の自立支援協議会も参加した。個別の支援者会議にもサービス管理責任者が出席し関係機関と連携している。

C 利用者の喜びのために工夫したこと

通常活動は散歩、作業、リハビリ、プール（夏季限定）を実施した。雨天時の取り組みとして、マンネリ化を防ぐために、野ばらの会（レクリエーション活動）も随時行うように努めた。また、壁画は、達成感が得られるようにご利用者のできることに着目しながら取り組んだ。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

1 同じ目標を認識するためのプログラムについて

通所会議でサービス指針の読み合わせ、打合せの際、理事長からの聖句の言葉を紹介するなど、やまばとの一員として支援に携わることへの認識を確認できるように努めた。

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して

朝の会は職員が日替わりで担当し、ご利用者を交えクイズや簡単なストレッチを行い、楽しい雰囲気作りに努めている。行事の準備なども、フォローし合いながらあたることができた。

3 研修報告

施設内研修として、虐待防止、身体拘束研修、感染症対応研修、土砂災害・感染症のBCPの机上訓練を実施した。施設外研修は、アサーティブ・ファシリ・中堅職員・感染症・虐待防止研修、チームリーダー・権利擁護等に参加した。法人内研修としては、新年度研修、防災研修、法律関係、BCP等に参加した。

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

落合のふれあい祭り、島田市のニコニコクリーン作戦への参加、また、地元の草刈りに参加した。買い物支援の車の提供は、野ばらはなかった。

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

毎月1回保護者会があり、職員も同席し情報を共有している。毎月野ばらだよりを発行し、活動内容を紹介している。26周年記念行事として、ご利用者・ご家族、職員で食事会を行いこれまでの歩みを振り返った。

G 苦情とその対応に関する報告

今年度は2件あった。1件は、感染症に罹ったご利用者様への配慮不足から、ご本人やご家族に不快な思いをさせてしまった。もう1件は、ご利用者様への支援時の対応がきつい、支援者の態度に問題があるとの指摘を頂いた。職員としての支援態度や、接遇を再度意識して日々の業務にあたることを全職員で確認した。

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告

年間通して事故 46 件（転倒、自傷、他害、アザの発見等）、ヒヤリハット 39 件（転倒未遂、歩行不安定者の単独歩行、盗食・誤食未遂等）、身体拘束 371 件（車いす 2 点ベルト/散歩時のフットサポートへの足の固定、生理時のオーバーオール着用）となった。歩行不安定な方が増え、職員の介助が必要だが間に合わず、単独歩行しての転倒が増えた。ご利用者様の状態に合わせた見守り体制を検討していく必要がある。3 ヶ月後に対策の評価を行っている。

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況との関係などの報告

火災や地震想定避難訓練を月 1 回実施した。

9 月の台風時、職員駐車場への道に崩土が出た。近隣の方が重機を出して下さり解消できた。

J 環境整備に関する報告

トップライトの劣化から雨漏りがあったので、交換及び修理を行った。

床の清掃を業者に依頼して行った。建物の鍵の種類が複数あるため、1 つに統合した。

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支状況（事業活動）

科目	2025 年度	2024 年度	増減
サービス活動収益計	62,617,430	62,381,863	235,567
サービス活動費用計	56,314,192	54,270,694	2,043,498
経常増減差額	6,489,137	8,425,391	△1,936,254
特別増減差額	△75,052,114	△5,000,000	△70,052,114
当期活動増減差額	△68,562,977	3,425,391	△71,988,368

※サービス活動収益の内、寄付金収益（0 円）

2 借入金償還状況 なし

L 主務官庁との関連した報告

指定更新（2025 年 10 月 1 日更新）

M 実習生やボランティアに関する報告

ボランティア 鈴木秋次様（散歩・見守りなど直接支援）・権田 様（見守りなど直接支援）鈴木久美子様（新聞紙のゴミ箱寄付）勝山良子様・小澤幸子様・小澤法子様（タクティール）

N その他

8 月垂穂寮でのコロナ感染を受け、お休みのご利用者様が増えた。

9 月野ばらでコロナが発症。ご利用者 6 名職員 3 名が罹患した。

2 月 25 日、男性ご利用者様が、高齢施設へ移行された。

3 月 24 日から、男性ご利用者様、週 2 回利用を開始された。

2025（令和7）年度事業報告

生活介護
ケアセンターかたくりの花

A 2025 年度の目標と実践に関する振り返り

1 目標について

毎日笑顔で気持ち良い挨拶を行い受け入れる支援が出来た。挨拶と共に健康観察と困っていることや聞きたいことは無いかの声掛けを継続した。ご家族から小さなことでも聞くことが出来るので嬉しいと、信頼関係がさらに深まりお互いが笑顔になり喜んだ。

2 事業報告

- (1) 活動時に気持ちを受け止めるために、目や手足の動きを観察し「待つ・寄り添う・気づきのヒントを出す」事でご利用者が思いを発信できるように見守った。
- (2) 作業ワーク活動で使用する備品を、ご利用者と職員が共に目で見分けて分かりやすく表示し、かつ気持ち良く業務が進むように整理整頓をしたことで活動が充実した。
- (3) 楽しい季節の行事やスノーブレンで癒され、ハウスキーピングを楽しんでいる様子や日常の何気ない様子も Facebook やインスタグラムにて情報発信した。

3 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告

個別支援計画を基に支援提供を行い、毎月ケース会議にて支援記録をまとめ職員全体会議にて実行報告を行った。その際支援方法や注意点について職員に情報共有し、統一支援を行った。法人基本理念については、朝のミーティング時に読み合わせ実施。

4 「法人の当年度重点計画」についての活動報告

- (1) 職員の成長
サボカレ研修に総勢 39 名が参加しチームでの支援や虐待防止、生活介護基礎知識等新人職員にも分かりやすくベテラン職員は初心に振り返り良い学びとなった。
- (2) 防災の充実
有事の際の生活用水確保の為に雨水タンク、電源確保の為にポータブル電源、避難時安全確保の為に避難通路を整備し防災訓練にも活用し、防災体制を整えた。災害時の感染症マニュアルや原子力災害対応マニュアルも見直しを行った。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
20	20	0	253	4177	16.5	82.5%
区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
0	0	0	0	1	8	8

※特記事項を記入 7月介護保険移行の為に契約終了（1名）。3月移行の為に契約終了（2名）

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	看護師	事務員	その他	合計
実人数	1	1	13 (内1兼務)	1	1	0	15
常勤換算	0.4	0.6	8.3	0.3	0.35	0	9.95

3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	222.5H	最高残業	54H	有休義務	100	有給取得	74%
-------	--------	------	-----	------	-----	------	-----

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	ケース会議	12名	毎月	全体職員会議	約12名
11/18. 3/19	法人防災委員会	1	5/28. 11/21	ヒヤリ・事故防止委員会	1
4/25. 10/24	苦情解決委員会	1	8/20. 2/18	虐待防止委員会	1
6/9. 7/10. 1811/11	島田市重心部会	1	6/24.	志太榛原圏域部会	1

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- 毎週水曜日の音楽活動では曲や楽器を選択し、スノーブレン、リフレ、セラピューティックケアを通してご利用者の気持ちを大切に、意思決定と癒しの時間も提供した。
- 莓狩りや桜、彼岸花に向日葵、コスモス畑に干支を見に行き、季節を楽しんだ。
- 口腔内マッサージを行い口角の動きが良くなり、音量アップし会話と挨拶が増えた。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	人数	内容
朝 全体会議	理念の継承	参加者 全員	朝の打ち合わせ時にサービス提供指針を唱和。 会議時には服務心得の読み合わせ。

- 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。
 - 職員親睦会では、大きな声で笑い楽しい会話に大盛り上がり。コミュニケーションが深まり職員間同士の発見が多く充実した時間を過ごすことができた。
 - 出勤時は「おはようございます」退社時は「お疲れさま」と、感謝の気持ちを込めて管理者は率先して大きな声で挨拶を行った。

3 研修報告

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内 研修	毎月	全体職員会議時研修	12名	5/7	地震机上訓練	12名
	9/13	AED講座普通救命講	15名	随時	ｽﾀｯﾌﾟｶﾞﾙ研修(13件)	39名
	6/5	送迎時の防災	4名	1/20. 21	身体拘束	7名
法人研 修	4/15	新人オリエンテーション	1名	8/6	新年度研修	10名
	6/13	ハラスメント研修	2名	10/7	新人オリエンテーショ	2名
	11/28	中堅職員研修	1名	2/6	花もも：送迎時の防災	2名
	8/21	交通安全講習会	2名	3/25	備蓄品説明会	1名
施設外 研修	5/21	事例BCPに活用	1名	6/30	花王：ニオイ快適な環境	3名
	7/18. 24	感染症職員向け講座	2名	8/1	花もも：介護技術	4名
	6/19. 20	強度行動障害(実践)	1名	12/12	感染症：現場実践編	3名
	12/8	福祉施設施設職員防災	1名	1/19	障害者虐待防止講演会	1名
	1/27	実践研究(自閉症)	1名	5/15	熱中症対策アンバサダー	1名

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内容	参加者
1回/月	散歩コースのゴミ拾い	利用者職員全員対象
1回/月	地域のアルミ缶回収と収集所整理整頓	利用者3～5名・職員2名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内容	参加者
3回/年	保護者会(4月・9月・2月)	保護者、職員
毎月	かたくりの花お便り「風さゆる」を配布	利用者、保護者、職員
12/5	大掃除	保護者名、職員名
9/26	引き渡し訓練	保護者 利用者 GH世話人 職員

G 苦情について対策

毎日の登所や送迎等の引き渡し時に健康確認と、何か気になる事や困っている事をお伺いする声掛けを実施することで、苦情になる前にお話を聴くことができている。

苦情：0件

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の報告

事故	2件	ヒヤリ	56件	虐待	0	身体拘束	1362
----	----	-----	-----	----	---	------	------

事故：車両物損事故1件・職員ぎっくり腰1件

ヒヤリ：転倒しそうになった。ご利用者の荷物忘れ入れ間違い等

身体拘束：車いすベルト装着（同意書に基づき）1358件

行動制限：移動困難：同意書に基づき4件

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

防災（BCP・災害）：改訂実施（感染症）：改訂実施。

施設防災訓練（火災・地震）毎月実施。防災食備蓄品賞味期限近づいた為全員で試食実施。

非常食の調理時間や味と量についても確認できた。

ポータブル電源と雨水タンク購入し、避難通路を設置により防災訓練の意識が高まった。

毎月第4木曜日に建物点検を実施している。シーリングのひび割れや外壁のひび割れを確認し、次年度の外壁工事へと繋げることが出来た。

法人防災訓練も含め総合防災訓練を2回実施。

J 環境整備に関する報告（施設定期点検や100万円以上の修繕や改装など）

避難通路工事実施。

食堂. 作業棟1階のエアコン交換工事。

作業室50インチ4Kスマートテレビ購入と作業棟DVD収納BOX造作工事。

K 収支状況、並びに、借入金返済報告**1 収支報告（事業活動）**

科目	2025年度決算	2024年度決算	増減
サービス活動収益計	56,786,503	60,778,254	△3,991,751
サービス活動費用計	46,741,640	46,331,504	410,136
経常増減差額	11,010,385	14,575,820	△3,565,435
特別増減差額	△77,754,002	△4,500,000	△73,254,002
当期活動増減差額	△11,324,573	63,599,027	△74,923,600

2 借入金償還報告

なし

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など） なし**M 実習生やボランティアに関する報告**

6/9～13 藤枝特別支援学校高3 男性1名実習

6/16～20 掛川特別支援学校高3 女性1名実習

10/8～17 掛川特別支援学校高3 男性1名実習

9/29～10/7 藤枝特別支援学校高3 男性1名実習

12/11～12 静岡中央支援学校高2 男子1名実習

1回/年：金谷手打ちそばの会さん（3名）手打ちそばの実演

2回/年：喫茶アルムさんより行事（夏祭り・クリスマス会）時コーヒー提供

N その他

2025（令和7）年度事業報告

生活介護事業所
ケアセンターコスモス

A 2025年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 目標について
ご利用者に寄り添う支援を心がけ、働きたい気持ちを大事にし作業中心ではあるが、散歩、外出企画、ドライブの時間を設けた。働く生活介護の特色作りに努めた。
- 2 事業報告
 - (1) 働きやすい環境づくりや健康面等生活のサポートをしてきたが、ご利用者の精神的な状況、受診回数の増加等の影響で利用率が計画を下回った。
 - (2) 定期的な SNS の活用を意識し、見学者、交流会の際に施設のアピールを行った。
 - (3) 事業変更に伴い送迎サービスを開始。送迎ルート、ご利用者の配車等検討を重ねた。
- 3 「理念に基づくサービス提供」についての活動報告
 - (1) 利用者特性を踏まえ移動間仕切りを設置し、環境設定をした。
- 4 「法人の当年度重点計画」についての活動報告
 - (1) 防災体制が有事に機能するよう検討・見直しを行った。
 - (2) 職員から要望のあった研修内容や等級に合わせた研修を行った。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
20	15	1	253	3354	13.2	66.3
区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
0	0	2	1	9	3	0

4月より1名新規利用。男性利用者1名8月から区分2から3に。

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	事務員	看護師	合計
実人数	1	1	6	1	1	10
常勤換算	0.1	1.0	3.7	0.52	0.1	5.42
計画との差	-0.9	±0	-0.5	+0.02	0.1	-1.38

4月パート職員1名退職。7月末日森山施設長退任、8月から垂穂寮石川施設長が兼務。パート職員2名入職。

3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	62.5	最高残業時間	2.0	有給義務取得率	100	有給休暇取得率	98.1
-------	------	--------	-----	---------	-----	---------	------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	職員会議	全員	隔月	法人防災委員会	1
毎月	生活ケア部会	1	年2回	苦情解決委員会	1
毎月	施設管理者会	1	年2回	事故防止委員会	1
隔月	法人防災委員会	1	隔月	事務連絡会	1
隔月	編集委員会	1			

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- ・毎月：誕生日カードの掲示 体重・爪検査・血圧測定
- ・春・秋（年2回）：健康診断（希望者）・個別体験学習（12月～1月）

4月：勤続表彰・歓迎会 5月：民自協交流会 6月：「スイーツを食べよう」学習 7月：七夕 8月：放デイひまわり島田校交流会 10月：ハロウィン（キッチンカー） 11月：ブラッシング指導 12月：クリスマス会（島田高校交流会） 1月：新年会、たい焼き移動販売 2月：節分、バレンタインデー、民自協交流会 3月：ホワイトデー、外食

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	人数	内容
毎月	理念の継承	全員	職員会議でサービス提供指針を読み合わせた
毎月	ケース会議	全員	職員会議で、利用者支援についての検討・共有を行った

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。
普段の会話、休憩時間にコミュニケーションを意識的にとるように心掛けた。

- 3 研修報告

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内研修	毎月	虐待防止委員会	全員	6月	知的・発達障がい者の感染症対策・サポカレ	全員
	7月	虐待防止セルフチェック	全員	10月	知的・発達障がい者の感染症対策の現状	全員
	11月	感染症・BCP実施訓練	全員	12月	感染症研修	全員
	1月	虐待防止研修	全員	2月	虐待防止セルフチェック	全員
法人研修	8月	交通安全教室	1	11月	中堅職員の玄人やりがい〜テレビ局の仕事を通じて	1
施設外研修	9月	心の底から信頼される福祉職員になるために	1			

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内容	参加者
年2回	島田第2地区民児協交流会	委員、利用者・職員
12月	島田高等学校交流会（クリスマス）	島高関係者、利用者・職員
12月	ここにこしまだクリーン大作戦	利用者・職員
週1回	普門院清掃	利用者・職員

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内容	参加者
9月	保護者会・契約書重要事項説明書変更	保護者・施設長・正職
3月	保護者会・人事異動について	保護者・施設長・正職
毎月	コスモス便りの配布	保護者・グループホーム

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

苦情1件 送迎の際、利用者宅近隣の方から砂利道に配慮した運転をするよう指摘された。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の報告

事故	6	ヒヤリ	31	虐待	0	身体拘束	94
----	---	-----	----	----	---	------	----

事故：玄関で履物を替える際に転倒等

ヒヤリ：送迎時の確認不足、利用者間トラブル等

身体拘束：特定利用者に対して殴りかかろうとする為、複数職員で両腕を抑えた（同意書有）

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

毎月火災と地震避難訓練を交互に実施。

4月・10月、総合防災訓練（消防署への事前申請）。年1回（10月）保護者への引き渡し

訓練を実施した。

J 環境整備に関する報告（施設定期点検や100万円以上の修繕や改装など）

- ・防虫防鼠施工（2か月に1度点検）

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2025年度決算	2024年度決算	増減
サービス活動収益計	27,929,785	32,091,867	△4,162,082
サービス活動費用計	69,746,400	29,526,218	40,220,182
経常増減差額	△41,730,085	2,621,158	△44,351,243
特別増減差額	0	△2,000,000	2,000,000
当期活動増減差額	△41,730,085	621,158	△42,351,243

2 借入金償還報告

なし

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

なし

M 実習生やボランティアに関する報告

ボランティア

- ・毎週月・火曜日午前 作業ボランティア1名

実習生

- ・島田市立看護専門学校 5名
- ・清流館高校 4名
- ・常葉大学保育学部 1名
- ・藤枝特別支援学校 3名
- ・掛川特別支援学校 1名

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

創立45年（牧ノ原やまばと学園運営 18年、事業種別変更1年）
当年度から、就労継続支援B型から生活介護への事業種別変更

A 2025年度の目標と実践に関する振り返り

1 目標について

「利用者が安心、安全に働き、希望を持てる事業所へ」ご利用者、職員が一致団結し事業所を働きやすく希望が持てる事業所にと進めてきた。コミュニケーションが取れるように環境設備の改善、業務の見直しやマニュアル作りを行い、今後も円滑に事業が進められるように、今以上に安心、安全に働き、希望を持てる事業所になるようにしていきたい。

2 事業報告

(1) 職員育成、体制・業務の見直し

福祉事業所並びに就労支援の事業所の職員としてふさわしい接遇、関わり方を職員全員で学びました。また随時業務の見直しを行い、ご利用者の支援、業務に当たれるようにした。残念ながら就労支援に必要な知識習得のための研修に参加できなかったが、ご利用者の良き手本となれるように、日々、A型事業所の職員としての心構えを忘れずに業務にあった。

(2) 就労継続支援A型事業所としての実績

ご利用者の作業能力の向上の他、一般就労に必要な常識（身だしなみやルール）の習得、作業経験を目的とし企業、B型事業所に体験実習をこれまでよりも多く行った。今年度は2名のご利用者が一般就労することができた。それぞれ、見学、体験実習、採用実習と時間をかけて、ご利用者と企業が一番望む形で就労でき様に支援に勤めた。

(3) 新しい業務の習得

10月市の資源回収の分別が一部新しくなり、陶磁器類とガラス類の分別がスタート。危険が伴うこともありご利用者は直接関わる業務では無くなったが、これまでのビンの分別作業に関して改めて業務の見直しを行い、スムーズに業務が行われている。

3 「理念に基づくサービス提供」についての活動報告

牧ノ原やまばと学園の「サービス提供指針」に基づいた、利用者ひとりひとりをかけがえのない存在として重んじ、常に利用者の立場に立ったサービスを提供するよう努めました。

4 「法人の当年度重点計画」についての活動報告

(1) ご利用者の人格を尊重し、その願いに応じる支援をする

ご利用者も雇用契約を交わし作業に従事している当法人の職員という立場である。事業所の職員だけでなく、ご利用者も一緒にステップアップできるように、業務に支障が出ない形で、研修計画を考えそれを基に進めました。今後も機会があれば積極的にご利用者の研修等を考えていき、有意義な時間を考えていきます。

(2) 自分の成長を実感でき、働きやすく楽しい、秩序ある職場を作る

コミュニケーションをとり日常的に『報告、連絡、相談』を行いやすくなるように、風通しの良いチームを形成するようにこころがけた。

(3) 有事に機能する防災体制を築く

防災訓練の実施、法人合同の防災会議にも参加し連携して進めました。また、同じ敷地内で委託先の市環境課と連携して緊急時の備蓄、防災用品の準備を進めていくように、会合を行い、必要と思われる防災用品、備蓄品を準備しました。

(4) 地域のニーズを把握し、取り組むべきことに着手する

環境整備として地域社会の中で貢献度がある事業です。ご利用者が誇りと自信をもって仕事に取り組めるように、掲示板等を活用し地域に理解してもらえるように情報を発信した。また、法人の地域貢献交流事業のイベントや交流会にご利用者がスタッフとして参加した。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
15	11	-2	245	2379	9.7	64.9
区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
7	0	4	0	0	0	0

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	1	3	0	0	6
常勤換算	0.1	0.9	1	2.6	0	0	4.6
計画との差	0	0	-0.1	+0.6	-0.6	0	-0.1

- ・職業指導員…4月に1名採用(4H)。1月に(5H)変更。
- ・生活支援員…6月1名退職(事務員兼務)
- ・事務員…6月1名退職(生活支援員兼務)/2月1名退職

3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	56	最高残業時間	2	有休義務取得率	100	有給休暇取得率	57.6
-------	----	--------	---	---------	-----	---------	------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	職員会議	5	5・11月	事故防止委員会	1
毎月	作業就労部会	1	9・3月	虐待防止委員会	5
毎月	施設管理者会	1	9・3月	感染予防委員会	5
随時	未来検討会議(地域)	1	随時	事務連絡会	2
11・3月	防災委員会	1	随時	市しごと部会	1
4・10月	苦情解決委員会	1	随時	圏域就労部会	2

C 利用者の喜びのために工夫したこと(日課・行事・その他)

- 1 就労継続支援A型事業所として、雇用契約に基づく就労の機会を提供し、一般就労に必要な知識・能力の向上のために必要な訓練を実施した。一般就労に向けて希望があれば企業への見学を随時実施した。2月には圏域のしごと体験「輝きウイークⅢ」に11名の利用者が参加、一般企業に体験実習を行った。
- 2 作業のやり方、作業テントハウス内(利用者の休憩場所も含む)を常に整理整頓し、使いやすいようにした。
- 3 利用者研修として計画を基に7/9交通安全講習 2/4感染症予防講習 3/4食生活についての講習を開催した。
- 4 健康管理として夏季の時期は繁忙期でもあり熱中症対策も考え、PMの休憩時にはアイス等冷たいものなどを提供した。感染症対策を考えながら業務遂行に支障のない範囲で利用者の励みとなるような季節の小行事を提供した。
- 5 日帰り研修旅行を実施。同じように市からの委託事業リサイクル業務を行っている、熱海ふれあい作業所に見学に行き情報交換、交流を行った。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	人数	内容
毎月	理念の継承	全員	サービス提供指針を読み合わせ、聖句・メッセージの周知
随時	支援の統一	全員	サポートカレッジの活用

職員会議時、サービス指針読み合わせ、事業所内研修の実施が定着できるように心がける。

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。
 職員がチームワーク、コミュニケーションをとり日常的に『報告、連絡、相談』を行いやすくするように、風通しの良いチームを形成するようにこころがけた。

3 研修報告

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
法人 研修	4/7	決算研修	2	8/21	交通安全講習	1
	6/7	新年度研修	3	9/11	事務研修	2
	6/13	管理者ハラスメント 研修	1	10/7	新人職員オリエンテー ション	3
	7/4・5	日キ社事同研修会	1	3/24	防災研修	1
施設内 研修	随時	サポートカレッジ	全員	9.2月	感染症予防研修	全員
				9.3月	虐待防止研修	全員
施設外研 修	5/12～ 16	フォークリフト技能 研修	1	7/10・15	精神・発達障害者しごと サポート研修	5
	9/1～4	フォークリフト技能 研修	1	1/19	虐待・権利擁護研修	1

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内 容	参加者
5/11	阿知ヶ谷・東光寺地区ふれあい広場 ワークセンターやまぼとの焼き菓子を販売	2名
12/17	ニコニコクリーン大作戦	利用者・職員全員

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
毎月	カサブランカ便りを発行	事業所発行

G 苦情について対策

日付	誰から	内 容	対応者
6/20	外部関係者	利用者からのセクハラ行為	施設長

聞き取り調査等を行いました。再発防止に努めた。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の報告

事故	2	ヒヤリ	2	虐待	0	身体拘束	0
----	---	-----	---	----	---	------	---

事故：バイク故意的に破損 / カッターで指切創

ヒヤリ：作業ズボンが破れていて擦り傷 / カッター紛失

虐待：2回/年虐待防止委員会を開催、セルフチェックを行い、日頃から意識を高め虐待防止に努めた。差別、無視などの接し方にならないように努めた。

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

- 「地震・津波・緊急対応マニュアル」「災害時事業継続計画書（BCP）」「消防計画書」に基づき対応し、毎月の防災訓練、年1回の総合防災訓練及び備蓄品の点検を行いました。法人の1回/月安否コール訓練、1回/年の法人全体防災訓練では、断水を想定しての訓練を行った。
- 通勤手段として自転車、自動車通勤の方がいるため、日頃から道路交通法を守り、安全に通勤する意識付けを行った。7月には島田警察署交通安全課の方を招き、全体で交通安全講習会を行った。
- 感染症防止対策は、手洗いの対策を継続、入り口に検温機を設置し、利用者、職員とも出勤時の検温、消毒、来所者に対しても立ち入り時に検温、消毒の実施を継続しました。日々、施設内のテーブルの消毒、換気の対策も継続的に実施した。今年度も事業所内での

感染（クラスター）を出すことはなかった。

2回/年感染症予防委員会を開催。3月には全体で島田市健康づくり課の保健師さんを招いて感染症予防研修を行い、手洗いを中心に感染予防に関して学習した。

J 環境整備に関する報告（施設定期点検や100万円以上の修繕や改装など）

敷地内の草刈り、環境整備等（随時）、消防設備点検（適時）、2回/年 施設の建物自主点検を行った。

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2025年度決算	2024年度決算	増減
サービス活動収益計	45,867,838	45,708,739	159,099
（内、就労支援事業収益）	(25,672,020)	(24,458,500)	(1,213,520)
サービス活動費用計	46,121,497	41,630,616	4,490,881
（内、就労支援事業費用）	(25,672,020)	(24,458,500)	(1,213,520)
経常増減差額	△115,556	4,100,542	△4,216,098
特別増減差額	△18,873,452	△2,100,001	△16,773,451
当期活動増減差額	△18,989,008	2,000,541	△20,989,549

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

特になし

M 実習生やボランティアに関する報告

- 1 利用希望者4名の方の見学、実習は随時実施した。3名が正式利用となる。
特別支援学校の生徒に関しては、中等部～高等部3年生まで計8名の見学を受入れる。
職場実習に関しては2名の生徒を受け入れる。1名高等部3年の生徒は卒業後の進路先としてカサブランカとなる。
- 2 環境課に来たインターンシップの大学生を1日受け入れる。あつまリーナに来た2名の大学生の見学を受入れる。
- 3 カサブランカと同じように市のリサ享業務を委託で行っている、熱海市役所環境課職員2名、熱海ふれあい作業所（B型）役員及び職員6名の見学受入れ情報交換を行った。

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

- 1 今年度、19年目

2025（令和7）年度事業報告

就労継続支援B型
ワークセンターなのはな

A 2025年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 事業所の目標「ひとりひとりの良さを活かし、支え合い、高めあう事業所」
- 2 事業報告
 - (1) 職員会議・祝日の利用時間を延長したことで、働くことへの意識向上と、家族の負担軽減に繋がった。
 - (2) 利用者支援のための指示書等の充実に努め支援の統一を図った。職員会議日の利用時間延長により、業務上の可視化など、より必要性を実感することとなった。今後も継続して、業務の可視化に努めたい。
- 3 「理念に基づくサービス提供」についての活動報告
職員会議時にサービス提供指針の唱和を行い、意思の統一を図った。聖書のメッセージ・やまばと機関紙巻頭文の回覧により、法人の先駆者の思いを知ることや、自分を振り返り、互いに共有するなどし、理念に基づいたサービス提供が行えた。
- 4 「法人の当年度重点計画」についての活動報告
 - (1) ご利用者の情報を共有することで、ご本人の思いや保護者の願いを知ること、又、支援の統一が図られた。
 - (2) 飛散防止フィルム貼り付け工事をはじめ、備蓄品の見直し、有事を想定した訓練にて職員の意識向上を図ることができた。又、地区の防災訓練・防災イベント・地域連携プロジェクト会議等にも参加し、意識を高めた。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
30	30	3	251	6653	26.6	88.4
区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
17	0	2	4	6	1	0

※1名他就労継続B型へ移行

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	3	8	1		12
常勤換算	0.5	0.5	2.3	5.0	0.2		8.5
計画との差			0.1	0.1	-0.3		-0.1

3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	24	最高残業時間	12	有休義務取得率	100	有給休暇取得率	65.4
-------	----	--------	----	---------	-----	---------	------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	職員会議	12	隔月	編集委員会	1
11/18	法人防災委員会	1	年7回	研修委員会	1

隔月	しごと部会 しごと部会事務局会議	1	5/28. 11/21	事故防止委員会	1
隔月	事務連絡会	1	4/25 10/24	苦情解決委員会	1

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- (1) 個別支援計画に基づきグループ活動や調理実習など、自立に繋がる活動を充実させ、利用者の喜び、働く意欲を感じられる活動ができた。
- (2) 作業や活動、地域貢献活動他、様々な経験をする中で達成感や喜びを感じることができた。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	人数	内 容
隔月	理念の継承	全員	機関紙巻頭文の回覧や、職員会議でサービス提供指針の読み合わせを行った
毎月	ケース会議	全員	職員会議にて、利用者支援についての検討・共有を行った

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。
職員会議の際に、ティータイムなど設け、不安を分かち合い、意見や提案を自由に発言できる環境、休憩時間のシフト制等、風通しの良い環境作りの機会となった。

- 3 研修報告

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
施設内研修	7/18 1/12	身体拘束・虐待	12	6月～1月	サポカレ障害特性（ダウン症・承認のスキル・ストレングス・リフレーミング・コミュニケーション・就労支援の視点）	11
	9/15 2/21	防災研修 BCP 訓練		8月 11/21 3月	サポカレ 業務標準化・働きやすい 職場作り リスクマネジメント	1 9
	9/15. 3/21	感染症研修	12	9/15		1
法人研修	6/7	新年度研修	3	6/13 2/20	労務研修	2
	9/18	交通安全講習	1	9/11	経理応用講座	1
	3/4	防災研修	1			
施設外研修	4/23～5/15	救命講習(90分) チームリーダー研修 (県社協)	12 1	9/11 9/12 3/24	経理応用講座 感染症講座中級（県社協） 決算実務講座	1 1 1

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内 容	参加者
4月	市内一斉川ざらい協力	職員 5名
年6回	横井町クリーン作戦	利用者 18名、職員 7名
6/20	災害時プロジェクト会議	職員 1名
8/8	起震車体験	利用者 26名、職員 12名、地域の方 1名
7/31 12/11	民生委員交流会	利用者 26名 職員 4名
10月	牧之原市フードバンク	職員 12名
12/5	島田市ニコニコクリーン作戦 にじいろ市場	利用者 7名、職員 3名
6/29・3/1	横井町防災訓練・防災イベント	職員 2名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
9/23	保護者連絡会	職員、保護者
8/8	行事招待	利用者・保護者・地域・職員

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

苦情なし

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の報告

事故	15	ヒヤリ	7	虐待	0	身体拘束	0
----	----	-----	---	----	---	------	---

事故：転倒、他害

ヒヤリ：転倒回避、接触

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

BCP に基づいた防災訓練（災害）毎月の施設防災訓法練実施、内、総合訓練 2 回実施、マニュアル・課題についての検討を行った。地域防災訓練、社協主催島田市災害連携強化プロジェクト会議に参加、飛散防止フィルム貼り付け工事等、有事の災害時の連携に備えた。

J 環境整備に関する報告（施設定期点検や 100 万円以上の修繕や改装など）

12/13 館内定期清掃を行い、老朽化の対策をした。

1/11. 12 飛散防止フィルム貼り付け工事

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2025 年度決算	2024 年度決算	増減
サービス活動収益計	55,978,259	51,862,636	4,115,623
（内、就労支援事業収益）	5,588,721	5,110,445	478,276
サービス活動費用計	50,244,118	48,009,146	2,234,972
（内、就労支援事業費用）	5,588,721	5,110,445	478,276
経常増減差額	5,229,332	3,436,747	1,792,585
特別増減差額	△27,000,000	△1,005,721	△25,994,279
当期活動増減差額	△21,770,668	2,431,026	△24,201,694

2 借入金償還報告

契約年月日	利率	期間	金融機関	借入額	償還額	残額
2017/5/1	01.058	25 年	静岡銀行	78,000,000	27,820,000	50,180,000

2026 年度返済予定

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

なし

M 実習生やボランティアに関する報告

藤枝特別支援学校生 2 名（体験 3 名）

島田看護専門学校生 13 名

清流館高校生 5 名

恵泉女学院 6 名 + 教員 1 名

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

創立 25 年

法人傘下（2009 年より）16 年

2025（令和7）年度事業報告

就労継続支援B型事業所
ワークセンターあさがお

A 2025年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 目標について
「利用者にも職員にも働きやすい環境作り」
- 2 事業報告
 - (1) 利用者、職員共に安心して認めあえる環境づくり
 - (2) 作業効率を高め、職員の負担を軽減し利用者支援をより厚くしていきたい
～毎月職員会を実施、作業やご利用者の個別支援計画の振り返りを行った。
- 3 「理念に基づくサービス提供」についての活動報告
 - (1) 利用者一人一人を軽んじることなく、利用者の立場に立ったサービスを提供するよう努める。～理念、サービス提供指針の唱和を毎月行った。
- 4 「法人の当年度重点計画」についての活動報告
 - (1) 防災について 各種マニュアルの整備、備蓄確認を行った。
 - (2) 職員育成について サポカレ・外部研修を利用した。専門性を高め、利用者の望む支援に気づける力を養うため、今後も継続していく。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
20	16	△3	253	4198	16.6	83

減員3名の内訳：転居2名（虐待1名・触法1名）事業所移行1名
現在医療保護入院中1名

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	1	8	1		12
常勤換算	1	1	1	4.37	0.2		7.57
計画との差	0	0	0	△0.03	0		△0.03

※施設長は目標工賃達成指導員と兼務。

3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	27.5	最高残業時間	2.5	有給義務取得率	100	有給休暇取得率	77.1
-------	------	--------	-----	---------	-----	---------	------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	職員会議	10	年2回	苦情解決委員会	1
奇数月	自立支援協議会しごと部会	1	年2回	事故防止委員会	1
毎月	施設管理者会	1	毎月	作業就労部会	1
年2回	防災委員会	1			

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- (1) 毎月第2火曜日に奇数月は体操教室、偶数月は笑いヨガを行った。
- (2) 行事 5月：地域飲食店で買い物 6月：民生委員さんと交流会 7月：七夕
8月：お楽しみ会 9月：防災食づくり
10月：ハロウィン 11月：ボーリング大会 12月：年賀状作りと親睦会食
1月：絵馬づくり 2月：餅つき 3月：年度末慰労お楽しみ会

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	人数	内 容
毎月	職員会議	全員	サービス提供指針の読み合わせ

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。

3/18 職員懇親会 3/20 1年の振り返り

- 3 研修報告

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
施設内研修	7/21	感染症対応について	全員	祝日	サポカレを利用	全員
	10/13	感染症訓練	全員	11/24	法人と事業所の BCP を学ぶ	全員
	1/12	虐待防止研修	全員			
法人研修	6/7	新年度研修	1	8/21	安全運転講習	1
	10/20	社会福祉法人予算管理講座	1	11/18	ケース検討会	1
	3/4	防災研修				1
施設外研修	5/21	事例から考える BCP 研修	1	12/18	BCP 見直しと評価のポイント	
	2/20	労務管理研修	2	3/10	スキルアップ研修	1

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内 容	参加者
4月～第2火曜日 14時	奇数月：体操教室 偶数月：笑いヨガ	利用者、職員、地域住民
6月	初倉地区民生児童委員交流会	委員、利用者、職員
3月	井口地区 作品出展	

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
5月	保護者連絡会	保護者、正職員
毎月	毎月の予定表「あさがおカレンダー」配布	

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

- ・ 0件 苦情があった際には速やかに対応したい。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の報告

事故	3	ヒヤリ	6	虐待	0	身体拘束	2
----	---	-----	---	----	---	------	---

- ・ 事故、ヒヤリの内容はご利用者間のトラブル。
- ・ 身体拘束～ご利用者が興奮し自傷行為が激しく、職員が制止した。

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

- ・ 毎月、事業所内防災訓練を実施した。
- ・ 法人全体防災訓練への参加。

J 環境整備に関する報告（施設定期点検や100万円以上の修繕や改装など）

- ・ 2025年2月、10月に建物点検を行った。特に修繕の必要なし。

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2026年3月	2025年3月	増減
サービス活動収益計	40,782,883	41,460,572	△677,689
（内、就労支援事業収益）	3,674,652	3,348,231	326,421
サービス活動費用計	42,218,178	41,277,789	940,389
（内、就労支援事業費用）	3,675,415	3,349,804	325,611
経常増減差額	△1,397,770	211,476	△1,609,246
特別増減差額	△5,520,001	△1,500,000	△4,020,001
当期活動増減差額	△6,917,771	△1,288,524	△5,629,247

2 借入金償還報告

なし

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

・なし

M 実習生やボランティアに関する報告

ボランティア：・0様 火曜日午前 ・K様 火、木曜日午後 ・0様 金曜日午前

【実習生】

- ・吉田特別支援学校 PTA 5名 6/3
- ・清流館高校 1年生 介護実習 2名 7/14.15
- ・初倉中学校 支援級 2年生 1名と 3年生 2名 11/12～14 職業体験
- ・カサブランカ利用者 職場体験実習

【見学】

- ・8/7 吉田特別支援学校 高等部 2年生と母
- ・9/8 吉田特別支援学校 高等部 1年生 7名
- ・10/21 本人と相談員
- ・10/29 初倉中学校 支援級 2年生 1名と 3年生 2名
- ・3/3 藤枝特別支援学校 1年生とご家族

N その他

2025（令和7）年度事業報告

就労継続支援B型事業所
ワークセンター希望の家

A 2025年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 目標について「ひとりひとりを尊重し、それぞれが楽しく働く環境をつくる」
ハラスメント研修や支援技術の研修を通じご利用者・職員ともに高め合う組織体制を目指した。現場の声を反映した人員配置や業務の標準化を図り、支援の質向上と工賃増額に繋がった。
- 2 事業報告
 - (1) 心理的安全の中で働ける職場環境を整え、支援の統一、チーム意識を高める。
ハラスメント研修を行い、風通しの良い職場環境に必要な視点を共有。利用者支援に関してはPDCAを繰り返し特性理解やより効果的な支援方法を職員と検討。役割分担の明確化と支援方法を共有し、チーム全体で支援を提供できるよう努めた。
 - (2) 支援量・作業量に対し、適切な職員配置を取る。
短時間勤務職員2名を採用し、支援体制を強化したことで作業効率が向上、平均工賃増額につながった。職員のパパ育休取得に合わせ、現場の意見を反映した配置体制を検討。特定の担当者に依存しない体制を構築し、業務の標準化が図れた。休暇を取りやすいフォロー体制が整った。
- 3 「理念に基づくサービス提供」についての活動報告
 - (1) 牧ノ原やまばと学園「サービス提供指針」に基づいてサービスの提供を行った。
職員会議内で理念の唱和、理事長の言葉を自由回覧し理念の浸透と指針に基づいたサービスの提供を行った。
- 4 「法人の当年度重点計画」についての活動報告
 - (1) ご利用者の人格を尊重し、その願いに応える支援をする。
コミュニケーション技法やストレングス視点など、本人理解を深める研修を行い、支援力強化を図った。「感情を支える支援」を目標として利用者支援の検討を重ねた。
 - (2) 有事に機能する防災体制を築く
送迎中の発災を想定した机上訓練を実施し、走行ルート上の避難可能場所抽出および車載備品の再整備を行った。あわせて災害マニュアル（送迎）を追加、より具体的な状況に則した防災体制を整えた。11月AED設置完了。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
20	21	0	251	4732	18.9	94.3

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	3 (1)	4 (1)	1		10 (2)
常勤換算	0.5	0.5	2	3.05 (1.0)	0.125		6.1
計画との差	0	0	△0.75	0.35	0		△0.4

3 残業、有給休暇取得に関する計画

総残業時間	1	最高残業時間	0.5	有休義務取得率	100	有給休暇取得率	75
-------	---	--------	-----	---------	-----	---------	----

4 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	職員会議	7	年2回	法人防災委員会	1

〃	施設管理者会	1	年2回	事故防止委員会	1
〃	作業就労部会	1	年2回	虐待防止委員会	1
隔月	事務連絡会	2	年2回	苦情解決委員会	1
8月	学校説明会	2	年2回	感染症対策委員会	7
6月11月	自立支援推進会議	1	適宜	身体拘束検討委員会	7

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- ・定期的なアセスメントに加え、必要時に面談を行いニーズの汲み取りを行った。
- ・利用者の社会性の向上やチームワーク形成、所属意識の形成に必要な行事を行った。
5月：家族に感謝の日 6月9月11月：モルック大会 7月1月：交通安全教室
8月：夏祭り 10月：ハロウィン 12月：クリスマス会 2月：バレンタイン
3月：買い物訓練

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った

日付	プログラム名	人数	内容
毎月	理念の継承	全員	職員会議内で理念と6つの願いを唱和
毎月	ケース検討	全員	職員会議内で利用者支援について共有、検討を実施
随時	理事長の言葉	全員	理事長の言葉を自由回覧

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った
ふれあいと合同で懇親会を行った。改めての自己紹介では職員の新たなる一面を発見。
仕事を離れて楽しい時間を過ごし、職員の日頃の働きを労う事ができた。

- 3 研修報告

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内研修	5/29	コミュニケーション	6	11/24	感染症BCP	5
	6/26	ハラスメント研修	7	11/24	感染症対策	5
	7/7	虐待防止・身体拘束	7	1/12	リフレーミング	6
	9/25	感染症対策	7	2/27	てんかん	7
	10/24	ストレンクス技法	5	3/26	防災研修	6
	10/30	精神障害支援方法	6			
法人研修	4/7	決算研修	1	9/11	労務関係研修	1
	6/7	新年度研修	3	10/7	新人オリエンテーション	1
	6/25	ハラスメント研修	1	2/20	労務研修	1
	7/24	コンプライアンス	1	3/4	防災研修	1
	8/21	交通安全講習	1			
施設外研修	7/25	地震BCP訓練研修	1	10/23	感染症BCP訓練研修	1
	9/19	感染症研修	1	12/18	BCP見直し・評価	1
	9/30	会計応用講座	1	2/19	てんかん専門職	1

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連する報告

日付	内容	参加者
5/31	金谷地区社協総会	職員1名
8/25	絆フェスタ maru 打ち合わせ・施設連絡会	職員1名
8/29	金谷公民館まつり打ち合わせ	職員1名
9/27	金谷地区社協主催絆フェスタ maru 参加	職員2名・利用者6名
11/1	金谷公民館まつり参加	職員2名
12/11	にこにこしまだクリーン大作戦	職員1名・利用者2名
12/27	年末年始休暇中車椅子地域へ貸与（資源還元）	
2/20	法人地域貢献事業カフェこむぎ打ち合わせ	職員1名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
毎月	希望の家お便り配布	利用者・保護者
年1回	保護者会	職員・保護者
12/23	クリスマス会 保護者招待	職員・利用者・保護者

G 苦情について対策

苦情なし

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の報告

事故	5	ヒヤリ	1	虐待	0	身体拘束	2
----	---	-----	---	----	---	------	---

事故：利用者トラブル5件

ヒヤリ：服薬関係1件

身体拘束：ご利用者Aさん1件Bさん1件 健康診断採血時9/26（保護者同席・同意書）

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

毎月火災・地震避難訓練を実施した。年2回消防署へ事前申請し、全体総合訓練を行った。

7/30 カムチャッカ半島沖地震の影響で JR 東海運転見合わせ、送迎で対応。

9/5 線状降水帯発生、施設裏河川氾濫（施設対岸側）13：30 施設閉所。

10/16 起震車体験（ふれあい合同）・消防士の指導による水消火器訓練実施。

11/5 法人全体防災訓練の際引き渡し訓練も併せて実施。ご家庭・GH の参加協力を得られた。

J 環境整備に関する報告（施設定期点検や100万円以上の修繕や改装など）

浄化槽点検、消防設備点検、草刈り等の環境整備、11月AED設置。

10/29 法人建物グループ主導による建物相互チェックをかたくりの花と実施。

ガレージガラス天井修理完了。

K 収支、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2025年度決算	2024年度決算	増減
サービス活動収益計	40,376,314	35,888,674	4,487,640
（内、就労支援事業収益計）	3,006,135	2,564,755	441,380
サービス活動費用計	32,430,335	29,991,962	2,438,373
（内、就労支援事業費用計）	3,007,298	2,566,139	441,159
経常増減差額	8,101,039	5,955,540	2,145,499
特別増減差額	△56,900,000	△4,014,522	△52,885,478
当期活動増減差額	△48,798,691	1,941,018	△50,739,979

2 借入金償還計画

なし

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

4月：体制届・変更届提出

M 実習生やボランティアに関する報告

実習生：なし

ボランティア：島田看護専門学校1年2名

見学者：特別支援学校高等部学生3名・保護者 特支職員4名以上

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

創立42年（県単独事業28年、牧ノ原やまばと学園運営16年）

2025（令和7）年度事業報告

就労継続支援B型事業所
ワークセンターふれあい

A 2025年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 目標について 「地域とつながり、ともに歩いていく」
情報共有と職員全員での工賃評価を行い、個々の強みを活かす支援の標準化に努めた。清掃や環境整備において職員・ご利用者の双方が役割を持つことで、施設を「自分たちの場所」として大切にすることが定着した。また、訓練や荒天時の課題を反映し、ポータブル電源導入等で防災力を強化。川根地区の機関や住民との連携を深め、より現実に則した防災体制を構築した。
- 2 事業報告
 - (1) 心理的安全の中で働ける職場環境を整え、支援の統一、チーム意識を高める。
支援計画や利用者状況の共有を行い、支援方法の統一を図った。また、職員全員で工賃評価を行うことで、多角的な視点から利用者のストレングスを再確認することができた。
 - (2) ご利用者・職員が気持ちよく働ける環境を保つ。
職員だけでなくご利用者も役割を理解し、自ら取り組む姿が見られるようになった。施設評価の中でも環境整備について改善された点として評価が得られた。
- 3 「理念に基づくサービス提供」についての活動報告
 - (1) 牧ノ原やまばと学園「サービス提供指針」に基づいてサービスの提供を行った。
職員会議内で理念の唱和、理事長の言葉を自由回覧し、理念の浸透と指針に基づいたサービスの提供を行った。
- 4 「法人の当年度重点計画」についての活動報告
 - (1) ご利用者の人格を尊重し、その願いに応える支援をする。
各研修において、利用者状況に則した演習を実施した。さらに職員間で意見交換を行い、実践的な支援スキルの向上に努めることで、支援の標準化を図った。
 - (2) 有事に機能する防災体制を築く。
各種訓練や荒天時の対応で見つかった課題に基づき、ポータブル電源の確保や備品の見直しを実施。通所中の発災を想定した川根地区の各機関（福祉事業所・公共施設）との連携強化に加え、地域住民との協力体制を再構築し、場面に応じた災害対応力を高めた。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
20	13	0	251	2959	11.8	58.9

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	2	1	1		6
常勤換算	0.125	0.5	1.875	0.75	0.125		3.375
計画との差	0	0	0.875	△0.875	0		0

3 残業、有給休暇取得に関する計画

総残業時間	1.5	最高残業時間	1	有休義務取得率	100	有給休暇取得率	51
-------	-----	--------	---	---------	-----	---------	----

4 職員会議、委員会、外部委員会の開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	職員会議	5	年2回	法人防災委員会	1
〃	施設管理者会	1	年2回	事故防止委員会	1

〃	作業就労部会	1	年2回	虐待防止委員会	1
隔月	研修委員会	1	年2回	苦情解決委員会	1
隔月	しごと部会	1	適宜	感染症対策委員会	5
年2回	川根本町自立支援推進会議	1	適宜	身体拘束検討委員会	5

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- ・自立支援協議会主催の「輝きウィーク」を利用し、2名職場体験に参加。
- ・利用者の社会性の向上やチームワーク形成、所属意識の形成に必要な行事を行った。
5月：家族に感謝の日 7月3月：交通安全教室 8月：七夕 10月：ハロウィンイベント
12月：クリスマス会 1月：新年会 2月：バレンタイン 3月：地域に感謝の日

D 職員の喜びや成長のために実現したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った

日付	プログラム名	人数	内容
毎月	理念の継承	全員	職員会議内で理念と6つの願いを唱和
毎月	ケース検討	全員	職員会議内で利用者支援について共有、検討を実施
随時	理事長の言葉	全員	理事長の言葉を自由回覧

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った
希望の家と合同で懇親会を行った。仕事を離れて楽しい時間を過ごし、職員の日頃の働きを労うことができた。職員会議内で個々の意見を聞く時間を作り、負担の共有や支援の中の喜びを分かち合った。

- 3 研修報告

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内研修	5/26	コミュニケーション	4	11/3	感染症研修	5
	6/23	虐待防止・身体拘束	4	11/24	ストレングス	4
	6/23	ハラスメント	5	12/22	構造化支援	5
	9/22	感染症研修	5	2/26	てんかん	5
	10/27	精神障害者支援	5	3/23	防災研修	5
法人研修	4/7	決算研修	1	12/18	BCP見直し評価	1
	6/7	新年度研修	1	2/20	労務研修	1
	6/13	ハラスメント	1	3/4	防災研修	1
施設外研修	7/25	地震BCP訓練研修	1	9/27	AED講習	3
	8/12	精神障害者支援	1	10/15	サビ管更新研修	1
	9/17	精神障害者支援	1	2/19	てんかん専門職	1

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した報告

日付	内容	参加者
12/5	にこにこしまだクリーン大作戦	職員1名利用者3名
12/7	地域防災訓練	職員1名
1/8	家山八幡宮へ参拝	職員2名利用者13名
2/16	公共交通ワークショップ	職員1名
3/19	地域に感謝の日（挨拶回り）	職員1名利用者13名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内容	参加者
毎月	ふれあいお便り配布	利用者・保護者
年4回	保護者会	職員1名・保護者10名

G 苦情について対策

苦情なし。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の報告

事故	4	ヒヤリ	1	虐待	0	身体拘束	0
----	---	-----	---	----	---	------	---

事故：転倒 2 件 服薬 1 件 車両 1 件

ヒヤリ：食事中のむせ 1 件

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

毎月火災・地震避難訓練を、発生時間や場所など毎回パターンを変えて実施した。年 2 回消防署へ事前申請し、総合防災訓練を行った。10/16 起震車体験（希望の家合同）。12/27 保護者・GH に協力を依頼し引き渡し訓練実施。職員に対し送迎中の発災を想定した机上訓練を実施し、走行ルート上の避難可能場所の抽出および車載備品の再整備を行った。

7/30 カムチャッカ半島沖地震の影響で公共バス運休の為、施設送迎対応。

9/5 島田地区線状降水帯発生も川根地区は発生・被害なし。

J 環境整備に関する報告（施設定期点検や 100 万円以上の修繕や改装など）

浄化槽点検、消防設備点検、草刈り等の環境整備 4 月 AED 設置

10/20 法人建物グループ主導による建物相互チェックを希望の家と実施。

K 収支、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2025 年度決算	2024 年度決算	増減
サービス活動収益計	25,044,353	24,401,916	642,441
（内、就労支援事業収益計）	2,119,478	1,887,583	231,895
サービス活動費用計	21,835,466	21,321,003	514,463
（内、就労支援事業費用計）	2,121,503	1,888,382	233,121
経常増減差額	3,277,258	3,088,350	188,912
特別増減差額	△31,008,801	△1,006,051	△30,002,750
当期活動増減差額	△27,731,543	2,082,299	△29,813,838

2 借入金償還計画

なし

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

4 月：体制届・変更届提出

9 月：消防立入検査 指導・指摘なし

2026 年度 4 月 1 日 定員 20 名→15 名へ変更 理事会承認、島田市福祉課了承済み
静岡県へ変更届提出（2026 年 4 月）

M 実習生やボランティアに関する報告

ボランティア：年間を通して 4 名の方がボランティア参加（施設回り整備・アルミ缶回収）

見学者：特支職員 4 名 藤枝特支高等部 2 年 1 名・保護者

実習：藤枝特支高等部 2 年男性 1 名 吉田特支高等部 2 年女性 1 名

N その他

創立 32 年（県単独事業 20 年、牧ノ原やまぼと学園運営 15 年）

2025（令和7）年度事業報告

就労継続支援B型事業所
ワークセンターやまばと

A 2025年度の目標と実践に関する振り返り

1 目標について

『ご利用者ひとりひとりを大切に、希望する生活が送れるように支援する』
前年度に引き続き夕礼を行い、当日のご利用者の情報を職員間で共有。翌日の支援に繋げる意識を持た。日々のご家庭からの情報もその都度共有し、ご利用者の言動の理解に努めた。

2 事業報告

(1) ご利用者の情報共有、支援方法の統一を図り、希望する生活が送れるよう支援する。

- ①支援方法の標準化のために必要な手順書の作成を行っている。特に、自主事業の手順書に時間を要している。
- ②ご利用者の特性の理解を深めた。作業場所の変更やカードを使用し、作業に向き合える時間が多くなり、稼働力の増加に繋がった。
- ③毎日、記録、夕礼にて情報共有を行った。毎月の職員会議では、重要なケースについて情報を共有、支援方法について検討を行った。
- ④ご利用者全員に年1回以上ご家族や保護者、計画相談担当者と面談を実施した。支援目標の確認や提供サービスの内容確認を行う。

(2) 手順書の見直しと改訂、作成を行う。

写真の準備をしたが、計画通りに進めることが出来ず完成には至っていない。

3 「理念に基づくサービス提供」についての活動報告

毎朝礼時、牧ノ原やまばと学園の理念、ビジョン、わたしたちの願いを唱和している。毎月の職員会議にてサービス提供指針、就業規則等の読み上げを行った。理念を踏まえた「体験から得たもの3分間スピーチ」を継続している。

4 「法人の当年度重点計画」についての活動報告

(1) 質の高いサービスが提供できるよう、職員の専門性向上と精神的成長への配慮の実施。

- ①施設内研修で権利擁護、意思決定支援等、サポカレ動画視聴研修を実施、専門性の向上に繋がった。
- ②清流館高校生との介護実習、吉田特別支援学校生徒の職場実習を行った。また、ボランティアの受け入れも行っている。

(2) 地域とつながる。

- ①牧之原市や圏域のイベントで自主製品の販売を行った。
- ②近隣の小学校生徒の職業体験の受け入れ、買い物訓練の場として自主製品の販売を行った。
- ③坂部サロン送迎を継続して行った。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
20	18	0	251	4260	17.0	84.9

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	3	3	1	0	7
常勤換算	0.5	0.5	2.0	2.8	0.7	0	6.5
計画との差	0	0	0	0.05	-0.3	0	-0.35

3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	46.75	最高残業時間	9.75	有休義務取得率	100	有休休暇取得率	91.1
-------	-------	--------	------	---------	-----	---------	------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	施設管理者会	1	年1回	身体拘束適正化委員会	全員
〃	作業就労部会	1	〃	法人事故防止委員会	1
〃	職員会議	全員	〃	法人虐待防止委員会	1
隔月	事務連絡会	1	〃	法人苦情解決委員会	1
〃	牧之原市自立支援 ネットワークしごと部会	1	年2回	施設内感染症委員会	全員
年1回	施設内防災委員会	全員	随時	ドリームまきのはら会議	1

C 利用者の喜びのため工夫したこと（日課・行事・その他）

- 1 できる部分を生かし、これまで携わらなかった作業に取り組む機会を提供した。
- 2 6/25 おたのしみ昼食会 7/7 セタかざり
8/30 納涼会 12/19 クリスマス会
12/22 みかん狩り（大関農園） 3/13 買い物訓練（静岡空港）

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 共通目標を認識するためのプログラムとして下記について実施した。

日付	プログラム名	対象者	内容
毎朝礼	理念の継承	全員	理念、ビジョン、ねがいを唱和
毎月	ケース会議	全員	利用者支援方法等の情報交換と共有情報

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のため下記について実施した。

- (1) 報告・連絡・相談は基本であるが、特に自主事業に携わる職員との連絡がうまくいかない場面があり、連携が図れていないことがある。
- (2) 職員会議では自由な発言の促進を図るため、コーヒープレイクを行っている。3月に懇親会を実施、互いに分かり合う良い機会となった。

- 3 研修報告

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内研修	8/30	感染症研修（サポカレ）	全員	3/23	感染症研修	全員
	3/30	身体拘束研修	全員			
法人研修	4/1	新人オリエンテーション	1	4/23	新任管理者研修	1
	6/7	新年度研修	6	4/13	ハラスメント研修	1
	9/10	労務研修	1	11/26	中堅職員研修	1
外部研修	5/23	食品衛生責任者研修	1	6/30	感染症対策研修	1
	7/7	ポップ売上アップ研修	1	8/8	自主事業生産性向上研修	1
	9/4	食品衛生責任者夏期講習	1	11/4	大人の発達障害研修	1

E 地域に対する公益的取組や地域との交流に関連した報告

日付	内容	参加者
5/10	矢崎部品株式会社地域感謝祭自主製品販売	職員2名、利用者2名
7/2、2/3	牧之原市健康福祉センターさざんか自主製品販売	職員1名、利用者1名
11/6、3/4	榛原庁舎自主製品販売	職員1名、利用者1名
9/3、12/11	相良庁舎自主製品販売	職員1名、利用者1名
4/2、7/7、9/3、3/20	泰善寺自主製品販売	職員1名、利用者1名
11/29	吉田特別支援学校文化祭自主製品販売	職員2名、利用者2名
1/31	牧之原市社会福祉大会自主製品販売	職員2名、利用者2名
2/21	坂口谷川河津桜まつり自主製品販売	職員2名、利用者2名
毎週火・木曜日	自主製品店頭販売	職員1名、利用者2名
毎月第3金曜日	坂部サロン送迎	職員1名
10/18	牧之原市災害ボランティア	職員2名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内容	参加者
6/27	保護者会 重要事項等説明	職員・保護者
毎月	「やまばとだより」発行	

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

3件

自主事業についての苦情が2件あった。自主事業のあり方の全面見直しを行う。自主製品の受注から配達までの流れを精査し、職員全員が理解、業務遂行できるようにしたい。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の報告

事故	8	ヒヤリ	4	虐待	0	身体拘束	0
----	---	-----	---	----	---	------	---

事故：自主事業に関する事故5件、外部の方への接触1件他

ヒヤリ：作業棟内で転倒を伴わない接触、施設備品の無断持ち出し未遂等

I 防災関連：防災訓練計画／課題の克服等の報告

備蓄品の購入をした。引渡し訓練を行う計画だったが、行うことができなかった。防災委員を中心とした防災体制強化が課題。

J 環境整備に関する報告（100万円以上の修繕や改装など）

毎月：害虫駆除（パン工場）

2回/年：消防設備点検、空調機点検、ワックス清掃

1回/年：浄化槽点検

K 収支、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2026年度決算	2025年度決算	増減
サービス活動収益計	49,147,613	47,604,002	1,543,611
(内、就労支援事業収益)	8,080,970	8,806,492	△725,522
サービス活動費用計	44,105,012	46,883,660	△2,778,648
(内、就労支援事業費用)	8,080,970	8,806,492	△725,522
経常増減差額	5,120,731	780,049	4,340,682
特別増減差額	△26,400,000	△605,171	△25,794,829
当期活動増減差額	△21,279,269	174,878	△21,454,147

2 借入金償還報告

なし

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

なし

M 実習生やボランティアに関する報告

<実習>

6/30～7/11 吉田特別支援学校高等部2年生 1名 職場実習

7/14～7/15 清流館高校1年生 2名 介護実習

1/19～1/30 希望寮利用者 1名 体験実習

<ボランティア>

三浦様（吉田町在住） 作業手伝い等

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

創立48年（開所 1977年10月1日）

2025（令和7）年度事業報告

就労継続支援 B 型事業所
ワークセンターさくら

A 2025 年度の目標と実践に関する振り返り

1 目標について

『働く仲間を大切にし、皆で前進していく』

今年度は、長い間途絶えていた新卒のご利用者を 2 名迎え入れた。若いエネルギーが加わったことで、作業室の雰囲気は一段と明るくなった。昼休みには互いに声を掛け合い、芝生広場でサッカーやバドミントンを楽しむ姿が見られ、仲間同士の友情も芽生えた。

作業面においては、ご利用者の月平均工賃が昨年度比で 25% 向上するという成果を上げることができた。この背景には、地元企業様のご協力による受託量の増加に加え、ご利用者一人ひとりの能力や体調を丁寧に把握し、適材適所の作業提供に努めた職員の支援、そして何より、その期待に応えたご利用者の努力と力があったからこそ結果であった。これらすべての要素が重なり、今年度の成果へとつながったと言える。

2 事業報告

(1) 支援体制の充実を図る

各人の作業アセスメント（作業場の知的評価）の見直しを行い、現在の能力の把握を行った（できることの再把握）それに基づく作業種提供の仕方等をケース会で検討し、新しい作業への挑戦の試行を重ねた。

(2) 生産性向上のための取組

環境の整備では、棚のラベル表示や作業室及び廊下の整理整頓を行い、目的に応じたスペースを確保することで提供スピードアップと生産性のアップを図った。

3 「理念に基づくサービス提供」についての活動報告

(1) ご利用者の人格を尊重し、その願いに応える支援をする。

法人の「サービス提供指針」に基づき、ご利用者一人ひとりをかけがえのない存在として接し、礼儀を失わないように努めた。

4 「法人の当年度重点計画」に関連した報告

(1) 自分の成長を実感でき、働きやすく楽しい、秩序ある職場をつくる。

個人の研修については、個別の目標に沿って計画的に進めた。法人研修、外部機関の研修に加え、サポーターズカレッジを活用し、短時間従業者にも研修の機会を提供し、全員が学ぶ機会を得た。月 1 回開催された「あつまりーナ全体会議」では館内全事業所の実績報告及び、情報提供等が行われ、全体把握の下で業務の修正提案や人員配置の適性評価等の意見を交換した。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
20	16	+2	250	3612	14.4	72.2

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	2 (1)	3	1	1 (1)	9 (2)
常勤換算	1.0	1.0	1.5 (0.5)	2.4	0.2	1.0 (1.0)	7.1 (1.5)
計画との差	0	0	0	0	0		0

3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	1.0	最高残業時間	1.0	有給休暇義務取得率	100	有給休暇取得率	84.2
-------	-----	--------	-----	-----------	-----	---------	------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	人数	開催日	種類	人数
毎月	施設管理者会	1	年2回	苦情解決委員会	1
〃	作業就労部会	1	年2回	事故報告委員会	1
〃	(あ) 全体会議	4	〃	防災委員会	1
〃	(あ) 防災会議	1	年1回	吉田特別支援学校説明会	1
〃	(あ) 感染症委員会	1	年1回	吉田町あ) 運営委員会	1
月2回	経営会議	1	年2回	吉田町福祉推進委員会	1
隔月	事務連絡会	1	年1回	圏域地域生活拠点意見交換会	1
年3回	吉田町避難所運営W	1	随時	未来検討会	1

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

4/18 新人歓迎ボーリング大会	6/13 ミニミニ運動会	7/7 七夕飾り
8/8 夏季賞与支給	9/29 昼休みの過ごし方練習	11/19 ハイキング
12/10 冬季賞与支給	12/12 クリスマス会	2/27 レクリエーション

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	人数	内容
毎月	ケース会	6	利用者個別支援計画の検討、情報共有
毎月	職員会議	6	管理者会報告、利用者及び作業状況確認他

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成については、円滑なコミュニケーションに努めた。

- 3 研修報告

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内	7~2月	サポーターズカレッジ（精神障がい、事故防止、家族対応、観察、コンプライアンス、セルフマネジメント、アサーション、中堅職員基礎知識、個別支援計画、感染症予防）				5
	7/4	災害時のBCP実施訓練	6	10/2	感染症BCP実施訓練	6
法人	4/20	決算研修	1	6/7	新年度研修	3
	6/13	ハラスメント研修	2	10/3・4	近江チイロバ会視察	1
	2/20	労務研修会	2	3/4	法人防災研修	2
外部	6/30	県感染症管理者研修	1	7/3	県就労選択支援研修	1
	7/18	県感染症対応研修	1	8/28	県感染症施設内学習研修	1
	11/15	吉田町防災講演会	1	12/16	ひきこもり講演会	1
	1/16	高次脳機能障害研修	1	1/23	県社会福祉施設等防災研修	1
	2/12	障害福祉サービス研修	1			1

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

9月5日、台風15号による竜巻直撃があり、吉田町社会福祉協議会が募集した「災害ボランティア」に応募した。（応募者多数により、実際の活動は無かった）

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内容	参加者
毎月	次月の行事予定配布	各家庭
5月	保護者会	職員3、保護者11
12月	あつまリーナクリスマス会招待	保護者、利用者、職員

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

- 1件：送迎時、職員がご利用者を怒鳴った。（という訴えが母親よりあった）
 不快な思いをさせてしまったことを謝罪すると共に、送迎担当の変更及び利用者支援について研修を実施する等の対応について説明をさせていただいた。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の報告

事故：1 ヒヤリ：3 虐待：0 身体拘束：0

事故：しりもち

ヒヤリ：情緒不安定のご利用者による他害未遂

虐待については、3ヶ月毎にセルフチェックを行い、虐待防止への意識を高めた。又、法人主催の全体虐待委員会にて他施設の取組等の情報を得ている。身体拘束については、身体拘束適正化委員会の中で内容を審議している。どちらも該当は無かった。

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

「あつまりーナ消防計画」・「地震津波対応マニュアル」に則り、毎月防災訓練を実施した。加えて、2/3 あつまりーナ「南海トラフ地震防災規程」（津波避難計画）を作成し、静岡市吉田消防署へ提出した。7/4「災害時業務継続計画実施訓練」を行い、各役割の活動を実際に行った。感染症対策として、感染症委員は県の研修を受講し、感染症マニュアルの再評価を行った。又、10/31「感染症BCP実施訓練」を行いゾーニング及び備蓄品の説明に続き初動対応のロールプレイングを行った。法人訓練では、月1回の携帯電話への安否コールの実施、年1回の法人全体訓練を行った。

J 環境整備に関する報告（施設定期点検や100万円以上の修繕や改装など）

浄化槽点検（年4回）、植木剪定・草刈り（年4回）、害虫駆除（毎月）、消防設備点検（年2回）館内清掃（年2回）、冷暖房装置点検（年2回）、自動ドア点検（年2回）
12/9～10 館内一部窓に遮熱フィルムを貼付（吉田町事業）10/21、建物の自主点検を実施

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2025年度決算	2024年度決算	増減
サービス活動収益計	37,809,562	33,125,107	4,684,455
（内、就労支援事業収益）	4,025,969	3,259,484	766,485
サービス活動費用計	35,370,596	32,888,236	2,482,360
（内、就労支援事業費用）	4,025,967	3,264,779	761,188
経常増減差額	2,578,553	280,230	2,298,323
特別増減差額	△20,771,000	△400,000	△20,371,000
当期活動増減差額	△18,192,447	△119,770	△18,072,677

※サービス活動収益の内、寄付金収益（438,000）

2 借入金償還報告 なし

※次年度より全事業所の金融資産を法人本部で一括管理するにあたり、年度末に一部の積立金を取り崩し、本部へ繰り入れた。

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

4/1、吉田町と2025年度指定管理年度協定を締結。

8/26、吉田町総合障害者自立支援施設「あつまりーナ」運営委員会にて、2024年度事業報告及決算、2025年度事業計画・予算の説明を行った。3/6、館内備品調査実施。

M 実習生やボランティアに関する報告

<実習・体験>

吉田特別支援学校高等部3年生2名、1年生1名、常葉大学保育科3年生1名
清流館高校福祉科1年生2名、吉田中学校2年生2名（職業体験）

<見学>

吉田特別支援学校先生5名、吉田特別支援学校高等部 親子 2組

吉田特別支援学校高等部1年生＋先生10名、駿遠学園（吉田特別支援学校）1名

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

4/24 業務監査、5/8 会計監査 指摘事項はなかった。

※創立35年（県単独事業28年、牧ノ原やまばと学園17年）

2025（令和7）年度事業報告

生活介護事業所
ケアセンターマーガレット

A 2025 年度の目標と実践に関する振り返り

1 目標について

『ご利用者の強みを活かし、個性を伸ばす支援を心掛けます』

通常活動の作業においてマンネリ化せず、ご利用者の能力に応じて作業内容を少しずつ変化させたり、ケース会議等で検討したりして個性を伸ばすように努めた。また、他事業所の研修（ABA 研修）やサポカレ研修に参加する事で職員のスキルアップに努めた。

2 事業報告

(1) 支援プログラムの充実を図る

本年度は新たな取り組みとして収穫感謝祭と称し、さつま芋の植えから収穫までをご利用者と一緒に行い、出来上がりに際しての達成感や喜びを分かち合った。創作活動も職員が相談し合い、毎月新しい創作に取り組むように努めた。

(2) 防災・災害対策等の整備

毎月防災訓練を実施し、防災意識を高めた。また、その後防災委員会を行い、あつまリーナの課題等について検討した。7月にBCPの実動訓練を実施し、BCPの必要性について理解した。また、防災グッズの有無の確認を行った。

3 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告

(1) ご利用者を大切にする

サビ管を中心にケース会議で、ご利用者に対する支援方針を話し合った。また、サービス提供指針の読み合わせを実施し、尊厳や倫理について学んだ。

(2) 職員を大切にする

会議等で一人一答を心掛け、話しやすい雰囲気作りに取り組んだ。職員の成長を促すように、隔月でサポカレ研修を行い、施設外研修等に積極的に参加するように努めた。

4 「法人の当年度重点計画」に関連した計画

(1) 自分の成長を実感でき、働きやすく楽しい、秩序ある職場を作る

サポカレでの研修を増やし、外部研修に対して参加の希望を募り、積極的に参加するように努めた。会議等で一人一答を心掛け、発言しやすい雰囲気作りに取り組んだ。

(2) 有事に機能する防災体制を築く

7月にBCPの実動訓練を実施し、個々の動きについて学び、理解した。また、全体でBCPについての話し合いを行った。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
20	19	-1	250日	4,248人	17人	85.0%
区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
0	0	0	3	6	7	3

2 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活支援員	事務員	看護師	その他	合計
実人数	1	1	8 (1)	1	1	0	12 (1)
常勤換算	0.2	1.0	6.0 (0.8)	0.2	0.1	0	7.5 (0.8)
計画との差	0	0	-0.6	0	0	0	-0.6

※施設長：生活支援員兼務

3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	66h	最高残業時間	4.5h	有給義務取得率	100%	有給休暇取得率	82.6%
-------	-----	--------	------	---------	------	---------	-------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加数	内容
毎月	あ)全体会議	2	事故・ヒヤリ・虐待・苦情、利用者状況
毎月	あ)防災委員会	1	防災訓練の振り返り、次回訓練の計画等
毎月	あ)感染症委員会	1	感染対策の動向・対応・対策 研修報告
毎月	職員会議	全員	行事計画、ケース会報告・ヒヤリ事故報告等
毎月	ケース会議	全員	利用者ケース確認事項・検討事項
毎月	生活ケア部会	1	利用者等・活動実績報告。検討・確認・共有
隔月	牧之原市自立支援ネットワーク	1	牧之原市、吉田町の重心に関する情報共有と検討
隔月	事務連絡会	1	会計・労務に関する情報共有
年2回	法人苦情解決委員会	1	各事業所の苦情に関する検討
年2回	法人事故防止委員会	1	各事業所の事故・ヒヤリに関する検討
8/22	吉田町(あ)運営委員会	1	事業報告・事業計画及び予算説明

G 利用者の喜びのために工夫したこと(日課・行事・その他)

月の定期的な活動として、散歩・作業・書道・音楽・創作・誕生会・外出行事等。
年中行事として、「収穫感謝祭」・「日帰り旅行」・「クリスマス会」を行った。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内容
毎月	ケース会議録	全職員	ケース会議録を読むことで、共通理解・共通認識に努めた。

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記の事を行った

- (1) 慰労会を開催した。
- (2) サービス提供指針等の読み合わせと会議時の心理的安全性の確保に努めた。

3 研修報告

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
法人外	年4回	BCP 研修	1	随時	強行研修	2
施設内	随時	サポカレ研修	8	7月	BCP 実動訓練(防災)	全員
		感染症研修	全員	10月		
法人	随時	予算研修	1	6月	新年度研修	4
				随時	主任等研修	1

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

9月5日、台風15号による竜巻直撃があり、吉田町社会福祉協議会が募集した「災害ボランティア」に応募した。(応募者多数により、実際の活動は無かった)

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内容	参加者
随時	行事予定・案内 (次月の予定・報告・連絡)	各家庭配布
毎月	マーガレットだより (活動状況の記事・写真入り)	各家庭配布
4月	保護者会	職員・保護者
12/12	あつまリーナクリスマス会	利用者・職員・保護者

G 苦情とその対応に関する報告

苦情:0件

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告 (交通事故も別に記載)

事故	12件	ヒヤリ	19件	虐待	0件	身体拘束	614件
----	-----	-----	-----	----	----	------	------

※事故:他害行為4件、薬関係3件、器物破損1件、転倒1件、怪我2件、無断外出1件

※ヒヤリ:他害回避2件、薬関係5件、外出1件、原因不明の怪我2件、誤嚥対応1件

その他1件、危険物の持ち出し1件、転倒未遂4件

※身体拘束:同意書あり 拘りによる人や物への突進。手や体で止める(4件)

同意書あり 車椅子利用で座位が保てない。ベルト使用 (402 件)
 同意書あり ベッドからの転落防止 4 点柵 (208 件)
 *全ての身体拘束に関し、3 要件が揃っている。また、適正委員会で話し合
 いの場を設けている。

*虐待：3 ヶ月毎にセルフチェックを行い、虐待防止への意識を高めた。又、法人主催の全体
 虐待委員会にて他施設の取組等の情報を得ている。

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

「あつまりーナ消防計画」・「地震津波対応マニュアル」に則り、毎月防災訓練を実施した。
 加えて、2/3 あつまりーナ「南海トラフ地震防災規程」（津波避難計画）を作成し、静岡市吉
 田消防署へ提出した。7/4「災害時業務継続計画実施訓練」を行い、各役割の活動を実際に行
 った。また 10/31「感染症 BCP 実施訓練」を行い、ゾーニング及び備蓄品の説明に続き初動
 対応のロールプレイングを行った。法人訓練では、月 1 回の携帯電話への安否コールの実施、
 年 1 回の法人全体訓練を行った。

J 環境整備に関する報告 (100 万円以上の修繕や改装など)

浄化槽点検 (年 4 回)、植木剪定・草刈り (年 4 回)、害虫駆除 (毎月)、消防設備点検 (年 2
 回)、館内清掃 (年 2 回)、冷暖房装置点検 (年 2 回)、自動ドア点検 (年 2 回)
 12/9～10 館内一部窓に遮熱フィルムを貼付 (吉田町事業) 10/21、建物の自主点検を実施

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告 (事業活動)

科目	2025 年度決算	2024 年度決算	増減
サービス活動収益計	43,693,506	41,651,749	2,041,757
サービス活動費用計	40,792,284	40,679,931	112,353
経常増減差額	3,096,423	1,110,891	1,985,532
特別増減差額	△47,954,000	△1,552,404	△46,401,596
当期活動増減差額	△44,857,577	△441,513	△44,416,064

※サービス活動収益の内、寄付金収益 88,000 円)

次年度より全事業所の金融資産を法人本部で一括管理するにあたり、年度末に一部の積立金
 を取り崩し、本部へ繰り入れた。

2 借入金償還報告 なし

L 主務官庁に関連した報告 (実地指導や指導監査等の報告、許可申請その他の報告)

・吉田町関係

4/1、2025 年度 管理に関する年度協定を締結。

8/26、あつまりーナ運営委員会にて 2024 年度事業報告及決算、2025 年度事業計画・予算の
 説明を行った。

M 実習生やボランティアに関する報告

<実習・体験>

清流館高校福祉科 1 年生 2 名
 吉田中学校 2 年生 2 名 (職業体験)

<見学>

吉田特別支援学校先生 5 名
 吉田特別支援学校高等部 親子 3 組
 吉田特別支援学校高等部 1 年生+先生 10 名
 駿遠学園 (吉田特別支援学校) 1 名

N その他 (監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等)

4/24 業務監査、5/8 会計監査 指摘事項はなかった。

※ 創立 20 年 (町単独 地域活動支援センター6 年・牧ノ原やまばと学園 15 年)

2025（令和7）年度事業報告

地域活動支援センター
レタスクラブ

A 2025年度の目標と実践に関する振り返り

1 事業所の目標と事業計画

『気軽に立ち寄り、安心できる場所』

ご利用者が思い思いに過ごす場所の提供を心掛けた。

来所の目的はそれぞれ違うが、本人の気持ちを中心に、安心・安全に気を配りながら支援を行った。

- (1) ご利用者が安心して利用できる環境を用意する。
いつでも安心して利用できるように、無理の無いプログラムを用意した。
限られた空間内、コーナーや寝具等を工夫し静かになれる場所を提供した。
- (2) 体力維持・人との交流を図る。
屋外での活動（散歩・バドミントン等）を積極的に取り入れ、体力増進に努めると共に、仲間とのコミュニケーションの機会を持った。
- (3) 関係機関と連携しながら進めて行く。
ご利用者の体調や行動に対して、関係機関と連携をとりながら対応にあたった。
(受診、金銭問題 等)

2 「理念に基づくサービス提供」についての活動報告

ご利用者が主体的に生きていくために、人権を尊重し自発的な活動を支援した。

3 「法人の当年度重点計画」についての活動報告

- (1) 自分の成長を実感でき、働きやすく楽しい、秩序ある職場をつくる。
職員会議では互いの支援について良いところを認め合い、思いを共有した。
法人研修、サポーターズカレッジの活用等、一人一人のスキルアップを図った。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
—	17	2	240	1012	4.2	—

2 職員状況

	施設長	生活 支援員	事務員	その他	合計
実人数	1 (1)	2	1 (1)	0	4 (2)
常勤換算	1.0 (1.0)	0.9	0.1 (0.1)	0	2.0 (1.1)
計画との差	0	0	0	0	0

※ () 内は兼務者実人数及び兼務者常勤換算数

3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	0	最高残業時間	0	有給休暇義務 取得率	100	有給休暇取得率	75.0

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	施設管理者会	1	年2回	苦情解決委員会	1
〃	作業就労部会	1	年2回	事故報告委員会	1
〃	(あ) 全体会議	4	年2回	防災委員会	1
〃	(あ) 防災会議	1	年2回	吉田町福祉推進委員会	1
〃	(あ) 感染症委員会	1	年2回	吉田町あ) 運営委員会	1
月2回	経営会議	1	年1回	圏域地域生活拠点事業説明会	1
隔月	事務連絡会	1	随時	法人未来検討会	1

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

毎月のプログラムは皆の意見を取り入れて作成した。
 季節の行事、ランチ作り、畑作業、卓球、脳トレ、今月の作品作り、外出（喫茶店）
 ストレッチ、体操、散歩、さくらの作業手伝い 等
 あつまりーナ合同行事への参加（クリスマス会）

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	人数	内容
毎月	職員会議	3	管理者会報告、利用者状況、次月の計画

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。
 常日頃のコミュニケーションを大切に、意思疎通に努めた。

3 研修報告

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内	7~2月	サポーターズカレッジ（精神障がい、事故防止、家族対応、観察、コンプライアンス、セルフマネジメント、アサーション）				5
	7/4	災害時のBCP実施訓練	6	10/2	感染症BCP実施訓練	6
法人	4/20	決算研修	1	6/7	新年度研修	3
	6/13	ハラスメント研修	2	10/3・4	近江チイロバ会視察	1
	2/20	労務研修会	2	3/4	法人防災研修	2
外部	6/30	県感染症管理者研修	1	7/3	県就労選択支援研修	1
	7/18	県感染症対応研修	1	8/28	県感染症施設内学習研修	1
	11/15	吉田町防災講演会	1	12/16	ひきこもり講演会	1
	1/16	高次脳機能障害研修	1	1/23	県社会福祉施設等防災研修	1
	2/12	障害福祉サービス研修	1			1

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

湯日川土手のゴミ拾い、吉田海岸清掃

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内容	参加者
毎月	次月の行事予定配布	各家庭

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

なし

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の報告

事故	0	ヒヤリ	0	虐待	0	身体拘束	0
----	---	-----	---	----	---	------	---

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

「あつまりーナ消防計画」・「地震津波対応マニュアル」に則り、毎月防災訓練を実施した。加えて、2/3 あつまりーナ「南海トラフ地震防災規程」（津波避難計画）を作成し、静岡市吉田消防署へ提出した。7/4「災害時業務継続計画実施訓練」を行い、各役割の活動を実際に行った。感染症対策として、感染症委員は県の研修を受講し、感染症マニュアルの再評価を行った。又、10/31「感染症BCP実施訓練」を行いゾーニング及び備蓄品の説明に続き初動対応のロールプレイングを行った。法人訓練では、月1回の携帯電話への安否コールの実施、年1回の法人全体訓練を行った。

J 環境整備に関する報告（施設定期点検や100万円以上の修繕や改装など）

浄化槽点検（年4回）、植木剪定・草刈り（年4回）、害虫駆除（毎月）、消防設備点検（年2回）館内清掃（年2回）、冷暖房装置点検（年2回）、自動ドア点検（年2回）12/9～10 館内一部窓に遮熱フィルムを貼付（吉田町事業）10/21、建物の自主点検を実施

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2025 年度決算	2024 年度決算	増減
サービス活動収益計	5,369,597	5,333,497	36,100
サービス活動費用計	5,228,776	5,301,335	△72,559
経常増減差額	143,268	32,892	110,376
特別増減差額	54	235	△181
当期活動増減差額	143,322	33,127	110,195

※サービス活動収益の内、寄付金収益（88,000）

2 借入金償還報告

なし

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

・吉田町関係

4/1、2025 年度 管理に関する年度協定を締結。

8/26、あつまりーナ運営委員会にて 2024 年度事業報告及決算、2025 年度事業計画・予算の説明を行った。

3/6、館内備品調査実施

M 実習生やボランティアに関する報告

井部博美さん（星いきいき財団）、殿村隆夫さん（元職員）

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

4/24 業務監査、5/8 会計監査 指摘事項はなかった。

創立 15 年 6 ヶ月

2025（令和7）年度事業報告

相談支援事業
生活支援センターやまばと

A 2025年度の目標と実践に関する振り返り

1 2025年度事業計画に関する報告

- (1) 「つながり、みとめあう：ご利用者と私たちが、サービス事業所が、地域がつながり認め合うことが、ご利用者の「幸せ」につながる。」について
サービス事業所との連携は、日頃の関係づくりも意識して取り組むことができた。一方で、地域とのつながりや障害理解の啓発は十分とは言えず、取組の遅れも課題として残った。
- (2) 「学び合い、育ちあう Part2：同じ目線で学び合いながら育ち合って、相談員としてのスキルを高めていく。」について
事例検討の機会がさらに増え、他事業所との合同実施も含め、学び合う環境は一定程度整備された。一方で、経験差による関係性等から、同じ目線での意見交換や育ち合う実践には課題が残った。
- (3) 「凡事徹底：むずかしいことができても、平凡なことができないということではいけない。平凡で当たり前のことが徹底してできる事業所になる。」について
挨拶や基本的な業務への意識は一定程度見られ、昨年度と比べ改善も進んだ。一方で、業務の多忙さや突発対応により、期限遵守やモニタリング等が後回しとなる場面もあり、徹底には課題が残った。
- (4) 「職員の育成について：OJT 機能を高めるため取り組みとして、事例検討、伝達研修を行い、外部講師によるOJTの機会を提供することで、職員を育成する。」について
事例検討は定期的に実施され、他事業所との連携も含め多様な視点を学ぶ機会となった。外部講師によるOJTも実施されたが、十分な活用には課題が残った。また、伝達研修は資料共有にとどまり、口頭での共有機会が不十分であった。
- (5) 「業務の効率化について：職員人数は前年度に比べて減少するが計画件数は前年同様のため、前例にない業務の効率化が求められている。できることを1つずつ進める。」について
スマホアプリやイヤホンマイク、AI等の活用により、連絡や記録作成の効率化は一定程度進んだ。一方で、業務量の多さや優先順位の整理が不十分な点から、残業増加や負担感も見られた。
- (6) 「相談支援事業について：委託相談と計画相談の担当を明確に分けた事業を行う。委託相談は、行政と協働しながら相談業務を行う。計画相談は、社会福祉法人牧之原市社会福祉協議会運営の生活支援センターつばさと協働による体制を確保し、利用者中心支援や意思決定支援に基づく相談支援を行う。」について
委託相談と計画相談の役割を明確に分けたことで業務は整理され、つばさとの協働による事例検討を通じて多角的な視点や支援力の向上につながった。一方で、委託相談の役割の明確化や、意思決定支援を踏まえた実践は今後の課題である。

2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告

利用者の意向把握や人格の尊重を意識した支援に取り組んだが、時に、面談時間の十分な確保が難しいこともあり、計画作成が形式的となる場面も一部で見られた。また、意思表示が難しい方への支援には更なる工夫が求められる。

3 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告

働きやすい環境整備や意見を言いやすい雰囲気づくりは一定程度進んだ。一方で、業務の忙しさから余裕が持てず、挨拶や声かけが不足し、楽しさや大切にされているという実感につながりにくい面も見られ、職員間のチームワークに影響が生じた。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

①特定相談支援事業実績(作成件数)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計画	39	29	21	26	26	26	22	22	20	36	20	20	307
モタリング	92	89	92	90	72	78	95	84	107	78	111	120	1,108
計	131	118	113	116	98	104	117	106	127	114	131	140	1,415

*前年度比+92件(計画-12件、モタリング+104件) 事業計画達成率117.1%

②委託相談支援事業実績(支援件数)

	訪問	来所	同行	電話	メール	個別支援 会議	関係機関 連絡調整	その他	計
牧之原市	109	119	33	808	32	29	345	175	1,650
島田市	75	133	93	644	408	92	880	38	2,363
合計	184	252	126	1,452	440	121	1,225	213	4,013

*前年度比-223件(牧之原市+16件、島田市-239件)

2 職員状況(年度末現在、増減は昨年度末比)

	施設長	主任 相談員	相談員			事務員	合計
			常勤 専従	非常勤 専従	常勤 兼務		
実人数	1	1	5	1	1	1	10
常勤 換算 人数	委託	1.0	1.0				2.0
	計画		4.0	0.6	0.5		5.1
	他	0.1				0.3	0.4
増減	±0	±0	-1.0	±0	±0	±0	-1.0

専門職国家資格：社会福祉士5名、精神保健福祉士2名

委託相談市町別人工内訳：牧之原市1人工、島田市1人工

新規採用：なし、退職：なし、配置転換(転入)：なし、配置転換(転出)：なし

その他(兼務)：4/1石神昌代(相談員)牧之原市地域包括支援センター相談員兼務

3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	1,873.8時間	最高残業時間	394.2時間	有給休暇取得率	73.2%
-------	-----------	--------	---------	---------	-------

残業時間職員一人当たり平均 234.2時間/年、19.5時間/月

前年度比で総残業時間は153.5時間増(108.9%)、有給休暇取得率は11.9%増

残業については、一人当たりの平均で約19.1時間/年、約1.6時間/月増。

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

(1) 外部会議

開催日	種類	参加者	内容
毎月	牧之原市協議会関係	担当	地域実状に応じた体制整備について協議 協議会・各部会の企画運営
毎月	島田市協議会関係	担当	地域実状に応じた体制整備について協議 協議会・各部会の企画運営
毎月	吉田町相談支援部会	担当	相談支援部会に参加。地域課題等を提起。

その他、圏域の会議等あり

(2) 法人内会議

担当者を選任し以下の会議に出席した。経営会議、施設管理者会、苦情解決委員会、生活ケア会議、防災委員会、事故防止委員会 他

(3) 事業所内会議

センター定例会を毎週1回開催し、事務連絡、ヒヤリハット・事故報告、ケース共有・検討等を行った。

C 利用者の喜びのために工夫したこと

日々の地域相談に加えて、地域貢献交流事業に関わることで、「地域とつながる」取組の一部を実施することができた。また、本人中心支援・意思決定支援理解のための事例検討会を、他事業所の研修会と併せて開催することができた。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内容
毎朝	理念の継承	全員	朝礼で50年記念誌等の読み合わせ
12月頃	自己評価	全員	法人評価表に合わせて実施
年4回	施設長面談	全員	個別目標等の確認、評価を実施

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。

お互いストレングスの視点で互いに学び合い、ねぎらう機会は交流会を設けた。

朝礼時にケース相談に時間を持つこと等、気軽に相談できる環境を継続している。

3 研修報告

(1) 外部研修

静岡県、静岡県精神保健福祉士協会、基幹型相談支援センター等主催の研修に延べ21名が参加した。また、外部団体研修の講師等として主任を3回派遣した。

(2) 法人内研修（事業所外）

法人新年度研修、事例検討会に延べ11名が参加した。

(3) 事業所内研修

毎週水曜開催の定例会内で定期的に事例検討や事例共有等を実施した。第2、4水曜日は生活支援センターつばさと共同で事例検討会を実施した。また、施設長面談に合わせてサポカレ（身体拘束、感染症等）視聴研修を実施した。

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

1 地域に対する公益的取組

関連事業所と連携の上で、毎月1回（計12回）坂部ふれあいサロンの送迎支援を行った。また、地域（坂部小学校、榛原中学校）の資源回収、法人を通じた行政食糧支援に協力できた。

2 地域との交流

地域の町内会（坂2班長会）定例会や新旧役員交代会に出席、新年挨拶周りをを行い地域住民の方との関わりに努めた。また、地域防災訓練の際は事前説明に伺い当日は15名の自主防災担当者が見学に見えるなどの交流を行った。

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

地域貢献交流事業に関わる事で、地域との交流の機会を得ることができた。

G 苦情とその対応に関する報告

なし

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告

- 1 事故
2 件。車輛事故、訪問先の利用者宅で犬にかまれる事故が発生した。
- 2 ヒヤリハット
1 件。家族から訪問看護の連絡不足を指摘された。
- 3 虐待 なし

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

- 1 防災訓練
安否コール返信訓練を毎月実施した。総合防災訓練として、拠点内事業所を協働で11月（法人全体）に実施した。
- 2 被害状況 なし

J 環境整備に関する報告（100万円以上の修繕等）

新規軽自動車の購入 1,229,800円

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

- 1 収支報告（事業活動）

科目	2025年度決算	2024年度決算	増減
サービス活動収益計	46,330,966	46,781,627	△450,661
サービス活動費用計	46,705,823	51,708,861	△5,003,038
サービス活動増減差額	△374,857	△4,927,234	4,552,377
経常増減差額	△357,028	△4,900,379	4,543,351
当期活動増減差額	474,850	△4,900,379	5,375,229

※サービス活動収益の内、寄付金収益（0円）

- 2 借入金償還報告 特になし

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査等の報告、許可申請その他の報告）

委託相談に関する事業計画書・報告書を牧之原市、島田市に提出した。

M 実習生やボランティアに関する報告

- 1 実習生
2/9～2/19 静岡福祉大学3年生社会福祉士ソーシャルワーク実習Ⅰの実習生1名を受け入れた。
- 2 ボランティア なし

N その他

社会福祉法人牧之原市社会福祉協議会生活支援センターつばさからの申し入れに伴い、計画相談事業については、協働運営を行った。

前年度に引き続き、静岡県からの委託を受け、主任の田村が中心となり、令和7年度志太榛原地区在宅重症心身障害児者対応多職種連携研修の開催を企画・運営した。開催は11月30日（日）、場所は島田市役所3階大会議室、参加者は計〇名であった。

2025（令和7）年度 事業報告

介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）
 聖ルカホーム
 短期入所生活介護
 聖ルカショートステイ

A 2025年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 「利用者・家族・職員に笑顔の花を咲かせたい」の目標達成のために“伝えあう事・繋がる事”を大切にしていきたいと計画をしました。利用者と繋がるためには、入居前の暮らしについての情報収集、入居時の状態の把握、そしてこれからの要望を聞き取る事を実践してきました。家族との関係づくりとしては、施設のケアへの方針を伝えること、情報収集後これからの暮らし方の提案、そして何より家族と施設と一緒にサポートしていく協力体制の構築に努めました。行事などへの参加を呼びかけ、積極的に施設を見ていただく機会をつくってきました。職員同士の笑顔のために、2025年度は「ユニットケアの実現」のために、多職種での取り組みをしました。現状のケアについての確認、聖ルカホームでの暮らしが入居者一人ひとりにとって充実したものとなるように勉強会や専門家によるアドバイスをいただきケアの見直し、施設内の設えの充実に取り組みました。
- 2 事業計画
 - (1) その人らしい暮らしの実現
 - (2) 選ばれる施設づくり
 - (3) 職員がいきいきと働く職場づくり

上記(1)～(3)に対しての取り組みは、Aの報告でもあったとおりユニットケアの実現（充実）への取り組みを推進することで実践してきました。集団ケアではない一人ひとりに合ったケアの実践は、尊厳の保持にもつながりました。よいケアを目指し実践することや、取り組みを発信することで、利用者（家族）やケアマネジャーから選ばれる施設となれました。自分たちを変化させることは、職員にとってはとても負担となり様々な意見がありましたが、外部からの評価は、職員たちのモチベーションになり試行錯誤しながら前進できました。
- 3 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
 - (1) 職員が法人理念を深く理解し実践できるよう、学びの機会を設ける。 ➡ 会議等で「わたしたちの願い」「サービス提供指針」の唱和を行った。法人開催の研修会に積極的に参加しました。
 - (2) 一人ひとりがかけがえのない存在である事を認識し、尊厳ある対応ができるよう職員育成を行う。 ➡ 会議等で「わたしたちの願い」「サービス提供指針」の唱和を行いました。
- 4 「法人の当年度重点計画」に関連した計画
 - (1) ご利用者の人格を尊重し、その願いに応える支援をする ➡ ユニットケアについての取り組みで、利用者や家族との関係づくりを大切にしたい1年でした。歩まれてきた人生を知る事、大切にしてくれたことを知る事、居心地の良い居場所づくりをすることを、家族に協力いただきながら進めることができました。
 - (2) 自分の成長を実感でき、働きやすく楽しい秩序ある職場をつくる ➡ 職員育成について、就職時の研修、必須研修について計画的に行うことができました。他施設の見学では、新たな気づきがあり良いケアへつなげるとともに、職員の成長にもなったと感じました。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

(1) 長期入所（定員 70名）

2026年3月31日現在

現員数	68名	平均介護度	3.9
最年長	100歳	介護1	0名
最年少	54歳	介護2	0名
平均年齢	85.1歳	介護3	28名
稼働率	98.6%	介護4	17名

入居者数	19	介護 5	23名
退去者数	21	待機者数	29名

(2) 短期入居者 (定員 10名)

実利用者数	延利用者数	年間平均稼働率
515名	2,978名	81.6%

2 職員状況

役職・職務	実人員	常勤換算	備考
施設長	1名	0.85	さふらん管理者兼務
事務長	1名	0.4	高齢者事業部
副施設長	(2名)	—	看護主任、事務主任兼務
相談員・ケアマネ	6名	4.85	
介護員	45名	41.57	時短1名、EPA生1名、特定技能生4名
看護師	5名	4.3	
管理栄養士	1名	1.0	グレイス兼務
事務員	4名	2.325	真菜、さふらん、オリーブ、ぶどうの木兼務
介護補助員	7名	2.245	さふらん兼務
宿直員	4名	1.0	
清掃員	0名	0.0	
嘱託医師	1名	0.1	
合計	75名	58.64	

3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	7,123時間 25分	有給休暇取得率	57.3%
-------	-------------	---------	-------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催回数	種類	参加者	内容
12回	経営会議	施設長・副施設長・主任・事務長	施設運営全般、職員教育、全体行事、課題解決等
14回	ケア向上委員会 (生産性向上委員会、 ユニットケア推進委員会 含む)	経営会議メンバー・ エトリダー・相談員・ 栄養士	経営会議の決定事項の周知、ユニットの課題や現状報告・業務改善すべき事項・ユニットケアの推進・看取りケア等
3回	事故防止検討委員会	同上	事故・ヒヤリの検討、啓発、研修
4回	虐待防止検討委員会	同上	虐待防止に関する事、研修
4回	身体的拘束適正化委員会	同上	身体拘束に関する事、研修
4回	感染症等対策委員会	経営会議メンバー・ 代表職員・相談員・ 栄養士	感染症、喀痰吸引、口腔ケアに関する事
9回	職員会議	全職員	情報共有・研修等
12月	衛生委員会	産業医・衛生管理者・ 施設長・他	職員の安全衛生、健康管理、ストレスチェック等
毎月	ユニット会議	各ユニット職員・ 他職種代表者	ご利用者の処遇検討、業務改善、研修等
11回	エトリダー会議	主任・リーダー	ケアに関する取組み
12回	事務ミーティング	事務長・事務員	会計・労務等の確認 他
12月	メンテナンス会議	各部署代表者	施設設備、備品、介護用品の整備
12月	防災対策会議	各部署代表者	防災訓練等の計画・実施
5回	優先入所検討会	外部有識者・施設長・ その他職員	入所申込者(待機者)の入居順位を検討し決定する
7回	食事栄養会議	栄養士・職員代表・ 給食業者	食事や献立についての検討
12月	広報会議	副施設長、担当者	SNSで発信する内容の検討
6回	余暇活動委員会	各部署代表者	余暇活動の計画実施について

2回	法人苦情解決委員会	主任 他	苦情解決に関する事
2回	法人事故防止委員会	副施設長 他	事故防止に関する事

C 利用者の喜びのために工夫したこと

行 事	内 容
敬老会	ユニット毎、長寿を祝い健康を祈念し開催。ご家族参加で、歌やゲームで楽しむ
クリスマス会	ご家族も参加し食事を楽しむ。参加者で賛美歌を合唱 他
カフェ開催	季節のお菓子や、さつま芋のデザートなど。他の事業所のご利用者や職員もご招待。よい交流ができた。
展示会への参加	みんなで協力し作成した作品を展示会に出品し観賞
納涼祭	入居者、職員が浴衣を着て、輪投げなどのゲームやチョコバナナなどを食べ縁日の雰囲気を楽しむ
100歳の祝いの会	100歳の誕生日を家族、他の入居者とともにお祝いした。入居後の写真をスライドショー。カラオケを楽しまれた。お祝いのお饅頭を参加者で食べた
外出	道の駅そらっと、吉田公園、清水堂の花火大会、河津桜見物、いちご狩り等
ご利用者の夢を叶える	・図書館に行きたい ・お寿司が食べたい ・自宅に行きたい ・ピザが食べたい 他
ユニット調理 (食事・デザート作り)	ちらし寿司、いなり寿司、天ぷら、そば、チーズフォンデュ、麻婆豆腐、卵焼き、チャーハン、シチュー、和菓子、柏餅 他
移動販売車での買い物	移動スーパーを依頼し買い物を楽しむ
ユニットでレクリエーション	輪投げ大会、風船バレー、花火、七夕まつり、スイカ割り、カラオケ大会、クリスマスリース作り、豆まき 他
クラブ活動(体操)	“元気もりもりタイム”と題し、ボール体操や手ぬぐいを使った体操、時には唱歌をみんなで歌った
手打ちそばの実演	ボランティアの方が目の前で蕎麦打ちを実演され、打ちたての蕎麦をみなさんで召し上がった
餅つき大会	高校生による餅つきやパフォーマンスを鑑賞
たい焼き	玄関先でたい焼きを焼き、作りたてのたい焼きを食べた

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行いました。

日付	プログラム名	対象者	内 容
各会議	理念の継承	全 員	サービス提供指針の読み合わせ
各会議	職場の倫理	全 員	服務心得の読み合わせ
毎 月	部署毎のミーティング	全 員	部署毎の情報共有と課題解決
毎 月	ケア勉強会	介護員	食事、排泄、入浴に学び、課題を見つけ取り組む
毎 月	記録の書き方	介護員	主に24時間シートの書き方
年 間	ユニットケアの学び	全職員	ユニットケアを実践するため、また、ユニットリーダー研修実地研修施設を目指し、ケアや設え等の見直しを行った
1~3月	食事についての学び	全職員	2026年度から食事提供が変更されるため、美味しく食事を提供するための学びや施設見学を多職種で実施した

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。

- ① 職員会や各種会議では、役職や身分に関わらず誰もが発言できるように配慮。小グループでの話し合いの機会を多く設けることができました。
- ② ユニットケアを実践するため、多職種で学び、話し合い協力しあう事が出来た。

3 研修報告

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
施設内研修	4/24	虐待・不適切なケアの根絶	37	4/24	牧ノ原やまぼと学園で働く職員として	39
	5/22	身体拘束研修	34	5/22	脱水・摂食・嚥下について	34
	7/25	感染症（予防）	29	7/25	防災BCP（机上）	25
	7/25	法令等遵守	25	8/28	事故防止	29
	8/28	感染症（発生時シミュレーション）	29	9/25	看取りについて	31
	9/25	BCP 台風対策	31	10/14	事故防止について	10/14
	11/27	ユニットケアについて	30	12/24	感染症BCP（シミュレーション）	34
	12/24	虐待防止について	34	1/26	職場の健康と働き方	23
	2/17	正しい喀痰吸引と栄養	27	2/17	口腔ケアについて	27
	3/26	正しい介護技術	26	3/26	防災BCP（シミュレーション）	26
	4/2 他	就職時研修	54	6/19 他	特定技能研修	20
	毎月	防災・BCPについて	全員	8/12 他	24時間シート研修	31
	※ その他、ユニット会議等にてオンライン研修を受講					
法人研修	4/1	新人職員オリエンテーション	2	5/11	新人歓迎礼拝	1
	5/16	新人職員研修	2	6/4	新年度研修	4
	6/13	ハラスメント研修	3	8/21	新人職員オリエンテーション	1
	10/7	新人職員オリエンテーション	2	10/10	新人職員研修	2
	11/28	中堅職員研修	7			
施設外研修	4/21～	介護施設における安全対策担当者養成研修	1	4/23～	福祉職員キャリアパス対応生涯研修	1
	6/5	EPA ライブ講義	1	6/14	看護職員交流会研修	1
	6/17	静岡県給食協会研修	1	6/19	牧之原市高齢者虐待対応研修	6/19
	6/30	ユニットリーダー研修施設に向けて	13	6/30～	認知症介護実践リーダー研修	3
	7/2	EPA ライブ講義研修	1	7/8	接遇マナー	1
	7/14, 15	EPA 東京集合研修	1	7/28～	ユニットケア研修（ユニットリーダー）	2
	8/4	認知症介護基礎研修	2	8/5	EPA ライブ講義研修	1
	8/15～	認知症チームケア推進研修	2	8/15～	経理応用講座	1
	8/18	介護支援専門員 基礎研修	1	8/22	施設ケアマネジメント研修会	1
	9/3	高齢者福祉研究大会	6	10/6	認知症介護実践者研修	10/6
	10/10	身体拘束廃止推進員養成研修	1	10/17	会計実務専門講座	10/17
	10/24	実習指導担当者会	1	10/28	EPA 国家試験対策	1
	11/7	健康づくり研修会	1	11/9	未来創造たまご塾	1
	11/20	認知症研修会	2	11/6, 7	EPA 集合研修	1
	12/12	外国人労働者雇用労務責任者講習	1	12/12	認知症の人のためのレク作りのポイント	12/12
	12/15	キャリアデザイン研修会	1	1/14	カフェこむぎ営業許可研修	1
	1/22	調理技術研究会	1	1/23	ケアマネジメント研修会	1
	1/29	都道府県経営協セミナー	1	1/30	食品衛生責任者養成講習会	1
	2/4	美里ヒルズ見学	7	2/12	介護分野における生産性向上セミナー	2/12

2/12	クックデリ認定栄養ケア・ステーション	1	2/19	看護職のためのユニットケア研修	2
2/20	食に携わる職員のためのユニットケア研修	1	2/24	給食委員会 役員会	1
2/27-28	日基社事同研修	1	2月～	決算実務講座	4
3/4.5	生活支援技術研修	1	～3/13	身体拘束廃止フォーム	3/13～
3月中	認知症介護基礎研修	4	3月中	認知症チームケア推進	2
3/19.20 3/27.28.29	ACC 特定技能生研修	2			
※ 研修参加者は会議等で報告を行い全職員で共有					

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内 容	参加者
8/1.21	牧之原市主催「オープンカンパニー」	職員、榛原・相良高校生
9/23	地域との防災連携について 防火水槽点検	職員3名、消防団員4名
10/21	浜松市民生委員視察受け入れ	職員4名、民生委員15名
10/28	福祉サービス事業所芸術祭への参加	利用者、職員
11/2	地域子供神輿が来ホーム。お囃子の披露を鑑賞	利用者、職員
12/1	地域の防災訓練へ参加（災害時被害状況報告）	職員1名
5/15、 7/17、12/11	牧之原市介護予防ケアプラン会議	栄養士
	サロン送迎	職員6名
	社会福祉法人減免実施	—

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
毎月20日	聖ルカだよりの発行	職員全員
10/20	ご家族アンケートの実施	相談員
不定期	ケアプラン作成のためのカンファレンス	ケアマネ、看護師、栄養士 他
随時	敬老会、クリスマス会、焼き芋等イベントへご家族参加	入居者・家族・職員
随時	桜の花見、いちご狩り等外出へご家族参加	入居者・家族・職員
随時	インスタグラム、フェイスブック継続	担当職員

G 苦情とその対応に関する報告

日付	誰から	内 容	対応者
5/4	入居者家族	持ち込み電化製品の使用方法が職員で共有出来ていない、ベット周りや衣類の汚れに気を付けてほしい、お菓子の差し入れをしてもいいのか	相談員
6/13	ケアマネ	介護予防事業への当日参加連絡を確認せず断った。	相談員

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告（交通事故も別に記載）

事故	185	ヒヤリ	66	虐待	0	身体拘束	0
----	-----	-----	----	----	---	------	---

行政報告 4件

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

日付	項目	内 容	参加者
毎月	防災訓練	避難・災害時食事提供・消火・停電等訓練	職員全員対象
9/5.6	竜巻被害による停電	非常発電機稼働。9/5 正午過ぎ停電。9/6 21時頃復旧。（非常食対応、空調停止）他法人より生活用水の寄付あり。	
12/6	地域防災訓練への参加	災害時被害状況報告訓練に参加	職員1名 坂部区

2/12	消防署との連携	防火水槽の安全点検実施	職員 1 名 消防署員 4 名
------	---------	-------------	--------------------

J 環境整備に関する報告 (100 万円以上の修繕や改装など)

入浴支援機器 4 台の導入 (* 移乗支援機器 1 台の導入 100 万円未満のため載せませんか)
送迎車輛 1 台 (ダイワ タト) 1 台購入

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告 (事業活動)

科目	2025 年度決算	2024 年度決算	増 減
サービス活動収益計	440,951,759	427,121,530	13,830,229
サービス活動費用計	446,451,836	433,057,369	13,394,467
経常増減差額	△7,879,053	△8,892,633	1,013,580
特別増減差額	△23,150,443	2,784,942	△25,935,385
当期活動増減差額	△31,029,496	△6,107,691	△24,921,805

※サービス活動収益の内、寄付金収益 (130,000 円)

2 借入金償還報告

契約年月日	利率	期間	金融機関	借入額	償還額	残額
2014.10.7	0.851	10 年	静岡銀行	95,000,000	34,353,900	60,646,100
2014.10.7	1.1	30 年	島田掛川信用金庫	427,500,000	144,171,979	283,328,021

L 主務官庁に関連した報告

聖ルカホーム、聖ルカショートステイ事業更新(※R8 4/1~更新は 2026 年度でしょうか)

M 実習生やボランティアに関する報告

1 実習

- ① 静岡福祉大学：介護福祉実習 2 名 榛原中学校：職業体験 3 名
- ② 静岡福祉医療専門学校：介護福祉実習 2 名 常葉学園大学：栄養士実習 1 名

2 ボランティア

- ・日赤奉仕団 (草取り・福祉用具清掃) 4 回 (延べ 55 名)
- ・J A 女性部どんぐり (ウエス切り) 12 回 (延べ 36 名)
- ・里山の会 (門松の寄付設置)
- ・恵泉女学園
- ・榛原高校野球部 (もちつき、余興) 23 名
- ・地域の方 2 名が、ロビーに花や雛飾り等季節感のある設えに協力 (計 17 回)
- ・あざみ会 (日本舞踊・体操) 11 名

N その他

- ・ユニットケアに取り組み、ユニットリーダー研修実地研修施設認定
- ・E P A 一人目が介護福祉士合格後、帰国
- ・インドネシアから特定技能員を 2 名採用
- ・牧之原市より介護予防事業の受託 (2024 年度までのぶどうの木事業の一部)
- ・介護者リフレッシュ事業 2 回実施 (牧之原市より受託)
- ・介護テクノロジー機器の導入を検討し、購入。入居者様・職員共に効果が得られる結果が見られた。
- ・10/21 他法人施設と施設間交流 (特別養護老人ホーム羽鳥の森)
- ・寄附金にて送迎車を購入 (遺贈記念に、はなみずき 2 本植樹)
- ・給食委託契約 3 月末日終了 (2026 年度より完調品の購入による食事提供に変更)
- ・入居者様 1 名 100 歳を迎えられた
- ・月 2 回 体操クラブ (元気もりもりタイム) を実施

2025（令和7）年度 事業報告

地域密着型介護老人福祉施設
入所者生活介護
特別養護老人ホームグレイス

A 2025年度の目標と実践に関する振り返り

1 事業所の2025年度事業計画に関する報告（総括）

- (1) 感染症対応は、昨年度の反省を踏まえ、感染職員が出るのはやむを得ないとして、それを施設内で拡大させることを防ぐ方向で、面会制限、職員休日指示、予防や感染所の訓練（標準予防策）を行うことを方針とした。幸いなことに、利用者に感染なく、職員にコロナ3名、インフル1名の計4名が自宅で感染したが、施設内で拡大することは無かった。大行事2件も開催できた。
- (2) 本体施設との連携は災害対応訓練において連絡会議の体制を持った。行政（集団指導、研修参加）、地域（坂部サロン参加2回）とはこれまで通りの付き合いであった。
- (3) 昨年度採用の外国人ワーカー2名につき、残念ながら1名の離職が3月にあった。兄夫婦が関東で働いていること、その妻が外国人就労管理会社に勤務しており、手続きがスムーズだったこと。親族が関東に集まってきていること、当地が移動に不便であり、スーパーなど店舗が遠いことが本人から理由として話あり。
- (4) ご利用者、ご家族に安心していただけるサービス提供については、運営推進会議で意見を伺ったり、満足度調査を行い、概ね良好との印象である。
- (5) 電話番号や留守番の相互依頼や、防災訓練での協力など、協力しあえた。

2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告

職員会議で法人理念を示唆する資料に触れる機会を持ち、ユニット会議において「サービス提供指針」「服務心得」の読み合せを行って理念の浸透を図った。

3 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告

- (1) 努めて同姓介助となるように入浴、排せつのケアに同姓職員を配置した。出来ない場合には、丁寧な説明と接遇に努めた。
- (2) 新人職員への研修、無資格介護職員の研修受講、中堅職員の資格取得（介護支援専門員・ユニットリーダー・喀痰吸引等）の推奨を行った。
- (3) 意見の違いを乗り越えて、相互に成長するところまでは出来ていない。
- (4) (5) 地域との防災上の連携につき、12月の地域防災訓練に職員が参加した。
- (6) インスタグラムを事務中心に随時更新し、施設の様子を発信した。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績（3月末）

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
29	29	0（退所10 入所10）	365	10407	28.5	99.4%
		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
		1	0	5	11	12

2 職員状況（3月末）

	施設長	相談員 (ケアマネ)	看護師	介護員	事務員	補助員	合計
実人数	1	1	3	23	2	2	32
常勤換算	1.0	1.0	2.5	17.93	1.31	1.11	24.85
前年増減	0	0	0	-0.38	0	+0.11	+0.27

3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	3097：45	最高残業時間	385：10	有給休暇取得率	65.2%
-------	---------	--------	--------	---------	-------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者	内容
年2回	法)防災委員会	1-2	研修、事業所BCPの検討、本部BCPとの連携
年2回	法)苦情解決委員会	1	苦情解決経緯・対応等の検討、第3者委員
年2回	法)事故防止委員会	1	集計報告、事故の原因究明と再発防止策、評価
年2回	法)虐待防止委員会	1	事例報告、対策について検討、各施設の取組
月1回	恵の丘職員会議	全員	事業所・各部門の報告・課題検討、内部研修
月1回	経営運営会議	8	恵の丘3事業所全体の運営について検討
月1回	リーダー会議	5	各ユニットの報告・ケアの検討、リーダー研修
月1回	生産性向上委員会	5	サービス向上、ICT導入、人材活用等検討
月1回	各ユニット会議	10	利用者のケース検討、業務改善、ケア情報共有
月1回	看護ミーティング	5	看護・医務・相談援助間の情報共有
月1回	防災メンテ会議	4-5	防災対応、防災訓練の計画・実施、施設整備
年4回	感染対策委員会	6-7	感染症及び食中毒まん延防止の為の対策検討
年4回	褥瘡予防・ケア連携委員会	6-7	褥瘡発生のリスクの評価、徐褥瘡発生予防の対策検討。吸引等医療的ケアの安全な実施の検討
年4回	安全対策委員会（リスク・虐待防止・身体拘束適正化）	6-7	介護事故発生の防止、再発防止の対策の検討 虐待等の発生防止・早期発見・再発防止の検討 身体拘束の適正化のための対策を検討
年6回	運営推進会議	11	施設の運営実績の報告、地域との連携等の検討
月1回	高齢者事業部会	10	各事業所報告 他
月1回	施設管理者会	30	各事業所報告 他

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- ・日課：毎午後、新設内や施設周辺の植物を眺め、職員との会話も楽しみながら散歩。
- ・行事：感染症の蔓延もなく、昨年中止の楽笑会、芸能祭とも開催できた。
- ・ご利用者個々の願いに沿った企画を計画、実施した（河津桜花見ドライブ、お墓参り、室内ポーリング、チョコレートファウンテン、能満寺で家族と過ごす、ユニット合同体操、足浴ハンドマッサージ、地域祭典（山車）見学、新年会や運動会、つきたての餅を食べたい、カップラーメンを作って食べたい、切り絵を完成させたい、たい焼きを買いに出かけて熱々を食べたい）
- ・その他各ユニット毎で誕生日会・歓迎会・食事・デザート作り・ゲーム・散歩等を実施
恵の丘全体で七夕飾り・クリスマス飾りつけを行った。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして下記のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内容
年12回	理念の継承	全員	法人の理念を示唆してくれる書物や動画を活用して法人の理念の学びを深めた。

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して下記のことを行った。

- ・併設事業所含め施設内全体で協力し、七夕ロード・クリスマスロード等で四季を表現
- ・各委員会の合同開催で情報の共有
- ・毎月のユニット会議で職員同士、日頃の感謝を伝えあう時を持った。

3 研修報告

主催	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設	4/18	不適切なケアこれを行ってたらyoutube、夜間帯の対応について研修（確認）	17	10/17	吸引実施方法の確認及び注意点、倫理・法令順守、虐待防止/身体拘束防止	14
	計3回	法定新人研修	2	11/28	消火栓の使い方訓練	11

	5/16	介護現場における生産性向上について①、あなたはいつ手袋を替えますか、他人は思い通りにならない	15	11/28	感染症に係る業務継続計画、褥瘡って何ですか？	11
	6/11	おむつの当て方講習会	11	12/19	口腔ケア（個別入居者について） ノロウイルス疑いの対処方法について	15
	6/20	災害BCP読合せ、ノロウイルスの疑いのある吐物の処理方法について	14			
	7/18	パワハラ防止研修、体温の異常と熱中症、緊急やむを得ない身体拘束に関する認識	12	1/16	リスクマネジメントの取り組み、 看取りとは	15
	8/15	自身の介護を振り返ろう⑦認知症について、感染症に関するシミュ及びガウン等研修	15	2/20	口腔ケア（基本/共通） 身体拘束廃止フォーラム視聴	11
	9/19	情報公表対応編（リスクマネジメントとは）、同（個人情報保護）、災害BCP読合せ	16	3/20	災害BCP机上訓練（発災後6時間想定） コロナ感染の初動体制 感染症/食中毒のゾーニング、 陰部洗浄のやり方について、 ACP意思決定支援	10
				3か月に一度	理学療法士によるポジショニング指導	
法人	-	主任等研修	0	11/28	中堅職員研修	1
	3/4	防災研修	2	4/7	新年度研修	3
	-	新人オリエンテーション	0	-	1・2等級職員研修	0
				8/21	交通安全教室	1
外部	6月	認知症実践者研修	1	9月	ACPってなんですか	1
	7月	相談支援講習（通信）	1		入浴ケアの根拠	2
	7-12月	認知症実践リーダー…	1	10月	解剖学で座位を考える	1
	7月	アンガーマネジメント	1		ケアすることの根拠2	1
		認知症介護基礎研修	2		現場リーダーのための	2
		医療的ケア教員講習会	1		食事姿勢の基礎研修①	1
	8月	ケアすることの根拠1	2	11月	老化に伴う身体の変化	2
		老化とは	1		お茶の香 認知症ケア	1
		ボディメカニクスの…	1		基礎からわかるアセス	1
		ユニットケアを活かす	5		自分の介護を振り返ろう	1
		座り方次第で介護が…	1	12月	若年性認知症の方への	1
		認知症介護をポジ…	1		正しいテーブルの拭方	1
	9月	人手不足の本質を…	1		LIFE活用と災害…	1
		基礎からアセスメント	2	年間通	聖ルカ外国人新人研修	2

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内容	参加者
6/13 2/13	坂部ふれあいサロンにて遊びりテーション	2名ずつ
1年間	社会福祉法人等利用者負担軽減での施設サービス提供	利用者2~3名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
年6回	運営推進会議（書面会議1回、対面会議5回）	職員、家族・地域・行政代表
年1回	家族アンケートの実施	家族全員
毎月	グレイス便りの発送、利用者様状況個別報告	

G 苦情とその対応に関する報告・・・1件

日付	誰から	内 容	対応者
10/24	家族	ある職員のケアの仕方が粗雑だと本人から家族へ。	事務/相談員

- ・以前から対応に苦慮していた事案。即座に職員を他のユニットに移動させた。

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告（交通事故も別に記載）

事故	105	ヒヤリ	88	虐待	0	身体拘束	0
----	-----	-----	----	----	---	------	---

- ・内出血が最も多く事故で55、ヒヤリで27、次に多いのが事故で外傷20、ヒヤリは転倒転落20となっている。現在事故ヒヤリの分類を再検討している。

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況との関係などの報告

- ・防災訓練を7回実施。12月地域の訓練に参加。9月に台風後の竜巻災害が市内で発生。ライフラインの途絶複数日あり。火災地震以外への対策と逃げた後のBCPの必要を痛感した。より具体的な、対応対策の検討を行ってゆく。

J 環境整備に関する報告（100万円以上の修繕や改装など）・・・なし**K 収支状況、並びに、借入金返済状況**

1 収支状況（事業活動）

科目	2025年度決算	2024年度決算	増減
サービス活動収益計	171,867,783	169,510,445	2,357,338
サービス活動費用計	179,156,977	177,515,271	1,641,706
経常増減差額	△7,221,013	△7,918,325	697,312
特別増減差額	3,686,000	1,012,637	2,673,363
当期活動増減差額	△3,535,013	△6,905,688	3,370,675

※サービス活動収益の内、寄付金収益（10,000円） 坂部サロンから5000円×2回

2 借入金償還報告 なし

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や、指導監査等の報告、許可申請、その他）なし**M 実習生やボランティアに関する報告** 敬称略

坂部を愛する会（里やまの会）：2回（餅つき・門松の設置）
 榛原そば打ちの会：1回（新そばの製作実演とそばの提供）
 日赤奉仕団：3回 環境整備（草取り・清拭縫い・車椅子掃除・ウエス作り）
 さくら会、さくら組：2回（行事への協力）
 三浦孝：度々 施設内外の草刈りと花植え、肥料やり、剪定
 鈴木貴雄：1回 施設内外の草取りや行事手伝い
 インターンシップ生：10/2, 3 定時制榛原高生1名を受け入れた。

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

- ・看護師が最新感染症研修の受講をした。
- ・事故/ヒヤリ分類の再検討を行っている。

2025（令和7）年度 事業報告

養護老人ホーム
相寿園

A 2025 年度の目標と実績に関する振り返り

- 1 事業所の 2025 年度事業計画に関する報告
 ご利用者からの様々な要望に対して耳を傾け、話し合って支援を進めることができました。しかし、困難な要望に対しては、職員で話し合い方向性を決めて支援を行った。利用者の状態（ADL 低下など）に変化があった場合は、臨時の会議（主任・副主任・看護師）を開き、支援方法を検討・実施してきた。
- 2 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
 - (1) 「利用者自身の思いが反映された生活を送ることができるように、意思決定支援に努める」の計画については、利用者それぞれの思いに寄り添い、できる限り思いに沿った支援をできるように支援を行うことができました。
 - (2) 「個別支援計画（ケアプラン）は、利用者及び家族の意向を尊重した上で策定し、必要に応じて適宜見直すようにする」については、担当職員が利用者から聞き取り、計画に反映させて概ね実行できた。
- 3 「法人の当年度重点計画」に関連した計画（人材定着・職員育成・地域貢献）
 - (1) 「職員が希望を持ち、仲間とともに喜びが分かち合える職場を目指し、支援会議や職員会議等の様々な場で率直かつ真摯な話し合いができるように努める」については、会議参加職員が自由に発言できる雰囲気を作り、意見を集約して支援方法など検討できた。
 - (2) 「職員同士、今まで以上に思いやる気持ちを持ちながら、チームとして支援できるよう努める」については、法人の理念を毎月の職員会で確認。職員同士、感謝の気持ちを持って協力し合うよう伝えた。引き続き伝えていく。
 - (3) 「研修を多く取り入れて、専門性を高めて支援できるように努めていく」については、日程調整ができず研修機会が少なかった。来年度は、研修に参加できるように調整していく。
 - (4) 「職員それぞれの仕事量を確認して、時間を工夫して業務時間内で終わるように努める」については、部門に関係なく協力し合う環境にある程度なってきた。引き続き、部門ごとの業務見直しも含めて来年度の課題。

B 利用者と職員の状況

1 利用実績

措置入所定員	3月措置者数	短期入所定員	3月契約者数	延利用者数(年)	月平均	利用率(年)
50	28	5	3	18,250	731	48.1%
介護区分なし	要支援	要介護1~2	要介護3~5	知的障害	身体障害	精神障害
18	2	4	4	2	6	11

2 職員状況

	施設長	副施設長	主任	支援員	生活相談員	看護師	合計
実人数	1		1	8	2	1	
常勤換算	1		1	5.36	2	1	
	栄養士	事務員	夜勤専門員	宿直補助員			
実人数	1	1	4	4			21
常勤換算	1	1	2.02	2.02			14.91

3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	51 時間	最高残業時間	22 時間	有給休暇取得率	68.2%
-------	-------	--------	-------	---------	-------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者	内容
毎月1回	職員会議	全員	高齢者部会・管理者会の報告、理念の学習、ケース検討等
毎月1回	ケアプラン会議	全員	個別支援計画作成、見直し等
毎月1回	支援ミーティング	支援員全員	利用者の情報共有。支援のあり方についての検討。
毎月1回	支援会議	全員	行事計画策定、各部署からの報告及び検討事項の協議等
毎月1回	給食献立会議	栄養士、支援員、相談員、委託業者	食事に関すること全般について協議
年4回及び随時	身体拘束廃止委員会 虐待対応委員会と 同時開催	施設長、主任他	身体拘束が必要かどうかの検討・虐待防止チェック リスの実施等
年4回	感染予防対策 委員会	施設長、主任 他	看護師中心に、感染対策に関する勉強を行った。
年4回	事故防止対策委員 会	施設長、主任 他	事故報告を確認して、原因を探り対策を話し合った
毎月 1回	主任等会議	施設長、主任 他	部門・全体の課題を出して方向性を決定。支援会議で 報告

C 利用者の喜びのために工夫したいこと

- ・外出については、希望者を募って実施することができた。外出先では、会話も弾み
外出を楽しんでいる姿見られました。職員も有意義な時間を過ごすことができました。
誕生日外出は、継続的に実施できた。利用者に希望を募り、買い物などを楽しんで頂いた。
来年度も、誕生日外出を継続していく。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内容
毎月1回	理念の継承	全員	毎月の職員会議にて、実施した

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

- ・部署ごとで、大変な時は声を掛け合い協力することができた。
- ・支援方法の悩みなどは、支援ミーティングで共有して解決できた。利用者以外の悩み
に関しては、その都度個々で対応した。

3 研修報告

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
法人内研修	6/7	新年度研修	5名			
外部研修	8/4	チームワーク向上に貢献 できる職員になれるか	1名			
	10/23	レジリエンス研修	1名			
ZOOM 研修	6/30	管理者向け感染対策研修	1名			
	7/18	職員向け感染対策研修	4名			

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内容	参加者
随時	自主短期宿泊制度	毎月平均2名～3名利用
12月	地域防災訓練の集合場所として駐車場の提供	約60名の地域の親子が参集
年3回	相良小学校の資源回収に協力	段ボール等をまとめ車庫に保管

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
毎月1回	相寿園だよりを発行し、家族や関係機関に発送	約100部

※※2026年1月～たより発行を、4回に変更(1月・4月・7月・10月)

G 苦情とその対応に関する報告

報告なし

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告 (交通事故も別に記載)

事故	48	ヒヤリ	6	虐待	0	身体拘束	
----	----	-----	---	----	---	------	--

事故内訳：転倒(35件)利用者のADL低下によるケースが多かった。

薬関係(9件)内訳：落薬6件 誤薬3件 無届外出(3件)

破損(1件)

ヒヤリ内訳：額ぶつける怪我なし(2件) 無届外出未遂(2件) 転倒未遂(2件)

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

・防災訓練は、毎月1回(地震想定・火災想定・夜間想定)実施できた。

陽圧ユニット操作方法確認1回・設備関係の業者の点検時期に併せての訓練1回も実施できた。

・AEDの操作方法を、訓練後ユーチューブで確認した。

来年度、AED操作研修の実施を検討していきたい。

J 環境整備に関する計画 (100万円以上の修繕や改装など)

・なし

K 収支、並びに、借入金返済計画

1 収支報告(事業活動)

科目	2025年決算	2024年決算	増減
サービス活動収益計	108,808,317	109,583,405	-775,088
サービス活動費用計	111,392,540	112,542,845	-1,150,305
経常増減差額	-2,285,968	-2,674,185	388,217
特別増減差額	0	-1	1
当期活動増減差額	-2,285,968	-2,674,186	388,218

※サービス活動収益の内、寄付金収益(48,420円)

2 借入金償還報告

契約年月日、利率期間、金融機関、借入額、償還額残額 なし

L 主務官庁との関連

現時点では特に変化なし

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

・実習生：なし

・ボランティア：毎年4月に牧之原市人権擁護委員会のメンバーがひまわりの種植付け

N その他

9月コロナクラスター 利用者16名 職員4名

利用者退所数

新規入所者：7名 退所者：5名 短期入所(累計)：48名

短期入所から、入所へ繋がるケースが多かった。

関係機関の協力で、短期入所利用者数が増えた

9月にコロナクラスターになった。感染後、ADL低下により特別養護老人ホームへ移動された利用者2名

2025（令和7）年度 事業報告

通所介護
介護予防・日常生活支援総合事業
デイサービスセンター真菜

A 2025年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 目標について
大きな事故もなく、安全に過ごすことができた。利用者、家族の思いに寄り添い、できることは利用者に行っていたいただき、感謝の気持ちを伝えた。
- 2 事業報告
 - (1) LIFEのフィードバックを活用し、生活機能の維持・向上できるような活動を個別レクに取り入れ支援した。
 - (2) 送迎時に家族との対話を大切にし、利用者への感謝を伝えるよう心掛けた。
 - (3) タブレットの活用で記録に関しては多少改善された。
- 3 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告
職員会議で理事長から送っていただいた聖書について学ぶ機会を設け、自分の支援を振り返る時間を設けた。
- 4 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告
 - (1) 利用者の昼休みの時間を活用して、ゆっくり話を聴く機会を作り、活動に繋げた。
 - (2) 職員の目標「気持ちの良い挨拶をしよう！」を掲げ、自分自身の振り返りを毎月の職員会議で行った。
 - (3) 毎月の防災訓練を通して課題解決に取り組んだ。防災拠点で情報収集訓練を行うことができた。
 - (4) 生活困窮者への食糧支援、地域サロンの送迎、パステルアート体験を開催した。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	登録者数	増減	延利用者数	開所日数	一日平均	利用率
35	71	-3	8,133	307	26.5	75.7%

区分による利用者数

(実人数)

事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
4	7	8	23	10	8	9	2

(延べ人数)

事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
164	346	616	2,860	1,524	1,383	1,073	167

2 職員状況

	施設長	生活相談員	介護員	看護師	事務員	その他	合計
実人数	1	1	8	3	1	4	18
常勤換算	0.5	1.2	6.5	1.5	0.5	1.1	11.3
計画との差	△0.5	0	△0.6	△0.2	0	△0.2	△1.5

3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	551.75	最高残業時間	16時間	有給義務取得率	100%	有給休暇取得率	55%
-------	--------	--------	------	---------	------	---------	-----

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	職員会議	13名	10/18	法人防災委員会	1名
毎月	くもん月次検討会	8名	5/28・11/21	法人事務防止委員会	1名
毎月	DS会議	2名	毎月	業務改善委員会	5名
毎月	高齢者部会	1名	偶数月	ケース検討会	4名
毎月	施設管理者会	1名	3回	安全対策委員会	2名
4/25・10/24	法人苦情解決委員会	2名	奇数月	給食会議	1名

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- 1 行事については、手作り昼食やおやつ作りを毎月行い、利用者の活躍の場が増えた。洗い物も率先して行ってくれる利用者が増え、たくさんの感謝を伝えることができた。誕生日外出で東光寺へ藤を見に行ったり、アピタへたこ焼きを食べに行き大変喜ばれた。花ももの運動会やハロウィンパーティー、聖ルカの餅つきに参加し交流ができた。
- 2 日課については、歩行運動や下肢筋力の維持のための運動に力を注いだ。歩行運動は歩く距離が伸びた利用者が増えた。利用者のやりたいことができるよう支援した。カラオケ大会の開催や真菜芸術祭開催し表彰を行い大変喜ばれ、意欲向上に繋がった。畑で野菜を作りスイカやさつま芋がたくさん収穫できた。さつま芋はおやつを作ったり、切り干し芋を作り大変好評だった。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内容
毎月	理念の継承	全員	理事長から送付される聖句を輪読した。

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。

- 1 職員の目標「気持ちの良い挨拶をしよう！」を掲げ、コミュニケーションが円滑になるように声掛けを増やした。職員会議では情報共有と職員同士の意見交換が活発にできるようグループワークのグループに配慮したり、支援の振り返りができる機会を増やした。
- 2 ありがとうカードの活用はほとんどできなかった。職員同士の言葉遣いや、感謝を伝え合うよう心掛けた。

- 3 研修報告

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内研修	6/19	気づきの力向上研修	13	1/22	認知症研修	12
	8/21	虐待防止について	13	2/18	虐待・身体拘束研修	11
	10/16	支援について	10	12/11	DS 合同感染症研修	11
	11/20	入浴介助実践研修	11	12/16	相談員交流会	1
	12/18	防災机上訓練	11	2/12	DS 合同災害研修・シミュレーション	13
法人研修	6/7	新年度研修	3	8/21	安全運転講習会	1
	6/13	ハラスメント研修	1	10/7	新人オリエンテーション	1
	8/1	介護技術研修	2	2/19	中堅職員研修	2
施設外研修	5/21	BCPセミナー	1	7/28	生産性向上セミナー	1
	6/20	虐待研修（事業所連絡会）	1	9/2	安全運転管理者法定講習	1
	7/9	感染予防対策研修	2	2/5	くもんマスター勉強会	1
	7/18	くもんマスター研修	1	2/17	生産性向上フォローアップセミナー	1

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内容	参加者
4月～	サロンの送迎	職員 1名
6/2	平井農園ジャガイモ収穫手伝い	利用者 2名 職員 1名
10/22	平井農園さつま芋収穫手伝い	利用者 2名 職員 1名
10/2	オリーブ摘み	利用者 4名 職員 2名
10/14	生活困窮者のための食糧支援	職員 1名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内容	参加者
毎月	真菜だより発行	利用者家族・ケアマネ
3/7	介護者のつどい	利用者家族 12名 職員 4名
3/19	満足度調査	利用者家族・ケアマネ

G 苦情とその対応に関する報告

苦情：0件 ご家族との良好な関係づくりと、心配なことは早めに伝えるよう心掛けた。

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告（交通事故も別に記載）

事故	36	ヒヤリ	66	虐待	0	身体拘束	0
----	----	-----	----	----	---	------	---

事故：車輛事故3件 転倒・尻もち12件 行政報告：0件 前年度より16件減。立ち上がりや方向転換時の転倒や尻もちが多く、要因は見守り不足や注意不足が多い。

ヒヤリ：前年度より1件減。独歩で歩いていた、荷物の返し忘れ、転倒しそうになるが多く、要因は見守り不足や確認忘れが多い。

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

日付	内容	参加者
毎月	施設防災訓練	職員・利用者
11/5	法人全体防災訓練	職員・利用者 34名
2/12	DS合同 災害シミュレーション	職員 13名

J 環境整備に関する報告（100万円以上の修繕や改装など）

8/4,1/22 給茶機点検 5/17 乾燥機点検 10/20 ガス点検 9/4,3/11 消防設備点検

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2025年度決算	2024年度決算	増減
サービス活動収益計	77,984,219	76,056,137	1,928,082
サービス活動費用計	72,255,812	72,260,857	△5,045
経常増減差額	5,785,667	3,815,510	1,970,157
特別増減差額	2,543,279		2,543,279
当期活動増減差額	8,328,946	3,815,510	4,513,436

※サービス活動収益の内、寄付金収益（ ）

2 借入金償還報告

契約年月日	利率	期間	借入機関	借入額	償還額	残額
2022/3		20年	法人本部	22,000,000	8,000,000	14,000,000

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査等の報告、許可申請その他の報告）

特になし

M 実習生やボランティアに関する報告

実習生：7/25～26 静岡福祉医療専門学校 1名

オープンカンパニー：8/1 相良高校 8/21 榛原高校

インターンシップ：10/2,3 榛原高校

ボランティア：靈氣ヒーリング 柳本明日香様 3回 清水一企様 4回

舞踊等 あざみ会様 恵泉女学園様 8名 楽器演奏 田代和稔様

パステルアート 森 晴加様 ハーモニカ 村松淑乃様・廣田春美様 3回

畑整備・煉瓦運搬 吉田雅人様 かき氷手伝い 大石百華様 2回

ケーキ作り他 田塩理久様・脩様

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

1 創立27年

2 7/12、3/7 牧之原市介護者のつどいを開催した。

3 8月遺贈金で送迎車両購入

4 9/6 前日の竜巻で停電のため休業。

2025（令和7）年度 事業報告

認知症対応型通所介護
デイサービスセンターすずらん

A 2025 度の目標と実践に関する振り返り

- 事業所の 2025 年度事業計画に関する報告（総括）
認知症の理解を深めるために認知症の研修を増やし、認知症の症状の種類や対応方法、対応に困っている方の症状等をピックアップして行うようにした。研修への不参加の職員にもわかるような資料の配布を心掛けた。介護平均も 2024 年度は 1.5 だったのが、2.4 にあがっており認知症の進行もかんがえられる。より専門的な知識や対応が必要と感じた。
職員の転倒による労災が発生した。そのため、職員が欠けた状態での営業のため、職員への負担も大きくなってしまった。
- 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告
理事長からの聖句とメッセージを皆で共有し、共に生きるの意味を皆で考える時間をもうけることができた。また、未来検討会研修からの機関紙の配信も並行して読む時間をとることで、「ともに生きる」の意味をあらためて考える時間をもうけることができた。
- 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告
認知症研修を増やすことで、ご利用者様に対する対応の変化もあったが、個々の認知症の症状が悪化していることもあり、職員のストレスがたまる様子もあった。
個人目標の設定をし、個々の目標に向かい努力している様子がみうけられたが、面接での目標に対する評価等を伝える時間が短くなってしまい、職員への労いができなかった。
デイサービスセンター真菜との合同研修では、送迎時に被災した場合等のシュミレーションを行った。同じ通所での情報共有をすることで、道路等の災害状況が共有できることを知った。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
12	16	+1	308	2189	8.7	59.2%
要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
0	0	8	1	2	2	4

2 職員状況

	施設長	認知デイ 管理者	相談員	介護員	看護師	事務員	運転手	合計
実人数	1	(1)	1	6	1	1	0	10
常勤換算	0.1	(0.1)	1.0	4.44	0.025	0.2	0	5.765

3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	159 時間 30 分	最高残業時間	81 時間 15 分	有給休暇取得率	52.5%
-------	-------------	--------	------------	---------	-------

タブレットの導入もあり、記録入力時間が大幅に減った。

相談員の業務の時間を短時間でもとれるように配慮した。

職員の病欠等での交代要員がないため、有休の取得が思うようにできず、特定の人の負担も大きくなってしまった。

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者	内容
年 12 回	恵の丘職員会議	1 名	各事業所・部門からの報告、業務改善提案、研修

年 12 回	経営運営会議	1 名	恵みの丘施設全体の運営について検討
年 9 回	すずらんミーティング	全員	業務等、利用者状況の共有、各委員会報告、研修
年 12 回	DS 真菜との合同会議	米山	通所の BCP 見直し/感染症対策の検討・訓練/介護技術/事故の分析等
年 2 回	法) 事故防止委員会	米山	事故集計報告、各施設の取組、グループ事例検討他
年 2 回	法) 虐待防止委員会	米山	予防の為の取組報告、事例の報告・今後の対策
年 2 回	法) 苦情解決委員会	片山	苦情解決経緯・対応等の検討、第三者委員講評
年 2 回	感染対策等委員会	米山	感染症及び食中毒まん延防止のための対策検討等
年 10 回	防災メンテ委員会	片山	防災訓練の計画、実施 施設設備のメンテナンス 等
年 2 回	安全対策等委員会	米山	介護事故・虐待防止、身体拘束廃止の対策の検討
年 3 回	DS 合同食事委員会	1 名	献立・形態の検討、要望等、
年 6 回	レク SNS 委員会	1 名	毎月のレク報告、レク打ち合わせ等
年 2 回	運営推進会議	1 名	施設運営実績の報告、意見交換、

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

定期的に食事作りや作品作りを行うことで、手先の動きによる脳の活性化を図る事ができ、自ら案を出してくれる方も増えていった。独居の方も調理の意識が高くなったのか、自宅での食事作りを再開する人もいた。下肢筋力の強化については、認知症の症状の軽い方には声掛けや少しの介助で体力づくりができた。認知症の症状が進行している方でもできるだけマンツーマンで職員が対応できる時は、個別に柔軟体操等を取りいれて行うよう努力した。利用日数が少ない人ほど、体力の低下が著しくみられ、転倒も増えていたようだった。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認知式するための計画

日付	プログラム名	対象者	内 容
毎月	理念の継承	全員	ミーティングでサービス提供指針の読み合せ 本日と聖句の読み合わせ
		1～2 名	本日と聖句やを未来検討会研修からの機関紙等 等を黙読し、グループで感想を述べ発表

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して

今年は、職員の労災があり、職員にむけた転倒防止の研修をおこなったり、施設内の転倒等の危険箇所にステッカーを掲示した。認知症の症状が強くなる方への対応も 1 人ではなくチームで対応できるように声をかけあうようにし、ご利用者様への寄り添いだけでなく職員同士も寄り添うことができた。

3 研修報告

種別	日付	内 容	人数
施設内研修	毎月	感染症帽子・認知症・身体拘束廃止・虐待防止・ リスク対策・個人情報・倫理・法令遵守 BCP シミュレーション 等	1～2
DS 内研修	年 11 回	業務改善・認知症・アセスメント・不適切ケア 感染症・身体拘束虐待・防災訓練シミュレーション	全員

		ハラスメント・個人情報保護・倫理及び法令遵守 入浴研修 等				
法人研修	6/7	新年度研修	1	8/1	花もも支援者研修	1
	8/21	交通安全講習	2	12/3	防災研修	1
真菜 合同研修	年2回	自然災害(シミュレーション) 感染症研修(シミュレーション)				全員
施設外研修	5/21	事例から考えるBCP研修				1
	6/19	牧之原市虐待対応研修				1
	6/21	ACP「人生会議」研修				1
	7/3	生産性向上ビギナーセミナー				1
	7/25	BCP机上訓練 地震編				1
	10/23	BCP実践力アップ研修(感染症)				1
	12/18	BCP評価と見直し				
	1/23	LIFEの活用と現場から学ぶ				
	2/17	生産性向上フォローアップセミナー				
3月	身体拘束フォーラム					

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内 容		参加者
年1回	生活困窮者への食糧支援		全員
年2回	坂部ふれあいサロンにて遊びりテーション等		1名
2/5	インターンシップ企業セミナー 発表者		1名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容		参加者
年7回	すずらん便りの発行		全利用者・家族
年2回	運営推進会議		

G 苦情とその対応に関する報告

苦情なし

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告 (交通事故も別に記載)

事故	7	ヒヤリ	16	虐待	0	身体拘束	0
----	---	-----	----	----	---	------	---

労災：左手手首骨折

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

日付	項目	内 容	参加者
毎月	防災訓練	避難訓練、災害時食事提供訓練、消火訓練	職員全員対象
6/20	消防署立会防災訓練	防災訓練の立会い、消火器使用方法の説明、避難訓練に関する助言をいただいた。	職員全員対象 消防署職員
11/5	法人防災訓練	停電、断水想定、簡易トイレ等の使用方法と実践。情報伝達訓練を行った。	職員全員対象

9/5(金)竜巻発生による施設の被害は、停電あり。建物破損はなし。周辺の被害は細江地区を中心に家屋の倒壊等があった。すずらんご利用宅では大きな被害はなかったが、台風の影響でサービスが終了するケースがあった。

9/6(土)職員はグレイスの応援に入りつつご利用者の受け入れもおこなった。

J 環境整備 (100万円以上の修繕や改装など)

なし

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支状況 (事業活動)

科目	2025 年度決算	2024 年度決算	増減
サービス活動収益計	29,527,110	34,252,196	△4,725,086
サービス活動費用計	30,744,132	32,467,622	△1,723,490
経常増減差額	△1,215,172	1,784,594	△2,999,766
特別増減差額	0	△940,000	940,000
当期活動増減差額	△1,215,172	844,594	△2,059,766

※サービス活動収益の内、寄付金収益 (なし)

2 借入金償還報告

なし

L 主務官庁に関連した報告 (実地指導や、指導監査等の報告、許可申請、その他)

なし

M 実習生やボランティアに関する報告

ボランティア 三浦孝様 1年を通して、週1~2回程度
落合愛様 5/3 レクリエーション補助
さくら会 8/7 1/16 行事補佐
榛原蕎麦打ち愛好会様 10/10 6名 蕎麦打ち実演
坂部里山の会様 12/25 餅つき行事
落合こはく様 2/3 行事補助

実習生

職業体験榛原中学生 3名 9/25
インターンシップ榛原高校生 1名 10/2~10/3

N その他 (監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等)

ケアプランデータ連携システムの導入 3月

2025（令和7）年度 事業報告

訪問介護事業
介護予防・日常生活支援総合事業
ライフサポートさふらん

A 2025年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 事業所の目標「利用者・家族・職員に笑顔の花を咲かせたい」の目標達成のために“伝えあう事・繋がる事”を大切にしました。可能な限り住み慣れた地域で暮らし続けられる支援のため、利用者それぞれの状況や課題などの情報を職員で共有することができました。家族やケアマネジャーとの情報共有を行い、適切なケアに繋げることができました。
- 2 事業計画
 - (1) 地域で暮らせるための支援 ➡ 利用者や家族の要望や、ケアの中での気づきをサービスに繋げることで、総合事業対象者の方から終末期の方の支援まで対応できました。
 - (2) 職員の育成 ➡ 研修会開催や、実践での指導（同行訪問）をとおり職員の質の向上とケアの統一を図ることができた。
 - (3) 選ばれる事業所づくり ➡ よいケアの提供が出来たことの成果として、以前の利用者家族からの指名によって新規利用に繋がる事があった。また、丁寧な関わりが出来たことで、ケアマネジャーからの評価を受けることができた。しかし、適切な職員獲得が出来ず、依頼されたサービスを受けることが出来ない事があった。職員の増員が重要である。
 - (4) 職員がいきいきと働ける事業所づくり ➡ 風通しの良い事業所となるよう、スタッフ間の連携を図ることができた。職員間のコミュニケーションがよく、働きやすい職場であるとの評価もされた。
- 3 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
 - (1) 職員が法人理念を深く理解し実践できるよう、学びの機会を設ける。 ➡ 会議等で「わたしたちの願い」「サービス提供指針」の唱和を行った。法人開催の研修会に積極的に参加しました。
 - (2) 一人ひとりがかげがえのない存在である事を認識し、尊厳ある対応ができるよう職員育成を行う。 ➡ 会議等で「わたしたちの願い」「サービス提供指針」の唱和を行いました。
- 4 「法人の当年度重点計画」に関連した計画
 - (1) 自分の成長を実感でき、働きやすくて楽しい秩序ある職場をつくる ➡ 研修会開催や、実践での指導（同行訪問）をとおり職員の質の向上とケアの統一を図ることができた。職員同士が、他者を認め合い協力できる職場となっている。
 - (2) 有事に機能する防災体制を築く ➡ 机上でのシュミレーション訓練を行い、危険個所の確認やとるべき行動について話し合うことができた。さらに多くの場面を想定した実践的な訓練を行う必要がある。
 - (3) 地域のニーズを把握し、取り組むべきことに着手する ➡ 訪問している利用者のニーズ把握や要望の聞き取り、サービスの提供はできた。しかし、地域の具体的なニーズ把握をすることが出来なかった。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

介護			総合事業		自費	合計
身体	身体生活	生活	訪問型	緩和型		
3,267	1,206	442	1,130	198	103	6,346

2 職員状況

役職・職務	実人員	常勤換算	備考
施設長	1名	0.15	聖ルカホーム管理者兼務
ホームヘルパー	10名	—	正職員1名、パート1名 登録ヘルパー8名（他事業所兼務1名）
事務員	1名	0.25	聖ルカホーム事務兼務

3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	688時間35分	有給休暇取得率	59.69%
-------	----------	---------	--------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者	内容
毎月	経営会議	施設長、サービス提供責任者、事務員	施設運営全般、職員教育、課題解決等
毎月	職員ミーティング	全員	ヒヤリ・事故報告と検討、苦情報告、ご利用者状況の共有、研修報告、事務連絡、研修会

C 利用者の喜びのために工夫したこと

- ① サービス提供時、決められたケアを確実に実施しながら利用者からの要望を聞く機会として会話を大切にしました。そこからの気づきを、ケアマネや他職員と共有しました。
- ② 介護保険外サービスで受診付添、買い物など利用者の希望を支援
- ③ 終末期を自宅で過ごしたいと希望されたケアで、利用者や家族の気持ちを考え寄り添うことが出来た。「さふらんでよかった」との言葉をいただいた

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内容
各会議	理念の継承	全員	サービス提供指針の読み合わせ
各会議	職場の倫理	全員	サービス心得の読み合わせ
毎月	目標管理シート	全員	施設目標、部署目標、個人目標の達成度を毎月振り返り次月に繋げる

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。

職員会や各種会議では、全てのスタッフが発言できるような進行をした。小さな気づきや、感謝の言葉を発信できた。また、数年ぶりの職員交流の場を開催し、日頃顔を合わす機会の少ない登録パート同士の交流が出来た。

- 3 研修報告

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内研修	4/22	高齢者虐待	8	10/16	緊急時対応	9
	5/20	プライバシー権と個人情報	8	11/20	感染症対策	8
	6/19	熱中症	8	12/18	BCP訓練	9
	7/17・18	接遇	8	2/12	認知症、倫理法令	5
	9/18	介護記録、リスクマネジメント	9	3/19	介護技術	6
			その他	オンライン研修を受講		
法人研修	6/7	令和7年度 新年度研修	1	8/21	交通安全講習会	1
施設外研修	6/19	牧之原市高齢者虐待対応研修	1	8/7	在宅医療・介護連携に係る情報共有	1

	6/20	BCPのブラッシュアップ)	1	10月	従来型訪問介護事業所の運営のポイント	1
	7/25	要配慮者避難確保事業に係る説明会	1	12月	訪問時の急変対応	1
	8/8	サービス提供責任者の役割と、訪問介護計画書の作成の仕方	1			

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

- ①介護保険サービス以外のサービスを実施
- ②社会福祉法人減免

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内容	参加者
10月	ご家族アンケートの実施	ご利用者及びご家族

G 苦情とその対応に関する報告

なし

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告 (交通事故も別に記載)

事故	13	ヒヤリ	1	虐待	0	身体拘束	0
----	----	-----	---	----	---	------	---

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

ご利用者宅の自然災害などの予想状況を調査し、訪問時に災害があった場合のヘルパーの取るべき行動について話し合いを行った。

J 環境整備に関する報告 (100万円以上の修繕や改装など)

なし

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告 (事業活動)

科目	2025年度決算	2024年度決算	増減
サービス活動収益計	24,244,873	27,562,327	△3,317,454
サービス活動費用計	21,102,413	24,723,927	△3,621,514
経常増減差額	2,969,911	2,678,895	291,016
特別増減差額	△9,080,002	39,999	△9,120,001
当期活動増減差額	△6,110,091	2,718,894	△8,828,985

※サービス活動収益の内、寄付金収益 (0円)

2 借入金償還報告

契約年月日	利率	期間	金融機関	借入額	償還額	残額
2014.10.7	0.57545	10年	静岡銀行	5,000,000	1,463,700	3,191,900
2014.10.7	0.695	30年	島田掛川信用金庫	22,500,000	5,453,510	14,912,065

L 主務官庁に関連した報告 (実地指導や指導監査等の報告、許可申請その他の報告)

なし

M 実習生やボランティアに関する報告

なし

N その他 (監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等)

なし

2025（令和7）年度 事業報告

居宅介護支援事業所
シャローム

A 2025年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 事業所の目標
 - ・個人の尊厳の保持を旨とし、利用者の基本的人権を擁護し、これまでの人生の価値観を大切に、望む暮らしが営めるよう利用者本位の立場からの支援を心掛けた。
- 2 事業計画
 - (1) 利用者の意思決定に基づいた支援の提供のため、より丁寧にアセスメントを実施し、利用者の価値観や人生観を大切に、マネジメントを展開した。
 - (2) 地域共生を意識し、日頃から地域との関係構築に努め、インフォーマル支援を組み入れたケアプラン作成を実施。
 - (3) 必須研修以外、ケアマネの資質向上に繋がる研修受講を心掛けた。
- 3 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
 - ・法人理念を示唆してくれる書物を読み合わせ、理念に基づく支援を共有、実践した。
- 4 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告
 - ・職員教育に関し、常に情報共有や相談できる体制により実践の中での成長を促した。
 - ・平時からの防災に対する備えで有事の際には何とか対応できたが、課題もみえた。
 - ・重要事項等のウェブ上の公表、新しい事業所パンフレット使用で情報発信に努めた。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

2026.3月末現在

定員	契約者数	昨年比	開所日数	延利用者数	月平均	年間利用率
75.5	72.5	+9	242	744	62	82.1%
総合事業	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
0	8	28	16	7	11	3

※介護請求常勤換算 2 要支援1人=0.5とする

・今年度新規契約32件、御逝去等で終了25件、区分切替4件であった。

2 職員状況

	施設長兼管理者兼主任介護支援専門員	介護支援専門員	事務員	合計
実人数	1	1	1	3
常勤換算	1	1	0.05	2.05

※施設長 兼 主任介護支援専門員 1名

・主任介護支援専門員常勤換算0.9だが、介護請求常勤換算の1.0で稼働している。

3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	32時間30分	最高残業時間	32時間30分	有給休暇取得率	40%
-------	---------	--------	---------	---------	-----

・リフレッシュ休暇として有給休暇を有効的に活用することができなかった。

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者	内容
月1回	経営運営会議	栗林	恵の丘3施設全体の運営について検討
月1回	恵の丘職員会議	全員	各事業所・部門からの報告、業務改善提案、研修
年2回	感染対策委員会	栗林	感染症の予防・まん延防止のための対策を検討
年2回	虐待防止委員会	栗林	組織・指針の整備、研修、体制整備、防止策等
月1回	市)主任ケアマネ会議	栗林	ケアマネ育成・資質向上のための研修企画・講師
月1回	高齢者事業部会	栗林	事業報告、協議事項検討、等
年1回	市)ケアプラン点検	栗林	ケアプラン、地域課題の検証・助言・指導
年1回	市)介護予防ケアプラン会議	栗林	予防ケアプラン、地域課題の検証・助言・指導
月1回	施設管理者会	栗林	法人・事業所間の連絡、協議事項検討、等
年2回	法)事故防止委員会	栗林	事故集計報告、各施設の取組、グループ事例検討他
年1回	法)防災委員会	栗林	防災研修会、各事業所のBCPの共有等
年2回	法)虐待防止委員会	栗林	予防の為の取組報告、事例の報告・今後の対策、
年2回	法)苦情解決委員会	内藤	苦情事例の解決経緯・対応等検討、第3者委員講評

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- ・自立支援・卒業に向けたマネジメントで過剰なサービス利用を防ぎ、真の自立支援実施。
- ・身体機能向上だけでなく、役割の再獲得による「自信回復」を支援した。
- ・意思決定を尊重した多職種連携による在宅看取りの実現とグリーンケアの実施。
- ・権利擁護と品質管理（モニタリング成果）で不適切ケアを是正。ケア品質向上に寄与。
- ・困難事例への介入時でも意思決定を支援し、同時に介護者のレスパイトにも努めた。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内 容
月 1 回	理念の継承	全員	法人理念を示唆する書物の読み合わせとGW
6/7	新年度研修	栗林・内藤	基調講演「私のキリスト教社会福祉の基本」
7/15	市・新人ケアマネ研修	栗林	新人ケアマネ向け研修にて指導・助言
10/16	意思決定支援	栗林	ACPにおける多職種連携についての共有
5/2・12/12	オリーブ勉強会	栗林・内藤	介護予防ケアマネジメントについての指導・助言
12/16	相談員交流会	栗林・内藤	法人内相談員の交流会・GW

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。

- (1) 居宅会議の時間はとっていないが、研修や委員会の報告、法令確認、各サービスの情報共有、お互いのケースについての状況把握等を常に報告・相談しながら業務にあたった。特にケース検討については急を要する場合もあるため、速やかに対応策を話し合い、支援を提供した。

- 3 研修報告

種別	日付	内 容		人数		
施設内研修	年 12 回	感染症・認知症・身体拘束廃止、虐待、リスク、個人情報等		2		
法人研修	6/7	新年度研修	2	6/13	外岡先生・武田先生によるハラスメント研修	2
	7/16	地域の名士から学ぶ会	1	8/21	交通安全講習会	1
	10/15	地域の名士から学ぶ	1	3/14	防災研修	1
施設外研修	5/19	吉田町・牧之原市の現状とケアマネに求めること	2	5/12	訪問事業所向け 事例から考えるBCP研修	2
	6/19	牧之原市虐待防止研修	2	7/11	個別避難計画作成に係る福祉専門職への説明会	1
	8/7	在宅医療介護連携推進研修	1	8/8	主任ケアマネ対象事例検討会	1
	9/16	サテライト薬局のあり方と今後 災害時の薬局の動き	2	10/15	基幹病院との意見交換会	1
	10/20	ケアプランデータ連携と介護情報基盤について	1	11/13	事例検討会	2
	11/20	お茶の香みらく研修 認知症について	1	12/22	事例検討会におけるシステム理論の活用	1
	1/23	NDシステム ケアプランデータ連携システム	1	2/5	ケアマネの専門性を再確認シャドールワークについて	1
	2/6	心不全について	2	2/12	介護保険改正の行方を読み解く	1
2/19	牧之原市集団指導	2	3/6	システム理論を活用した事例検討・演習	1	

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内 容	参加者
月 1 回	地域課題の検討・取組（市・主任ケアマネ連絡会后）	栗林
7/18	地域ニーズ確認会議	栗林
9/16	サテライト型在宅介護連携・薬剤師との交流	栗林・内藤
11/15	牧之原市医療介護連携、基幹病院との情報交換会	栗林・内藤
10/17	榛原地区民生委員との災害時対応勉強会	栗林・内藤
2/30	相良地区民生委員との交流会・事例検討	栗林・内藤
年 2 回	坂部ふれあいサロンにて遊ビリテーション	栗林・内藤
年 1 回	生活困窮者への食糧支援	栗林・内藤

- ・牧之原市主任ケアマネ連絡会にて地域課題を検討、利便性向上・改善を実施した。
- ・民生委員、地域住民等の支援者や、移動スーパーなどインフォーマルサポーターとして支援頂けるよう、積極的にコミュニケーションを図り、関係構築に努めた。

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
月 1 回	全利用者宅訪問（状況に応じ月 1 回以上）	栗林・内藤

- ・月 1 回のモニタリング訪問以外、サービス利用に関する調整、入退院時の調整、介護における相談や助言等を電話対応だけでなく、状況に応じて訪問し対応している。

G 苦情とその対応に関する報告

- ・定期的な委員会を得た事例や情報等を事業所内でも検討し共有。サービスの質や信頼性向上に努めている。
- ・平時より傾聴と受容を心掛け、本人や家族、事業所等との良好な関係構築に努めた。

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告（交通事故も別に記載）

事故	0	ヒヤリ	0	虐待	0	身体拘束	0
----	---	-----	---	----	---	------	---

- ・8/21 交通安全講習会に参加し、交通事故がないように努めている。
- ・定期的な委員会を得た事例や情報を事業所内でも検討し共有。類似事故やヒヤリが発生しないよう努めている。
- ・虐待防止や身体拘束廃止に関する研修で理解を深めたり、風通しの良い職場環境で常に相談しあうようにしている。

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

- (1) 恵みの丘事業所として可能な限り防災訓練に参加。BCPの見直しや安否確認一覧の見直しを実施。
- (2) 9/5に発生した竜巻を受け、市内状況と安否確認、被災者支援、独居世帯の対応を中心に支援。同時に竜巻による停電発生のためグレイスへの協力支援を実施した。
- (3) 牧之原市より個別避難計画作成依頼があり、依頼数 17 件中作成同意者 10 件の避難計画を作成した。

J 環境整備に関する報告（100万円以上の修繕や改装など）

なし

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2025 年度決算	2024 年度決算	増減
サービス活動収益計	9,139,290	7,932,880	1,206,410
サービス活動費用計	13,065,729	10,485,347	2,580,382
経常増減差額	△3,926,439	△2,552,467	△1,373,972
特別増減差額	1,300,000	2,366,089	△1,066,089
当期活動増減差額	△2,626,439	△186,378	△2,440,061

※サービス活動収益の内、寄付金収益（なし）

- ・今年度目標稼働率 80%に設定。年間平均 82.1%であった。8月 74.2%、12月 96.7%と開きがあるように、ご利用者様の体調により稼働にも大きく影響がみられる。
- ・介護報酬以外に個別避難計画作成報償費の支給を受けた。

2 借入金償還報告

なし

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や、指導監査等の報告、許可申請、その他）

- ・7/1に実施した運営指導の結果、指摘事項なし、助言事項なし。
- ・令和 7 年度特定事業所集中減算に関する届出書（前期・後期）を作成。80%超サービス事業所はなく、減算なし。

M 実習生やボランティアに関する報告

- ・ケアマネジメントにおいて、地域のボランティアとも連携しインフォーマルな支援と位置付けて支援した。

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

- ・監事監査指摘事項なし。請求業務に関する内部監査にて指摘事項なし。
- ・8/25 遺贈式 故山本八重様のご遺贈により公用車を使用させて頂けることになった。
- ・ケアブランドデータ連携システムの運用の準備が整い、来年度より本格的に実施予定。

2025（令和7）年度 事業報告

牧之原市地域包括支援センター
オリーブ

A 2025年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 事業所の目標
 様々な研修や職員同士の切磋琢磨を通して、職員の人間性を養うと同時に専門性を深め、質の高い支援ができる事業所を目指す。
 ⇒専門的な研修以外に関連する研修を受講でき、幅広い視点を持つことができた。
 質の高い支援までには至らなかった。
- 2 事業計画
 チームワークを育み、働きやすい職場を目指す。そのためには休暇取得がしやすい職場、残業時間の少ない職場にする必要がある。職員の知恵と工夫で業務改善をはじめ、様々な取り組みに挑戦する。
 ⇒職場内で活発な意見交換ができる雰囲気にはなりつつある。働きやすい職場環境については今後も業務改善を継続していく。
- 3 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
 職員が法人理念を深く理解し実践できるよう、学びの機会を設ける。
 ⇒職員会議において「理念」「行動指針」「わたしたちの願い」の読み合せをした。
- 4 「法人の当年度重点計画」に関連した計画
 - (1) 利用者や家族の声に耳を傾け、浮かび上がる地域ニーズを把握し、課題解決に向けた取り組みを行う。
 ⇒介護予防事業（実態把握）を通じて、個別のケースから地域ニーズの把握に務めた。
 - (2) 現在のBCPを職員間で周知し、より実践的な計画となるよう更新していく。
 ⇒BCPの見直しについて次年度以降取り組んでいきたい。

B 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標と実績

	プラン件数 (年)	実態把握訪問 (年)	介護予防啓発 (年)	地域介護予防活動支援 (年)
目標	2040件	140件	15件	15件
実績 (達成率)	1592件 (78%)	140件 (100%)	15件 (100%)	1件 (6.7%)

2 職員配置

	施設長	社会福祉士	保健師	主任ケアマネ	ケアマネ	主事	事務員	合計
実人数	1	2	1	0	2	3	1	10
常勤換算	1	2	1	0	0.92	2.5	0.37	7.79

※市から求められている配置数 3職種：3.7人工とプランナー：3.5人工 合計7.2人工

3 残業と、有休休暇取得に関して

- (1) 業務改善等により残業時間を前年度より減るよう努めた。
- (2) 有給休暇を取得しやすい職場となるよう啓発と管理をした。

年間総残業時間	907H	年間個人最高 残業時間	360H	有休義務取得率	100%	有給休暇取得率	68.898%
---------	------	----------------	------	---------	------	---------	---------

4 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	内容
毎月第3火	職員会議	行事計画、ヒヤリ事故報告・利用者ケース検討 出張報告・事業進捗・検討事項・研修等

毎月第1火	権利擁護検討会	ケース検討
年6回	高齢者障がい者連絡会	ケース検討
第2水曜日	(法)高齢者部会	高齢者部門管理者で事業報告・課題検討など
第2水曜日 第4水曜日	支援センター連絡会	第2：事務連絡会、 第4：ケース検討会
年2回	(法)事故防止検討委員会	事故防止に向けた検討
年2回	(法)苦情解決委員会	各施設の事例報告、再発防止や対応についての検討
年2回	(法)虐待防止委員会	虐待の根絶を目指し、各事業所の取り組みの現状について情報交流を行う。

C 利用者の喜びのために工夫したこと

- ・毎月機関紙「ええあんばい」を発行。市内在住の高齢者の投稿作品を掲載した。
- ・利用者の特性を十分に活かしたプランをたてた。

D 職員の喜びや成長のために実現したこと

- 1 法人職員として共通目標を認識する。
⇒職員会議で法人の理念、行動指針、私たちの願い等の読み合わせを行った。
- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画
⇒日常業務の中で、職員個々の思いを互いに共有した。
- 3 研修計画

種別	内 容	内 容	内 容
施設内研修	虐待予防	災害・BCP	個人情報の取り扱い
	ハラスメント	感染症	
法人研修	新年度研修	主任等研修	虐待予防研修
施設外研修	県マネジメント講座	二段階方式	成年後見人制度
	課題整理総括表	地域ケア会議	虐待
	包括基礎研修(国)	包括現任者研修	認知症関連研修

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

- ・民生委員との年1回の定期面談を実施。また、毎月実施されている定例の民生委員協議会では、会議の前にやまぼとパンの販売を通して、顔の見える関係作りを続けた。

F 家族との連携、交流、連絡などに関連して

- ・プラン作成時、家族の意見を確認し、計画に反映させるよう努めた。
- ・複雑化する家族関係を把握し、家族を含めた利用者理解につながるように努めた。

G 苦情について対策（前年度を振り返って考える事）

苦情 1件

2025年6月25日折り返えしの電話が遅く利用者家族を怒らせてしまった。

兼務職員の勤務を把握できていないことが原因。兼務職員の勤務をホワイトボードに記入し、わかりやすく表示した。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

- (1) 事故：多角的に分析を行い、再発予防に努めた。
- (2) ヒヤリハット：要因分析を継続し、事故防止に努めた。
- (3) 虐待防止：包括主催の研修を実施、参加した。

事故	1件	ヒヤリ	0	虐待	0	身体拘束	0
----	----	-----	---	----	---	------	---

(4)

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

- 1 作成されたBCPを習得できるよう事3包括合同で研修を実施、参加した。
- 2 市、法人主催の防災訓練に参加した。

J 環境整備に関する計画 (施設定期点検や100万円以上の修繕や改装など)

なし

K 収支、並びに、借入金返済計画

1 本年度の収支計画 (前年度の収支状況との関連)
牧之原市の委託契約に沿った運営を行う。

2 借入金償還計画
なし

科目	2025 年度決算	2024 年度決算	増減
サービス活動収益計	45,075,727	44,502,756	569,971
サービス活動費用計	42,799,381	42,697,012	102,369
経常増減差額	2,548,554	1,813,997	734,557
特別増減差額	0	0	0
当期活動増減差額	2,548,554	1,813,997	734,557

サービス活動収益のうち、寄付金収益 (0 円)

L 主務官庁との関連

日常の具体的業務で連携を図った。

M 実習生やボランティア

実習やボランティアの要請があれば、その都度対応する。

N その他 (監事監査指導事項への対応など、特に記すべきことなど)

2025（令和7）年度 事業報告

付属明細書

該当なし